

**児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業
報告書**

平成 22 年 3 月

観光庁

目 次

1 事業概要	1
1-1 背景と目的	1
2 観光地域づくり人材育成シンポジウム	2
2-1 実施概要	2
2-2 開催記録	4
3 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業	44
3-1 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業の概要	44
3-2 モデル地域と取り組み概要	45
4 児童・生徒によるボランティアガイド手引き書	48
4-1 児童・生徒によるボランティアガイド手引き書の作成	48
4-2 児童・生徒によるボランティアガイド 指導者向け手引き書 ...	48
4-3 児童・生徒によるボランティアガイド 児童・生徒向け手引き書	49
(1) 指導者向け手引き書	50
(2) 児童・生徒向け手引き書	58

参考資料

1 事業概要

1-1 背景と目的

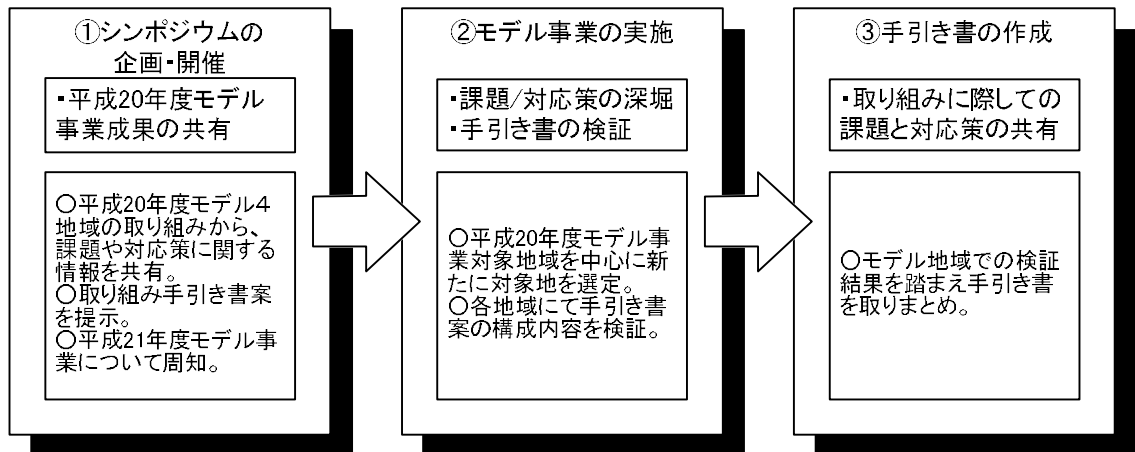
観光立国推進基本計画では、政府が総合的かつ計画的に講ずべき施策の一つとして「観光地域づくり人材の発掘と活用」が掲げられている。また、各地域においても観光まちづくりの担い手となる人材の重要性が認識されつつあり、観光産業従事者、地方行政スタッフ、地域住民等々、多彩なプレイヤーが果たす役割を踏まえ、その人材育成の取り組みも進められつつある。

この中でも特に「児童・生徒」については、自らの地域に対して愛着を持ち他地域からの旅行者を受け入れる側として、また、旅行者となって他地域を訪れる側として、観光立国を将来にわたって支える主体となることが期待されることである。

各地域においても、成人によるボランティアガイドの延長線上で、あるいは学校における地域学習の延長線上で、それぞれ児童・生徒による地域のガイディングに取り組もうとする動きが見られるが、そのためのノウハウはまだ十分に蓄積・共有されていない現状である。

そこで本事業の実施にあたり、平成19年度の調査事業（全国の先進事例調査等）、平成20年度の普及促進事業（シンポジウムの開催、モデル地域での実証事業等）の成果も踏まえ、①シンポジウムの開催による取り組み課題の共有、②平成20年度につづくモデル事業実施を通じた課題と対応策の深掘り、③モデル事業成果を踏まえたノウハウの共有（手引き書の作成）に取り組むものとする。

本業務の実施概要を以下に示す。



2 観光地域づくり人材育成シンポジウム

2-1 実施概要

本事業では、各地の観光地域づくりを担う幅広い人材の育成・活用を図るため、「観光地域づくり人材シンポジウム」を開催した。

本シンポジウムでは、観光地域づくりを目指す各地域で課題となっている情報の格差を是正するため、情報のプラットフォームづくりを目指し、観光地域づくりのための人材育成に関する先進的な事例を紹介して、地域相互のさらなる連携を目指した。

具体的な内容としては、平成20年度において「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業」に取り組んだ全国4つのモデル地域が報告を行い、それぞれの成果と課題について共有を図った。

また、先進的な「観光地域づくり人事育成プログラム」を実践している3地域からの事例紹介を行ったほか、異業種や若い世代の立場などから「新たな担い手による観光地域づくり」に取り組む4名の実践者によるパネルディスカッションを実施した。

- ・開催日時：平成21年6月5日(金) 13:00～18:00
- ・会場：三田共用会議所1階 講堂 (東京都港区三田2-1-8)
- ・参加者：320名(自治体・観光協会97名、観光関連団体23名、企業92名、教育機関21名、関係省庁等33名、その他54名)



・プログラム：

(平成 21 年 6 月 5 日現在)

- 13:00-13:05 開会挨拶 (観光庁 長官 本保 芳明)
- 13:05-13:20 会議開催主旨説明 (観光庁 観光資源課 課長 水嶋 智)
- 13:20-14:05 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業実施報告
- ・児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業概要説明
(観光庁 観光資源課 課長補佐 竹谷 健治)
 - ・モデル事業実施報告
モデル地域：北海道松前町、青森県八戸市、滋賀県湖北町、鹿児島県鹿児島市
- 14:15-14:45 講演 『観光地域づくりの担い手の育成』
株式会社ジェイティービー常務取締役・立教大学 観光学部 特任教授 清水 慎一氏
- 14:45-16:20 プレゼンテーション：人材育成プログラム先進事例紹介
- ・観光地域づくり人材育成支援施策の説明
 - ・観光地域プロデューサー事業概要説明 (観光庁 観光資源課 課長補佐 川島 雄一郎)
 - ・観光地域づくり人材育成の取組みに関する調査結果報告
(観光庁 観光資源課 課長補佐 竹谷 健治)
 - ・先進事例取組み紹介
報告者
やまがた観光まちづくり塾
川口 直木 氏 (やまがた観光まちづくり塾 塾長)
西堀 公司 氏 (山形県 総務部 秘書広報課 広報室 広報戦略主査)
南房総観光カレッジ
大社 充 氏 (NPO法人グローバルキャンパス 理事長)
熊井 成和 氏 (館山市 経済観光部 商工観光課 観光プロモーション室 担当課長)
富士河口湖町 観光まちづくりカレッジ
小佐野 常夫 氏 (観光カリスマ・NPO法人富士山地域創造 代表理事)
花岡 利幸 氏 (富士河口湖町 観光課 観光地域プロデューサー)
- 16:30-17:45 パネルディスカッション：新たな担い手による観光地域づくり事例紹介
- パネリスト
- 島 康子 氏 (青森県下北郡大間町 まちおこしゲリラあおぞら組 組長)
 - 島田 昌幸 氏 (千葉県富津市 観光地域プロデューサー)
 - 木村 美穂 氏 (静岡県伊豆の国市 観光地域プロデューサー)
 - 宇田川 育美氏 (鳥取県米子市 皆生温泉旅館組合青年部・皆生つるや 若女将)
- コーディネーター
水嶋 智 (観光庁 観光資源課 課長)
- 17:45-17:55 会議総括 (観光庁 観光資源課 課長 水嶋 智)
- 17:55-18:00 閉会挨拶 (観光庁 観光地域振興部 部長 大黒 伊勢夫)

2-2 開催記録

<開会挨拶> 観光庁 長官 本保芳明

観光地を支えているのは人材であり、その人材を育成する主旨で、昨年6月に最初の観光地域づくり人材育成シンポジウムを開催した。本日は300名以上の方々にお集まりいただき、皆様の交流・意見交換を通じた新しい動きを期待している。

各地域の発表に触発されて、人と人のネットワークが構築され、次の展開につながる事が重要であり、本シンポジウムがその契機となることを期待している。



<主催者主旨説明> 観光庁 観光資源課長 水嶋智

本シンポジウムのテーマは「観光地域づくり人材」である。地域づくりは地域の皆さんが主人公である。そこに国がどのような形でサポートできるかとかいうことを考えた結果、地域で直面している課題解決のための先進地事例紹介に代表される情報提供やネットワーク構築の場として、本シンポジウムを開催させていただくことになった。

本シンポジウムでは、4地域の子供ボランティアガイド事例の発表、先進的な事例の紹介、観光地域づくりの新たな取組み等をご紹介させていただく。

観光と交流を通じてこの国を元気にしていきたいという思い、足で一先懸命稼いで集めてきた情報、全国各地で構築された人々とのネットワーク、この三つだけは他の官公庁に負けないという自負がある。本日まで出席の皆様には、本シンポジウムで何かを掴んでいただき、明日の観光地域づくりに役立てていただければ幸いである。



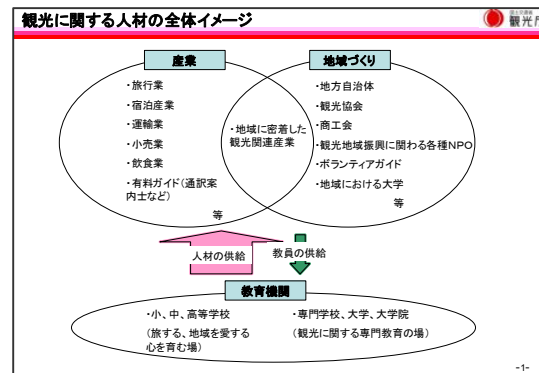
●発表資料

観光地域づくり人材シンポジウム

観光地域づくり人材シンポジウム
<会議開催趣旨説明>

観光庁 観光資源課長 水嶋 智
平成21年6月5日

観光庁
Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism



観光地域づくりとその担い手についての従来のイメージ

地域	<ul style="list-style-type: none"> ○各地域横並びの観光地域づくり ○地域におけるリーダーシップは地方自治体(官)中心
国	<ul style="list-style-type: none"> ○各種補助金等、具体的な事業に注目した地域づくり支援 ○人材育成については各地域まかせ

観光地域づくりとその担い手についての状況の変化

観光の形態の変化や観光立国推進の動きによる状況の変化が生じている	
地域	<ul style="list-style-type: none"> ○官主導の観光協会等の非効率の顕在化 ○NPO等の民間主導の地域づくりの動き ○地域間の差が顕在化 ○他地域の先進事例を学ぶ必要性の増加
国	<ul style="list-style-type: none"> ○人材の育成・確保について一部直轄で支援実施 ・観光カリスマ塾の開催によるノウハウの普及 ・観光地域プロデューサーの派遣

観光地域づくりの担い手についての今後の方向性

新しい役割分担

地域	<ul style="list-style-type: none"> ○地域主導の自主的・自律的な人材育成 ○地方自治体における専門家の養成 ○地域における産学官連携強化
国	<ul style="list-style-type: none"> ○地域における自主的・自律的な人材育成を支援 ・情報やノウハウの提供、先進事例の紹介等 ・地域における関係者の連携支援 ・各地域相互のネットワーク化(学び合い)支援 ・外部人材の紹介・マッチング

観光地域づくり人材育成シンポジウムの開催(平成20年6月11日)

観光地域づくりに関する人材を育成する取組みの支援について

・より厚い人材育成が実現していくためには、各地域における観光地域づくり人材育成の動きが、それぞれ自発的に参画しているような環境整備が必要。

・各地で人材育成に取り組む団体や組織が、課題や先進事例に関する情報を共有・交換することにより、情報やノウハウ不足を解消できるような機会を提供。(観光に関する人材を育成する取組みのネットワーク化)

観光地域づくり人材育成シンポジウムの開催(平成20年6月11日)

・地域において観光地域づくりに関する人材の育成を効率的に実施するため、以下の2点を中心に会議を構成

①観光地域づくり人材育成の促進に関するパネルディスカッション
②児童・生徒による観光地域づくりへの参加に関するパネルディスカッション

・地方自治体や企業・産業団体、NPO・財団・社団、教育関係から269名が参加。

●本シンポジウムの成果を受けて、以下の施策を実施

①「観光地域づくり人材育成支援メーリングリスト」の創設による情報の共有化
②「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業」の実施による課題や成果の抽出

観光地域づくり人材シンポジウム開催趣旨

- 平成20年度に実施した「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業」の実践事例の報告を行う。
- 各地域で課題となっている情報の格差を是正するため、観光地域づくりのための人材育成プログラムに関する情報のプラットフォームづくりを目指し、先進的な事例を紹介する。
- 若い世代や異分野の立場から「新たな観光地域づくりの担い手」が活躍している事例を紹介し、次代の観光地域づくりを支える人材の育成について意見交換を行う。
- 観光地域づくりを目指す地域の出会いの場を提供する。

観光地域づくり人材シンポジウム構成

● 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業実施報告
児童生徒によるボランティアガイド普及促進事業概要の説明
平成20年度に実施したモデル事業に参加した4地域の取組みの報告

● 講演:観光地域づくりの担い手の育成
(株式会社ジェイティービー 常務取締役・立教大学観光学部特任教授 清水慎一氏)

● プレゼンテーション:人材育成プログラム先進事例紹介

① 観光地域づくり人材育成支援施策の説明
観光地域プロデューサーについて事業概要の説明
平成20年度に実施した観光地域づくり人材育成の取組みに関する調査結果の報告

② 「取組みの紹介」
先進的な観光地域づくり人材育成プログラムを実践している3地域からの紹介

● パネルディスカッション:新たな担い手による観光地域づくり事例紹介
異業種や若い世代の立場で観光地域づくりを実践している事例の紹介と意見交換

● 交流会

<ボランティアガイド実施報告> 観光庁 観光資源課 課長補佐 竹谷健治

児童生徒によるボランティアガイド普及促進事業の経過と今後の取り組みについてご説明申し上げます。

子供たちの旅をする心、地域を愛する心を育てるという取り組みや教育が多方面で行われている。観光庁では、実際に子どもたちに教育するだけでなく、教育を受けた子供たちが習ったことを大人相手に実践する場として、児童生徒によるボランティアガイド事業を昨年来取り組んできている。



本事業の経過は、平成19年度に先進事例調査を行い、昨年6月11日にシンポジウムで新しい事業として皆様にご紹介し、モデル事業実施団体を募集し、4地域の方々から昨年度3月までモデル事業を実施していただいた。また並行して全国でのアンケート調査を行った。

今年度はこの事業を全国展開するためにモデル地域を10地域に増やし、モデル事業を本格的に実践に移していきたいと考えており、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

●発表資料

観光地域づくり人材シンポジウム

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業概要説明

観光庁 観光資源課
課長補佐 竹谷健治
平成21年6月5日

子供達の「旅をする心」「地域を愛する心」の育成

観光立国を実現し、次代の地域の担い手を育成するためには、子供達の「旅をする心」、「地域を愛する心」を育む取組みが必要。

都道府県等の取組

観光立国推進団体の取組

教員の自主サークル(TOSS)の取組

第1回観光立国教育全国大会

観光甲子園

児童・生徒によるボランティアガイド

・観光庁では、子供達に「旅をする心」、「地域を愛する心」を育む実践的な教育として、「**児童・生徒によるボランティアガイド**」の取組みを推進している。

・平成19年度に「児童・生徒によるボランティアガイド活動の先進事例調査」を行い、平成20年度には、関係団体への調査を実施すると共に、全国4地域(北海道・松前、青森県・八戸、滋賀県・湖北、鹿児島県・鹿児島)において普及促進モデル事業を実施し、成果と課題等について検討を行った。

平成20年度「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」

11月～1月 全国アンケート調査

6月 観光地づくり人材育成シンポジウム

9月～3月 モデル事業

3月 モデル事業検討会

報告書の作成

【成果】
・学習意欲向上
・交流の促進
・住民の意識向上

【課題】
・教育機関との連携
・ノウハウの共有

全国の都道府県・市町村・観光地団体等にアンケート調査を行い、各地域での「児童・生徒によるボランティアガイド」の実施状況や実施にあたっての課題等を把握。

児童・生徒によるボランティアガイドの先進事例の紹介、関係者によるパネルディスカッションを行い、ガイドを実施する上での課題の抽出や意見の交換が図られた。

新規に「児童・生徒によるボランティアガイド」に取組もうとする地域を公募し、全国4地域においてモデル事業を実施。

モデル事業実施地域担当者による意見交換を行い、今後のガイド普及にあたっての課題や普及策を検討。

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業モデル事業

<p>北海道松前町 松前町ツーリズム推進協議会</p> <p>対象：高校生 ・松前高校の課外授業として「史跡ガイド講座」を実施。 ・地元観光関係者と一般市民を対象とした検定試験を行い、合格者は検定においてガイド活動を実施。</p>	<p>青森県八戸市 (社)八戸観光コンベンション協会</p> <p>対象：中学生 ・中沢中学校の総合学習で実施。 ・市内体験施設(山の美術館)の体験指導を通して、参加者に地域の歴史・文化を案内。 ・学習の成果として、手込んだ内容を紹介する手作りパンフレットを作成。</p>
<p>滋賀県湖北町 湖北町教育委員会</p> <p>対象：小学生 ・町内4つの小中学校(朝日小学校、湖北中学校、小谷小学校、遠水小学校)において実施。 ・琵琶湖に飛来してくる野鳥についてガイド活動や、児童手作りのガイド用資料・観光コースマップ作成を実施。</p>	<p>鹿児島県鹿児島市 鹿児島県石橋記念公園NPOがこしき児童会の会</p> <p>対象：小学生 ・石橋記念公園で組織している「子ども学芸員」の中で募集を行い、NPOがこしき児童会の協力を得て、「秋のお祭り」の中で公園内の石橋や史跡等の案内を実施。 ・冬休みや春休みにもガイド活動を実施している。</p>

「モデル事業」に参加した児童・生徒とガイド利用者等の意見(抜粋)

児童・生徒

・今までどうでも良いと思っていたことが、この活動を通して知ることができ、理解することで段々楽しいと感じるようになりました。(松前町)

・心算の最後にこのボランティアガイドができてよかったと思います。一審うれしかったことは、説明した時にお客さんがわかったような感じがすることです。最後になんか「ありがとう」と言ってくれました。うれしかったし、人の役に立てたんだなと思いました。いい経験になりました。(湖北町)

ガイド利用者

・自分の子ども時代には考えられないことでガイドを実施する子供達は尊敬に値する。(松前町)

・地域の元気が伝わって、自分も元気ももらった。(八戸市)

・自分たちの町の歴史を知ることほとても素晴らしいことで、それをガイドするというアイデアに感心しました。本当にしっかりとガイドしてくれて助になりました。(鹿児島市)

保護者

・毎週、帰るとその日の勉強会やガイドの様子を娘にそうに話し家族に授業してくれます。異年齢の集まりで指導や説明も大変だろうと感じるばかりです。ありがとうございます。(鹿児島市)

モデル事業実施団体

・実際に現場で活動しているガイドも、子どもたちの姿勢を見て、改めてガイドの基礎から学習して自分達のレベルを高めなければならぬと感じさせるようになっており、市全体のボランティアガイドのスキルアップ、そして達成に大きく貢献した。(八戸市)

・子どもたちは、ボランティアガイド活動をやり続けた満更感と人の役に立てた喜びを感じることができた。また、次への意欲も十分に感じられた。成長期の子どもたちにとって、ふるさとを基盤として人と人とに交わり、自己有能感を育てていけることの意味は、大きいと考える。(湖北町)

平成21年度児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業モデル事業の募集

・平成20年度のモデル事業や検討会から得られた知見を踏まえ、「**手引き書構成(案)**」を作成。(報告書参照)

・平成21年度の**モデル事業実施地域10箇所を募集**中。(応募締切 6月30日 募集要項参照)

・モデル事業実施地域の協力を得て「**手引き書構成(案)**」を検証し、「**報告書向け**」及び「**児童・生徒向け**」**手引き書を作成**する。

<p>指導者向け手引き書構成(案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業の目的と意義 ①具体的な事業の目的と目指す方向性 ②事業の意義と期待される効果 2. 事業を実施するための必要な環境づくり ①実施主体となる団体 ②実施に必要となる人材 ③実施に必要となる設備 ④その他実施に必要となる環境 3. 事業の具体的な実施方法について ①ガイドの募集方法 ②ガイドの研修内容 ③ガイドの検定試験 ④ガイドの検定試験の合格者 ⑤ガイドの検定試験の不合格者 ⑥ガイドの検定試験の合格者の育成 ⑦ガイドの検定試験の合格者の育成 ⑧ガイドの検定試験の合格者の育成 4. ガイドをする際の注意点 ①実施主体がガイドを実施する ②実施主体がガイドを実施する ③実施主体がガイドを実施する ④実施主体がガイドを実施する 	<p>児童・生徒向け手引き書構成(案)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイドの役割と目的 ①案内の役割と目的 ②案内の役割と目的 ③案内の役割と目的 ④案内の役割と目的 2. ガイドする内容とその調べかた ①案内の役割と目的 ②案内の役割と目的 ③案内の役割と目的 ④案内の役割と目的 3. ガイドするための資料の作りかた ①案内の役割と目的 ②案内の役割と目的 ③案内の役割と目的 ④案内の役割と目的
--	--

平成21年度児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業モデル事業の募集

募集期間:平成21年6月1日(月)～6月30日(火)

応募先:「児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業」事務局 財団法人日本交通公社 担当:小池、堀本

HP <http://www.jtb.or.jp/kodomo>

電話:03-5208-4703 E-mail:kodomo-guide@jtb.or.jp

<モデル事業実施報告>

①北海道松前町（松前町ツーリズム推進協議会）

○取り組み紹介

松前高校の生徒を対象に、松前町の歴史・文化・桜に関する知見学習とホスピタリティを学ぶ「観光ボランティアガイド養成講座」を開講。生徒会執行部員15名が参加し、在校生6名が観光ボランティアガイドを実践した。

「高めよう地域力、心はひとつ、交流の里づくり」をキャッチフレーズに地域力を高め、地域への愛情と誇りを育てる、地域が一体（ひとつ）となって、都市との交流を促進することをスローガンに観光地域づくりに取り組んでいる。児童生徒によるボランティアガイドは「地域学習を通じて地域を知ること、理解を深める、そして地域を愛する心を育てる」という教育的効果を通じて将来の観光地域づくりを担う人材育成に貢献するものである。本事業では松前高校の生徒をモデルとし、地域学習とホスピタリティについて身につけるための観光ボランティアガイド養成講座を開講し、観光ガイドを実践した。



単に地域学習で歴史・文化を学ぶだけではなく、ガイド活動を通じて、学習効果を高め、郷土への愛着を育むこととなった。松前高校では観光ボランティアガイドを平成21年度学習計画の中にも盛りこんでいる。松前町ツーリズム推進協議会としても、児童・生徒によるボランティアガイドを促進することにより、観光関係者、学校教育、行政機関が補完・連携し、持続可能で活力のある地域の実現に向けて取り組んでいきたい。

●発表資料

2008
児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業

松前町ツーリズム推進協議会

笑顔と桜が咲き誇る日本最北の城下町

VTR

松前町ツーリズム推進協議会

高めよう地域力 心はひとつ 交流の里づくり

スローガン

地域力を高め 地域への愛着と誇りを育てる

地域が一つとなって 都市との交流を促進する

笑顔と桜が咲き誇る 滞在力のある町を目指す

松前町ツーリズム推進協議会

高めよう地域力 心はひとつ 交流の里づくり

基本的な考え方

児童・生徒によるボランティアガイドは、地域への理解を深め、郷土への愛情を育てるといった教育的な効果を通じて、将来の観光地域づくりを担う人材の育成に貢献することが期待されるとともに、子供たちは将来の広告塔であり、地域を宣伝していくためには大きな要因であると考えます。

本事業は、松前高校の生徒を対象に、松前町の歴史・文化・桜に関する知見学習とホスピタリティを学ぶ「観光ボランティアガイド養成講座」を開講し、観光ガイドを実践します。

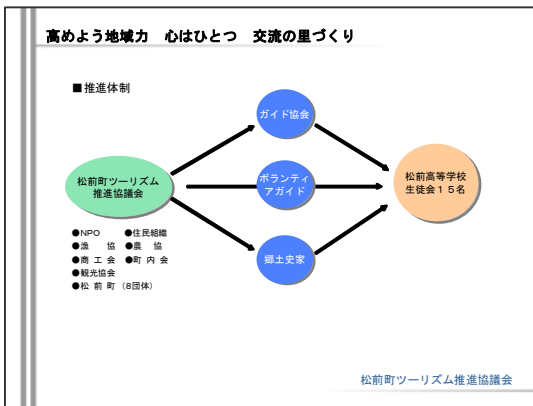
観光地域づくりと学校教育の連携 相互の関係は希薄

児童生徒による観光地域づくりへの参加 緩やかな連携

持続可能で活力ある地域の実現 相互に補完・連携

地域力UP

松前町ツーリズム推進協議会



高めよう地域力 心はひとつ 交流の里づくり

11月 1月 3月 5月

地域学習 ホスピタリティ ガイディング 修了検定 実践活動

松前町ツーリズム推進協議会

観光ボランティアガイド実践活動

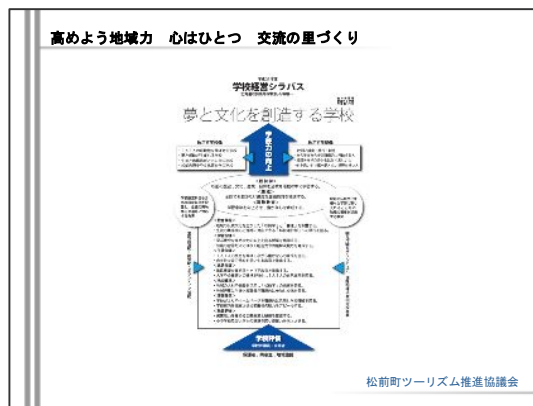
修了証

松前町観光ボランティアガイド実践活動修了証

Hokkaido Matsushima High School

VTR

松前町ツーリズム推進協議会



松前観光の問い合わせ先

観光情報から版(Webサイト)

PC <http://www.asobube.com/> 携帯 <http://mobile.asobube.com/>

松前町産業振興課観光グループ TEL 0138-42-2275 FAX 0138-46-2048

E-mail kenichi.tanaka@town.matsushima.hokkaido.jp

インバウンド観光の取組みについて

松前町では、外国人旅行者の受入体制の整備を行なっております。

- Webサイト
- 公園案内看板
- 観光リーフレット
- 冊子し集録集

松前町ツーリズム推進協議会

②青森県八戸市（社）八戸観光コンベンション協会

○取組み紹介

中沢中学校の生徒6名が、田舎暮らし体験と地元住民とのふれあいを求めて多くの人が訪れる体験交流施設「山の楽校」で、南部せんべい手焼き体験と南郷のそばを使ったそば打ちガイドを行った。ガイドの生徒たちが企画した「山の楽校」のパンフレットを修学旅行先で配布するなど学校全体での取り組みとなっている。

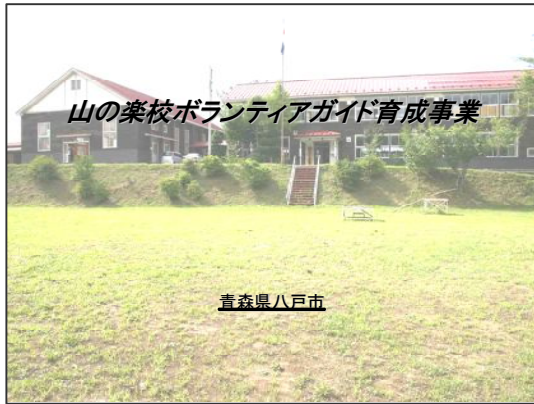
取り組みの基本コンセプトは(1)観光ボランティアガイド育成事業（現役ガイドのスキルアップ、観光ガイドの育成）と、(2)「地域をよく知る/市立中沢中学校1学年総合学習『地域をよく知る』」を組み合わせたものである。事業の主旨は、子供たちが自分の住む町のよさを再認識し、それを伝えるというコミュニケーションの大切さを学び、おもてなしの心を持った次世代の担い手を育成することである。



今回の授業の成果は、(1)アンケート結果から子供たちのことばがお客様にダイレクトに響いた点において好評を得た。(2)コミュニケーションの重要性を実感した(3)市民が改めて地域の魅力を再認識することができた。(4)子供たちは比較的短期間でガイドとして活動させることが可能であることがわかった(5)大人のガイドに刺激を与え、ガイドのスキルアップにつながった、というものであった。

課題は、(1)子供たちに対して求めるレベルの判断が難しいこと(2)地域全体のバックアップが必要であることであった。今後は、今年度実施予定の八戸ふるさと検定試験を活用し、子どもたちが自分たちの地域を理解するきっかけになることを期待している。

●発表資料



山の楽校とは 平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

八戸市の南部、青森県(田舎郷村)増田地区に位置し、平成15年3月に閉校となった増田小学校の校舎、体育館を活用した体験観光交流施設。

地域のシンボルでもあった学校の校舎は、なんとか残して欲しいとの地元住民の強い要望もあり、近くの世増ダム(青森湖)と一体に考えた観光エリアの拠点として平成17年6月に青森湖展望交流施設「山の楽校」として生まれ変わる。

体験メニューはこの地域の生活文化そのもの。そば打ちや、豆腐・味噌作り、炭焼き、普念がらの野菜作りなど様々な運営を支える楽校の先生はすべてこの地域の住民。森林で、温かいおもてなしが好評で八戸近郊を中心に年々来校者が増えている。

そば打ち体験 手焼きせんべい体験 そば蜂蜜採取体験 そばの花畑の散策

1 基本コンセプト 平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

観光コンベンション協会(市)

観光ボランティアガイド育成事業

- 現役ガイドのスキルアップ
- 観光ガイドの育成

山の楽校ボランティアガイド育成事業

中沢中学校

1学年の総合学習『地域をよく知る』

- 自分たちの住む町の調査研究
- 文化祭での発表

◎知識の定着と他地域との違いを認識することで郷土愛の醸成と、自信と誇りの創出。
◎人に伝えること、コミュニケーションの大切さを学習。
◎おもてなしの心を持った次世代の人材育成。

学習目標

- 自分たちの身近な生活に関わる歴史や文化等を習得する。
- 笑顔で挨拶することからはじまり、お客様とコミュニケーションを取れるようにする。

2 ガイド事業の様子 平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

勉強会(1年生全員参加) 勉強会(南部せんべいの起源)

おもてなしセミナー受講 ガイド模擬

2 ガイド事業の様子

平成21年5月
八戸観光コンベンション協会



体験練習(学校の先生を相手にガイド)



ガイド任命



ガイド実践(そば打ち、せんべい焼き)



修了書授与

山の楽校パンフレット

平成21年5月
八戸観光コンベンション協会



今年4月に3学年の生徒が修学旅行先でパンフレット配布による南郷PRを実施。

3 成果と課題

平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

●事業の成果

- アンケート結果及びお客様の生の声を総合すると、純粋に一生懸命ガイドする子どもたちに感銘を受ける方が多く、大変好評であった。
- コミュニケーションの大切さを子どもたちが身をもって実感した。
- 市内に住む方が地域の魅力を再認識することができた。
- 子どもたちが物事を覚えるスピードが非常に早く、比較的短期間でガイドとして活動させることができることに気づいた。
- 子どもたちの姿勢に、現役のガイドも刺激を受け、ガイド全体のスキルアップにつながった。

3 成果と課題

平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

●事業の課題

- 子どもたちにどこまでのレベル(スキル)を求めるとの判断が難しい。
- 将来的に事業としての活動から、普段の体験講座などでも活動してもらう際、お客様から料金は徴収することが可能なのか。(就労扱いになるのか。現時点は材料費のみ徴収で検討)
- 受け入れ施設のバックアップと学校の協力が最重要。学校の負担増は長続きしない。教師及び市職員等も人事異動があるので、継続させるのであれば、地域の支援が必要。

4 今後について

平成21年5月
八戸観光コンベンション協会

・中沢中学校では、今年度の学校事業の中に、山の楽校ボランティアガイド育成事業を組み込んでいる。

○1学年→第2期山の楽校ボランティアガイド育成事業

○2学年→職場体験事業(第1期の生徒)

・今年度実施予定の『八戸ふるさと検定』を活用し、市内の中学生が地元を知る機会を提供し、将来、子どもボランティアガイドに取り組む学校を増やしたい。

ご清聴

ありがとうございました



③滋賀県湖北町（湖北町教育委員会）

○取り組み紹介

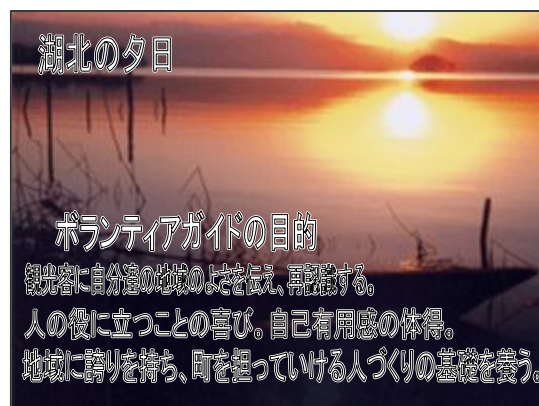
朝日小学校の5・6年の愛鳥委員会8名が、湖北野鳥センターで、自らが作成した解説資料を使い、コハクチョウ（湖北町の鳥）、カイツブリ（滋賀県の鳥）、オオヒシクイ（国の天然記念物）、オオワシ（国の天然記念物）と自分の好きな鳥（マイバード）をガイドする活動を実践した。

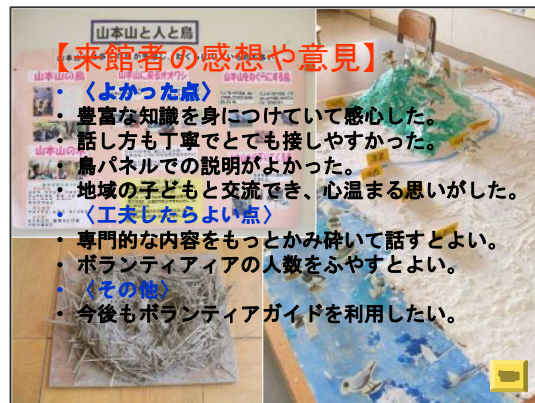
取り組みの目的は、(1)観光客の皆さんに自分たちの地域のよさを伝え、改めて認識するということ(2)人の役に立つことの喜び、自己有用感の体得(3)地域に誇りを持ち、町を担っていける人づくりの基礎を養うことである。

実施にあたっては、5,6年生の愛鳥委員会の児童が中心になり、(1)ガイド資料の作成(2)野鳥センターでのボランティアガイド実習(3)実際のガイド活動を行った。来館者アンケートによると、よかった点は、(1)豊富な知識を身につけていて感心した、(2)話し方が丁寧でとてもよかった、などであった。改善点は、(1)もう少し噛み砕いて話すとい、(2)ボランティアガイドの人数を増やすべき、というものであった。



●発表資料





朝日小へ是非おいでください。

- ・ 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会
- ・ 平成21年11月20日（金）13時～
- ・ 公開授業および愛鳥学習活動発表
- ・ 21日（土）は野鳥センターでガイド活動実施

④鹿児島県鹿児島市（鹿児島県立石橋記念公園・NPO 法人かごしま探検の会）

○取組み紹介

平成 20 年度より、「子ども学芸員」を募集・設置し、子どもたちの勉強・体験・発見の場として、「歴史探検 IN 石橋記念公園」「1日職員体験」を実施。「子ども学芸員」の中から「子どもガイド」の育成を行い、現在 14 名が、第二土曜日の「勉強会」第四土曜日の「園内ガイド」の活動を実践している。

鹿児島県立石橋記念公園内で子どもたちに郷土の歴史を学び、遊び、体験しながら成長して欲しいという思いから毎年行っていた子ども育成事業をさらに進め、「一緒に学ぼう、遊ぼう」をコンセプトに、子供学芸員、子供ガイドの育成を行っている。



今後の活動については、ガイド内容の充実、学校行事との調整、子どもたちの安全確認、サポートする人材の確保など課題は多い一方、本年度はガイド 2 期生の募集を行い、一期生として勉強の準備、指導の向上に関わることで、意識向上にもつながると考えている。子どもガイド育成事業は大人が子供と関わる新しい形として大切な取り組みであることを痛感している。

●発表資料

石橋記念公園「子どもガイド」育成事業
石橋記念公園 NPOかごしま探検の会

活動場所の概要

周辺案内

活動実施報告
(子ども学芸員「夏休み勉強会」)

活動実施報告(夏休み勉強会まとめ発表)

活動実施報告(子どもガイド育成勉強会)

活動実施報告(子どもガイド資料)



活動実施報告(子どもガイド様子)



活動実施報告(子どもガイド様子)



活動実施報告(多賀山公園探検様子)



活動実施報告(2月14日勉強会様子)



活動実施報告(3月14日勉強会様子)



活動実施報告(資料整理等様子)



今後の活動課題・問題点



子どもガイドに参加して良かったこと	複数回答
学校や習い事との両立	5
資料準備	8
人前で話すこと	2
ガイド利用が多くてガイド回数が多くなり休めない	2
勉強会がむずかしい	2
その他	1

7 今後の活動計画

(1) 広域活動

① ガイド不足解消に向け広域活動
かしま探検の会・まちの駅・景観光遊覧と連携をとりながら「子どもガイド」を交えた積極的なPR展開を行う。

② 子どもたちが作成する「招待状」の発送先拡充
子どもガイドからの「招待状・お礼状」は、マスコミ・個人客ともに反応が良い。

③ 子どもガイドのテレビ編・新聞社の見学・訪問

④ 石橋記念公園HPでのPR

⑤ 景観光遊覧・広域誌を活用したPR

(2) 21年度活動予定日（4月～3月）

勉強会	4/11・5/9・6/13・7/11・8/8・9/12・10/10・11/14・12/12・1/9・2/13・3/13
ガイド	4/23・5/23・6/27・7/25・8/22・9/26・10/24・11/28・12/26・1/23・2/27・3/27

（毎月第二土曜日 勉強会 第四土曜日 ガイド活動）
学芸員勉強会・イベント等サポートにより、活動日の増あり。

(3) 今後の課題と対応

< 課題 >

① ガイドの質向上のための勉強会や研修会
② ガイドの確保、学校行事との調整、サポーターの確保

< 対応について >

21年度の活動継続に向け、ガイド内容の充実を図る必要があるが、子どもたちのモチベーションを保ちながらの勉強会や研修は、勉強会の内容検討をはじめ企画・準備に時間が必要となり、経費部分も考慮しなければならず、また子どもたちの気持ちとタイミングにあった実施が難しいのが現実である。子どもたちの興味や勉強意欲に合わせて勉強会や研修の実施をこころがけ、なにより子どもたちが楽しく学び、体験し自主的な活動ができるような場づくりを行う必要がある。また、ガイド実施は、大変好評をいただいておりますが休日も関わることが多くあり、学校行事等と重なると人数が少なくなる日があり、その中で活動

する子どもたちにかかりの負担となっている。負担が多ければ基本である「笑顔」で「自主的」なガイドの実施は難しくなるため、ある程度のガイドの確保と学校行事等を考慮しながら臨機応変に活動を実施し、子どもたちの負担軽減のサポートをする大人・サポーターの確保に努める必要があるが難しい状況である。

(2) 活動について

① 20年度より、石橋記念公園において、「子ども学芸員」を募集・設置し、子どもたちの勉強・体験・発見の場所として、「歴史探検 in 石橋記念公園」・「1日職員体験」を実施し、更に「子ども学芸員」の中から「子どもガイド」の育成を行い、現在小学1年生～中学2年生までの13名が、第二土曜日の「勉強会」第四土曜日の「園内ガイド」の活動を行っている。子どもたちの「ガイド知識」への向上は著明に高く、勉強会以外の資料整理等に熱心に取り組んでおり、年長者が年少者へ指導を行うなど園児の良き伝承である「郷中教育」の姿がみられる。ガイド活動だけでなく、生活面の指導も有り、年長者は年少者への指導しながらリーダーとして、学び成長してきており、勉強に指導し熱心に取り組んでいる。年少者は年長者に指導を受けながら、リーダーとしての姿を学び、認め成長している様子がみられ、学校や学年の枠を超えたふれあいの場所としても提供ができています。

また、子どもたちから出す「招待状やお礼状」への反応は、マスコミ・個人客ともに良く、今後もこのような活動も継続しPR活動を子ども自身が行うことで、更なるPR効果が高まると思われる。

子ども自身も、次年度への活動意欲が高く、勉強会への要望や活動案が出されるようになり、積極的な活動展開が期待される。

特に保護者からの活動継続の要望は多く、今後も「子ども自身の力」を伸ばし、育てる活動展開を行い、21年度も新たな「学芸員」の募集を実施し、「石橋記念公園秋のお祭り」において、「子どもガイド」期をデビューさせたい。

二期生の募集・育成を行うことで、現ガイドへの意識向上や活動刺激にもなり、また、二期生の勉強会等の準備・指導に加わることで、郷中教育の実践になり、更にリーダーとしての成長が望めると考える。子どもガイドの活動を継続することにより、公園利用の促進が更に図れると考える。

8 広報状況 (1) 新聞記事



2008年(平成20年)11月6日(木) 朝日新聞



2008年(平成20年)11月6日(木) 毎日新聞



2008年(平成20年)11月16日(日) 読売新聞

メディアに登場して歴史の探検 平成21年3月14日(土)
鹿児島中央駅スタート



探検隊の群像



雑談ふると見学



グループでクイズの答えを探します



照田神社(島津 斉彬 像)



城山展望所

<感想>

- *昔の人は、たくさん考え、時には暑を耐えつらいのもかもしれませんが、今の現代があるのはこうした人がいたからだと思います。
- *桜島に世界最大と最小のものがあったこと
- *城山展望所からの景色がすくすくきれいで感動したたくさんの方に思っています。
- *昔の人は今よりとても優しく、頭が良かったんだな～と思いました。
- *街の中にもたくさん史跡後陣があることに今日気づいた。いろいろなことに興味を持ちながら歩きたい。

<講演 観光地域づくりの担い手の育成>

清水 慎一 氏 (株式会社ジェイティービー 常務取締役・立教大学観光学部 特任教授)

観光地域づくりにおける人材と人材論について、初期段階では観光カリスマやまちづくりに「よそ者・若者・ばか者」が必要とされ、次の段階では組織的・体系的に観光地域づくりに取り組む地域プロデューサーやファシリテーターの必要性が認識され、現在は、観光地域事業体、観光まちづくり事業体など地域経営やそれを行う人材育成の議論が始まっている。その背景には、従来の観光施設を楽しむ観光が衰退し、地域や土地の暮らしそのものを楽しむ「町中（まちじゅう）観光」が主流になりつつあり、担い手も子供や老人など一般市民をはじめとする多様化が必要になっている。担い手の多様化はなかなか難しく、従来のように行政や外部のマネジメントに依存してはいけないという危機感と自立心を持った「よそ者・若者・ばか者」が出現する。しかし彼らは地域で孤立しやすく、連携・ネットワーク化の必要性が認識され、そこから問題提起をすることで観光が変わってきている。



担い手育成のポイントは(1)地域を知ること(2)地域を誇りに思うこと(3)地域資源を大事にすること(4)地域を語ることである。

住民の幅広い参加、組織との調整を担う人が地域プロデューサーだが、必ずしも自分でアイデアを出す人、事業を行う人ではない。地域に根ざさない人がアイデアを出してはいけない、事業をやってはいけない。地域に根ざさない人は、「住民の幅広い参加」、「基本組織との調整」、「地

域に根ざす『地域経営リーダー』の育成」に徹するべきである。担い手の多様化と連携を促すのが「プロデューサー」や「ファシリテーター」で、彼らは地域に根ざさないため、最終的には、地域に根づき、地域に責任を持つ組織を中心としたリーダーと活動が必要になる。これが持続的なイノベーションの実現につながる。だが、プロデューサーやファシリテーターの謝礼をほとんど行政が面倒見ているため、行政の補助金がなくなった途端に以前の状況に戻ってしまう事例が非常に多い。これを持続する新たな方向性として、横断的な地域経営事業組織づくりを提案している。「よそ者・若者・ばか者」からの脱却、地域経営リーダーの育成、これが次のニーズだと思う。観光地域づくり人材の議論は、「よそ者・若者・ばか者」論から地域プロデューサー・ファシリテーター議論を経て、地域経営論になるのではないかと思う。行政・地域・大学が一体となって地域づくりを進める必要がある。ホスピタリティ経営人材の議論は進んでいるが、今後は地域経営人材の議論も進める必要がある。このような流れを頭に入れ、自分のところの現状や将来的に必要な人材、そのための育成の方法、ということを考えれば持続的・自立的なまちづくりが可能になる。地域で「よそ者・若者・ばか者」は必要だが、ある段階でそれを脱却しながら組織化、地域経営を見据えた方がいいだろう。

●発表資料

「観光地域づくりの担い手の育成」

- これからの観光は「まちじゅう観光」「まちじゅうホスピタリティ」
- これからの観光に不可欠な「担い手の多様化」と「担い手の連携」
 - －「担い手」の多様化と連携に不可欠な地域の自立意識
 - －脱「行政主導」、脱「外部マネジメント主導」
 - －「いわて塾」の取り組み
- 「担い手」の育成
 - －地域を知ること（地域資源の掘り起こし、聞き書きなど地域学の実践）
 - －地域を誇りに思うこと（地域の歴史・文化に対する熱い思い、アイデンティティ）
 - －地域資源を大事にすること（地域資源を活かしたまちづくり）
 - －地域を語ること（よそとの交流、観光振興に対する意識の高まり）
 - －「よそ者」「若者」「ばか者」の必要性
- 「担い手」の多様化と連携を促す「プロデューサー」「ファシリテーター」の登場
 - －「担い手」の多様化、連携を促す「担い手」の登場
 - －「プロデューサー」「ファシリテーター」の役割
 - －一番の課題は「住民の幅広い参加」と「既存組織との調整」
- 「持続的な観光地域づくり」に不可欠な持続的な組織づくり
 - －「よそ者」「若者」「ばか者」からの脱却
 - －縦割りの既存組織を超えた新たな組織作り
 - －地域に根ざすリーダー（地域経営リーダー）の必要性
- 青森県大鰐温泉の観光地域づくりを支える「担い手」たち
- 「地域経営リーダー」の育成
 - －立教大学の「観光地域経営専門家育成プログラム」
 - －「地域経営」の視点と「観光地革新」の視点

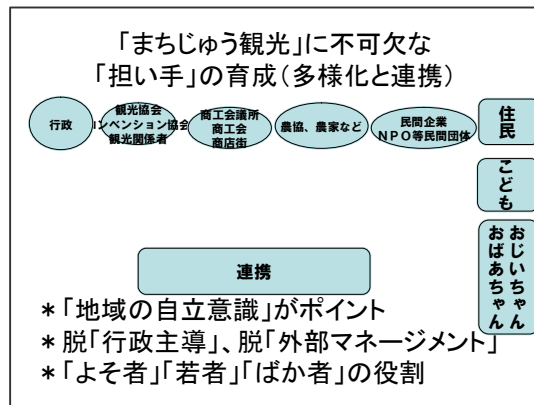
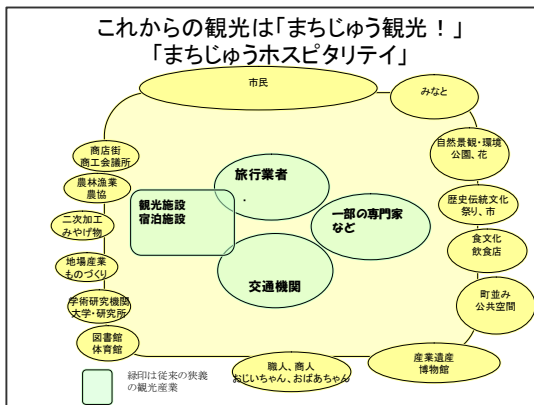
観光地づくりの担い手の育成

(株)ジェイティービー 常務取締役
清水 慎一

「これからの観光」

- ・ 個人グループ《夫婦・友人等のリピーター》
- ・ じっくり地域に滞在しながら！
- ・ 地域の生活、食材や伝統文化を！
- ・ 地域で体験したり住民と交流したり！

⇒雄大な自然・桜・紅葉、名所旧跡、観光施設、温泉と地域の生活や歴史・伝統・文化、食、祭りなどの地域資源を有機的に繋がないとこれからの観光は成り立たない！



「いわて塾」=多様な担い手の育成と連携づくり

事業内容：地域観光の基盤開発と開発、観光PR。

事業方針：①各社、各地域の資源の融合と共有
②各社、志同を有する者の加入促進・交流・連携。

事業内容：

1. 業について	県産食材の振興と付加価値を高めるために、観光コラボレーションによる商品化に向けた取組。
2. 観光について	各社の素材を使った観光資源の商品化。
3. 開催について	長崎観光事業。
4. 塾生加入促進	活発な若手塾生するための塾生全員で加入促進の強化に努める。
5. プログラム	担当担当を行う/個人担当のプログラム作成 (0歳1歳未満)

事業日程：毎月1回の月例会にて開催。

- ①講演会
- ②移動例会
- ③物産展

担い手の育成=地域を知ること(地域学)

担い手の育成=地域を誇りに思うこと

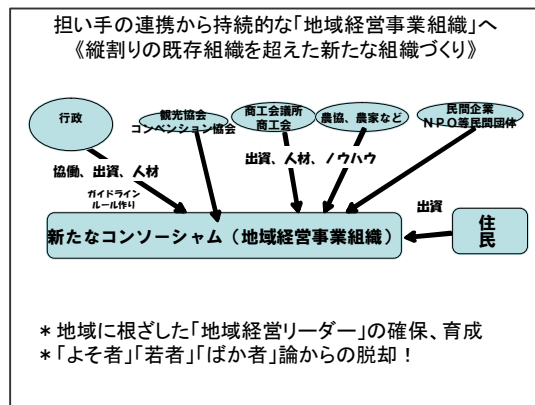
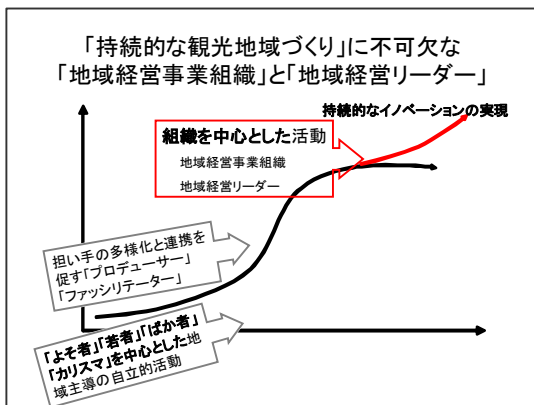
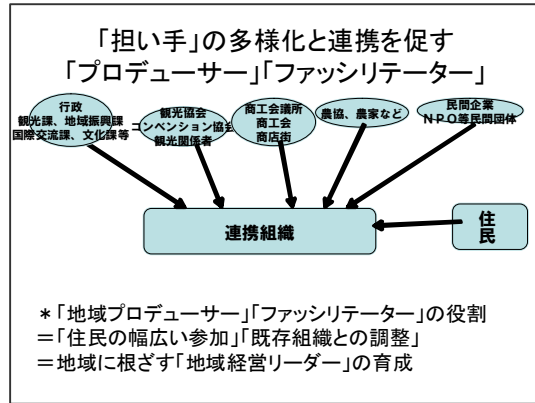
湊田地域の美しい町だった湯布院では、ダム建設反対運動やゴルフ場建設反対運動を契機に、若手の旅館経営者たちの会を中心として、大型施設に頼った観光地ではなく、温泉、自然、文化をキーにした温泉保養地づくりを行っている。

担い手の育成=地域資源を大事にすること (徳島県祖谷)

担い手の育成=地域を語ること(指宿)

「篤姫観光ガイド」-魅力ある指宿まちづくり協議会、39人登録-

「若者」「ばか者」=村上の吉川夫婦



大鰐町の現状

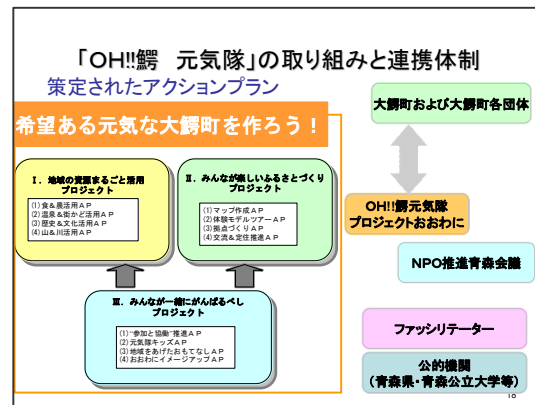
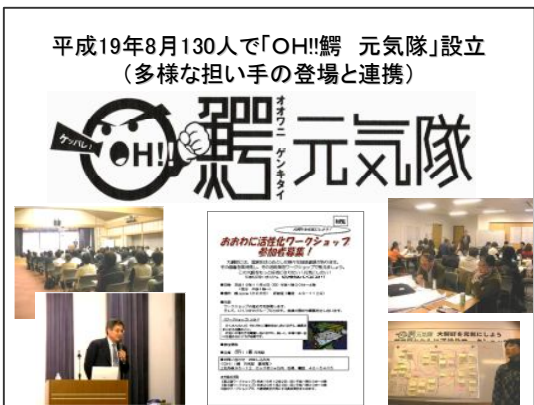
第2の夕陽

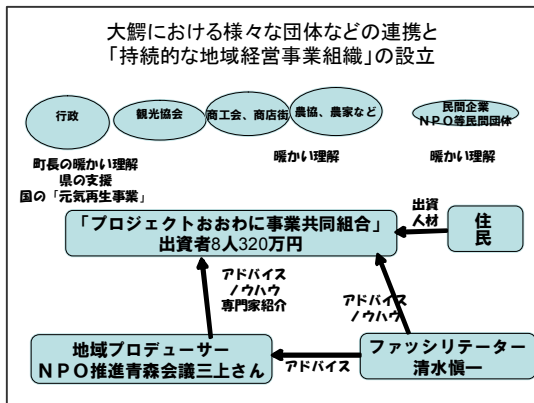
<p>平成のリゾート開発の失敗</p> <p>町の損失補填額 63億円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続赤字比率 31.2% ・20年続く 毎年3億円の返済 	<p>観光客数の減少</p> <p>平成3年 93万人</p> <p>↓</p> <p>平成16年 37万人</p>
<p>事業所・事業者数</p> <p>平成3年 721事業所 4,735人</p> <p>↓</p> <p>平成16年 500事業所 3,124人</p>	<p>人口減少と高齢化</p> <p>人口11893人</p> <p>高齢化率 30.1%</p> <p>(青森県過疎地平均28.6%)</p>

官民ともに将来に希望が持てない
人々の切れた関係性

悪循環!

人口減少→地域活力の低下→閉塞感の広がり





プロジェクトおおわに事業協同組合事業内容

- 地域特産物の開発と共同販売事業
おこめ内での農産物等の販売・首都圏への販売
- 公共施設の管理及び運営に関する受託事業
おこめ(平成16年オープン、17億円)の管理・運営(年間33百万円の赤字だが指定管理委託料はゼロ)
- 着地型観光の実現
大鰐町の地域資源を活用した着地型商品の開発

今後の目標＝地域の自立

- 着地型観光の拠点づくり
交流人口の増加にともなう、町民と観光客の交流の場の提供
⇒おおわに応援ファンクラブ「津軽あじら会」との連携
- 農商工連携の拠点づくり
農家との連携による農産物の販売
大鰐の特産物を活かした加工品の開発と販売
⇒具体的には、大鰐温泉もやしを先兵にした取組
- 地域内の連携・協働づくり
大鰐町他団体との連携
⇒パートナーシップで進める大鰐活性化意見交換会

大鰐の観光地づくりと行政の役割

- 地域の自立を図る住民活動に対する県や町(首長)の暖かい理解、精神的なサポート(足を引っ張らない!)
- 地域の様々な主体の連携・協働に対する場の提供、合意形成支援(出る杭は打たれないように!)
- 具体的な実践におけるサポート
- 運転資金、法規制の解釈、認証

⇒従前の観光振興、地域振興のやり方に対する反省
・行政主導の観光振興、地域づくりの限界
・外部コンサル主導、発地主導の観光振興の限界
⇒行政マンが一人の市民としてワークショップに参加
⇒「多様な担い手の育成と連携づくり」「地域経営リーダーの育成」に対する確固たる認識

「地域経営リーダー」の育成 ＝「観光地革新」と「地域経営」の視点

次のような能力などが必要な「地域経営リーダー」の育成、確保には行政と地域と大学が一体となった息の長い取り組みが必要!

—「観光地を単位として内外の環境要因を総合評価しながら潜在する魅力を発見し、新しいアイデアのもとに観光資源、事業者などを革新的に再構成し、関係者と組織して外部のメディアを通じ戦略的に社会に生活提案しながら自らを売ることができる「新たなスキル」を持った専門家

観光地経営専門家育成プログラム(立教大学)

「観光地経営育成プログラム」

- ・「地域」の視点から組織的に観光地を革新する観光地経営のスキルを持つ専門家「観光地経営専門家」の育成
- ・平成21年度＝平成20年度に開発した「観光地経営専門家」を育成するパイロットシステム等を用いて実証授業を実施する
- ・平成22年度以降＝本プログラムが自立化し運営するための方向性を大学院教育との接合を含めて検討する

平成21年度 「観光地経営専門家育成プログラム」実証授業

- ・対象＝「各地で観光事業を推進したり、まちづくりに携わっている社会人」
- ・授業期間＝「6月から11月まで月1～2回週末土日に集中授業」
- ・科目＝「観光事業の総合評価演習」「事例学習」「観光事業の革新と再構築」「観光地の組織形成とネットワークマネジメント」
- ・実証授業の狙い＝教育システムの有効性、教育内容の有効性の実証

<人材育成プログラム先進事例紹介>

①観光地域プロデューサー事業概要説明 観光庁 観光資源課 課長補佐 川島雄一郎

一般国民向けから専門家向けまで多様な人材育成に対して様々な取組みを進めている。観光カリスマ、観光地域プロデューサーモデル事業、観光地域づくり人材育成支援事業、地域が自主的に動くための担い手のノウハウ・ネットワークの支援などを行っている。観光地域プロデューサー事業は平成19年からの3ヵ年事業。外部人材の受け入れに当たっての課題、活用の有効性などの議論を進めている。平成19年度は5市、同20年度は3地域に派遣している。今後、観光地域プロデューサー事業は政府の雇用対策の一環として全国的に研修事業を展開していく予定。



●発表資料

観光地域づくり人材シンポジウム

観光地域プロデューサー事業概要説明

観光庁 観光資源課
課長補佐 川島雄一郎
平成21年6月5日

観光庁
Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

観光庁

地域の観光振興を担う人材の育成・活用について

- 従来の官主導による補助金事業を通じた地域活性化手法のみでは限界あり
- 観光振興に成功している地域は、地域の人々やNPO等、地域自らが主体的に観光振興に取組み
- 観光振興を担う人材の育成・活用が成功の大きな要因になっていることから、国も人材の育成・活用を支援

担い手	目的	地域・長期的取組み	国の支援
一般国民向け	一般住民に対する観光立国教育(生涯学習)	■地域独自の観光副読本の作成 ■小中学校での観光立国教育 ■「旅育」出前授業の実施	●観光立国教育への支援 ●セミナー、全国大会等への後援
担い手	高等教育機関における観光振興の担い手育成	■大学等での観光関係学部の増加	●産学官連携検討会議の開催
担い手	観光振興を担う人材(社会人)の育成・活用	■地域独自の人材活用制度 ■観光協会等との観光振興協議会事務局の設置	【人門】 ●観光カリスマの開催(成功者ノウハウ普及による人材育成) ●観光地域プロデューサーモデル事業 【地域と外部人材のマッチング支援】 ●観光地づくり人材育成支援事業(シナジーの開催、MLによるサポート)
担い手	専門家の育成・活用	■地域レベルでの観光まちづくり人材育成の取組み(例:やまがた観光まちづくり塾)	●特産可能な観光まちづくり事業者の創出支援調査事業 地域におけるまちづくりの機能と観光ビジネスの機能をあわせもつ、地域横断的な観光まちづくり事業者の創設・持続的な運営手法の検討

観光庁

観光地域プロデューサー事業について

取組みのねらい:観光地域づくりにおける外部人材の紹介・マッチングによる人材の活用を支援

地域側の事情
・地域内の人材だけでは閉塞的な状況になる。
・単なるアドバイザーでなく、地域づくりのまとめ役、リーダー役、実行役となる人材が必要

地域の外にいる観光専門家の状況
・退職後、自分の知識と経験を活かしたい
・地域の情報が不足しており、トリターンに踏み切れない

地域の外にいる人材に必要な研修を実施した上で、観光地域プロデューサーとして登録
観光地域づくり戦略策定や着地型旅行商品の開発、流通への発信等の専門家を要する地域を紹介

観光地域プロデューサー事業の実施(地域の選定、プロデューサーとのマッチング)

平成19年度(5地域)	担当
千葉県富津市:「石」を活用した芸術観光の振興	高田 昌幸 氏(20代 会社代表取締役)
東京都台東区:新たな観光戦略の企画・立案	鈴木 英雄 氏(60代 大学講師)
山梨県富士河口湖町:住民主導の観光まちづくり	花岡 利幸 氏(60代 大学を嘗教授)
静岡県伊豆の国市:新鮮な発想による情報発信	木村 英樹 氏(20代 アートデザイナー)
富山県立山町:アルペルトの 프로모ーション	井野 英夫 氏(60代 旅行会社)
平成20年度(3地域)	担当
茨城県石岡市:歴史、文化等を活用した体験観光等の商品化	藤井 康夫 氏(60代 旅行会社)
新潟県佐渡市:観光資源を活用した着地型旅行商品の開発	前田 善樹 氏(60代 旅行会社)
千葉県船橋市:首都圏への効果的な広域宣伝、販売促進	西谷 亨 氏(60代 旅行会社)

観光庁

地域密着型観光人材育成事業について

■中小・小規模企業の人材対策事業(中小企業庁)
○中小・小規模企業の「人材」を確保・育成するとともに、現下の厳しい雇用情勢の改善に資するもの。
○平成20年度二次補正予算により実施。

■観光関係人材育成事業
今後成長が見込まれる観光分野において、「観光立国の担い手」を育成。
(1)観光サービス人材育成...旅館従業員等の移進スキルの習得等
(2)高度観光人材育成...旅行会社従業員等の企画力アップ、専門性向上等
(3)地域密着型観光人材育成...地域の観光振興のプロデューサーの養成

■地域密着型観光人材育成事業
魅力ある観光地づくりのためにはその牽引役となる「プロデューサー」や担い手となる人材の育成が必要となる。観光地域づくりに必要な知識、ノウハウ、実務経験の習得を目的とした研修を行う。

①研修会(1泊2日、全国6箇所)
観光に関する知識、ノウハウの習得
【例】着地型旅行商品の知識
・観光マーケティング
・先進観光地域の事例研究
・観光現場の視察実習
・グループ演習 等

②実地研修(最大100日程度、全国6地域程度)
・観光に関する実務の習得
・全国の自治体や観光協会等において実施

②観光地域づくり人材育成の取組みに関する調査結果報告

観光庁 観光資源課 課長補佐 竹谷健治

これからの地域と国の新しい役割分担として、国は各地域の自主的な育成の支援をしたいと考えており、そのために地域論の提供や連携支援、ノウハウの提供、ネットワーク化などを考えている。このシンポジウムもその一環である。昨年行ったアンケート調査の結果から、実施内容にはばらつきがあることがわかった。市町村ではガイド育成の取組みを行っているが、都道府県 NPO では、ガイドだけではなくて地域づくりのリーダーや着地型商品の開発ができるような人材の育成という新しい試みが散見された。しかしそのような人材の育成実績はまだ少ないことが分かった。



今回6地域を先進事例として紹介している。「観光ガイドを育てる取り組みだけでなく、一歩進んだ土産品開発・着地型メニュー開発などをする人材を育成している地域」、「NPOなど地域づくり団体の設立をしている地域」、「地域の中のほかの産業、地域間の連携」（特に大学と連携している地域を選んで紹介）を選定している。こちらの6地域全部にお目通しいただいて、自分たちの目指す姿を先進事例の中に見つけて参考にしてほしい。

●発表資料

観光地域づくり人材シンポジウム

観光地域づくり人材育成の取組みに関する調査結果報告

観光庁 観光資源課
課長補佐 竹谷健治
平成21年6月5日

観光庁
Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

調査の背景

地域と国との新しい役割分担

地域

- 地域主導の自主的・自発的な人材育成
- 地方自治体における専門家の養成
- 地域における産学連携強化

国

- 地域における自主的・自発的な人材育成を支援
 - ・情報やノウハウの提供、先進事例の紹介等
 - ・地域における関係者の連携支援
 - ・各地域相互のネットワーク化(学び合い)支援
 - ・外部人材の紹介・マッチング

全国各地で実践されている「観光地域づくり人材育成」の取組み状況を把握するため、大規模なアンケート調査を実施

「観光地域づくり人材育成の取組みに関する調査」について

アンケート調査の目的

【調査のポイント】

- ・人材育成プログラム
- ・連携促進(地域・組織間、産学連携)

調査期間

平成20年11月18日 ~ 平成21年1月30日

調査対象: 3,357ヶ所

都道府県観光主管課・同観光協会	94ヶ所
全国の市区町村観光主管課・同観光協会	2,472ヶ所
全国の商工会館	516ヶ所
その他団体(NPO法人、まちづくり団体、企業等)	275ヶ所

回収 1,239ヶ所(回収率 36.9%)

アンケート調査結果概要

- ・都道府県、その他団体では、半数以上の団体で「観光地域づくり人材育成」が進められている一方で、市町村、商工会議所ではその割合が半数以下となっている。
- ・都道府県では「観光市民ガイド」と「観光地域づくりリーダー」がほぼ同じ割合で多く、「着地型旅行商品開発に携わる人材」が続いている。
- ・市町村では「観光市民ガイド」を目的とする割合が突出して多い。
- ・その他団体では都道府県と同傾向が近似しているが、「体験メニューのインストラクター」や「体験メニュー等の企画・実施を行う人材」、「特産品の開発に携わる人材」など、幅広い人材育成に取り組んでいる。
- ・観光地域づくりを行った成果としては、各主体とも「観光ガイドの充実」を挙げている。

報告書の活用方法①(観光地域づくり人材育成取組み一覧)

- ノウハウの共有・連携強化のために、「**検索性**」を重視
- 連携の具体例として、「**大学**」、「**その他地域・機関**」との連携を実践している地域を別表で整理

① 地域で育成を検討している「目指す人材のイメージ」または「具体的内容(プログラム)」で、既に実施している地域を検索

② 手本とする事業の調査や、連携を検討

報告書の活用方法②(観光地域づくり人材育成の先進地調査)

- 観光地域づくりの**多様なニーズに対応した人材育成**を実践している地域を抽出
具体的成果「体験メニューの開発」、「特産品の開発」、「着地型旅行商品の開発」、「観光ガイドの充実」、「NPO等地域づくり団体の設立」
- 大学との連携**を実践している地域を抽出
連携内容「人材育成プログラムの作成」、「地域づくりのコンサルタント」、「学生の参加」

① 自身の地域で求められる人材または、大学との連携のあり方で先進地を検索

② 手本とする事業を参照

③ 各先進事例報告のページには、取組の成果を再読すると共に、問合せ先を記載

各地での観光地域づくり人材育成の取組みに、本報告書をご活用下さい!

調査結果の考察

課題の分析

アンケート結果では、
① 育成を行う主体の**資金不足や不十分な体制づくり**
② **参加者確保の難しさ**
が課題とされている一方で、
・7割以上の組織で**今後の取組みが計画されていない**ことから、それぞれの課題が右図のように**互補関係**に陥ってしまっていることが、取組みの進展を阻害していると考えられる。

成果の出ている事例の分析

成果の出ている事例の分析では、
・人材育成の必要性を認識している関係者が**連携**することにより、組織の運営基盤の強化を図り、**計画的な取組み**を行うことによって**目的に即した人材**を輩出
・新たに育成された人材の活躍を通して、**人材育成の取組みの重要性を地域で再認識**し、右図のような**好循環**を創出している。

資金不足・不十分な体制づくり

参加者の確保が困難

計画的な取組み

人材育成の必要性の認識

取組みの活性化

地域間や官民での連携

目的に即した人材の輩出・活用

計画的な取組み

今後の観光地域づくり人材育成

① ニーズの多様化に合わせた人材育成

「観光市民ガイド」中心の取組み → ニーズの多様化 → 地域に根差した自主的な人材育成

- ・体験メニュー等の企画・実施
- ・特産品の開発
- ・着地型旅行商品の開発

② 取組みの活性化

- ・先達の手法の導入
- ・地域や団体の枠を超え、人材育成の必要性を共有する組織での**連携**
- 運営基盤の強化
- ・目的に即した**計画的な人材の育成・活用**

③ 好循環の創出

各地域相互のネットワーク化支援
先進事例の共有化施策等の活用

ニーズに合わせた人材の育成と、地域づくりの**好循環**を創出

観光を通して
地域活性化を実現

<先進事例取組み紹介>

①やまがた観光まちづくり塾

●報告者

- ・やまがた観光まちづくり塾 塾長 川口 直木
- ・山形県 総務部 秘書広報課 広報室 広報戦略主査 西堀 公司

○取組み紹介

観光まちづくりに活躍する人材の育成を目的として、平成 18 年度からやまがた観光まちづくり塾を開催。地域の光＝人材や魅力や誇りを磨いて外部にアピールし、これを端緒として地域の再生を図ろうとする目標を持って実践している。

やまがた観光まちづくり塾は H18 年度から行っている事業。背景は人材の分散、過度な負担の問題。知恵と工夫をつなぐことで新たな展開に期待している。塾を立ち上げた主旨は、多様な主体がネットワークで連携することである。各組織を縦糸にネットワーク構築、横との連携による地域活性化、住民によるまちづくり参加への意識醸成、塾を知恵の交流（プラットフォーム）とすることである。

取組みの成果、2 年間の活動を通して、ネットワークが構築された。

1 回の講演で終わらず、小樽市や大間町などとは交流が続いている。今後は塾生の中から既存の秩序を壊して新しい価値を作り、町を変えてしまう影響力のある「ばかもの」を輩出したい。



清水氏コメント

今後の課題は、人材育成、地域での定着。行政は一市民として参画していただきたい。行政の役割としてやるべきことをしっかりやる一面、市民であるという一面もある。

既存組織、観光協会、旅館組合や、既存組織による観光塾もある。このような既存組織との連携も課題である。

●発表資料

「観光地域づくり人材シンポジウム」事例発表
 ～やまがた観光まちづくり塾～
 2009/6/5 三田共用会議所

報告 川口直木
 (塾長/企画プロデューサー/千葉商科大学非常勤講師)
 西畑公司
 (山形県広報室広報戦略主管/09/3まで観光振興課で塾を担当)

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

I 塾の概要

(1)創立(背景)

- 地域で活躍する人材が分散、過度な負担
- 知恵と工夫を繋ぐことで新たな展開を期待

(2)設立目的(背景)

- 多様な主体(宿泊業、農業、商業、NPOなど)のリーダーが太いネットワークで繋がること
- 各組織を縦系にネットワークを横軸に絡めた地域づくり
- 参加された方々が各地域で活躍する際の糧(知恵と力)
- 塾生の活躍を通じ、住民による「まちづくり」参画への意識醸成

- やまがた観光まちづくり塾=知恵の交流(プラットホーム)

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

(3)組織

名誉塾長:吉村美栄子 山形県知事
 塾長:川口直木 企画プロデューサー

【名誉塾長:後藤 靖子(08/4~08/7 現 国土交通省 北陸信越運輸局長)】
 【塾長:荒木由季子(08/7~09/2 現 経済産業省 健康長寿産業政策室長)】
 【顧問:清水 慎(06/4~09/3 現 株式会社エイベー非常勤取締役)】

事務局:山形県 各総合支庁
 県庁所管部門:山形県商工労働観光部観光振興課

後援団体(28社・団体)
 朝日新聞山形総局、NHK山形放送局、株式会社JTB東北、河北新報社山形総局、財団法人やまがた農業支援センター、さくらんぼテレビ、産経新聞社山形支局、社団法人共同通信社山形支局、社団法人山形県温泉協会、社団法人山形県観光物産協会、社団法人山形県青年会議所、時事通信社、荘内日報社、テレビユー山形、日本経済新聞社山形支局、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、毎日新聞山形支局、山形県商工会議所連合会、山形県商工会連合会、山形県商店振興組合連合会、山形県農業法人協会、山形県旅館生活衛生同業組合、山形県農業協同組合中央会、山形新聞・山形放送、山形テレビ、読売新聞山形支局 米沢新聞(紙不同)

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

(4)開催実績

平成18年度 塾開催 4回

- ・庄内塾(鶴岡市、酒田市) 平成18年9月28日(土)
- ・最上塾(金山町、大蔵村) 平成18年10月24日(火)
- ・置賜塾(白鷹町、高森町) 平成18年11月12日(日)
- ・村山塾(山形市、天童市) 平成18年11月21日(日)
- ・修了式(PTA)山形市 平成18年3月22日(木)

平成19年度 塾開催 4回

- ・庄内塾(遊佐町) 平成19年7月23日(月)
- ・村山塾(西川町) 平成19年8月28日(火)
- ・置賜塾(高森町) 平成19年11月1日(木)
- ・最上塾(豊上町) 平成20年1月13日(日)
- ・修了式(山形市) 平成20年3月27日(木)

平成20年度 塾開催 4回

- ・観光The旅舎(山形市) 平成21年6月17日(火)
- ・庄内塾開催(鶴岡市、庄内町) 平成21年6月29日(日)
- ・村山塾開催(上山市) 平成21年8月31日(日)
- ・置賜塾開催(川西町、長井市) 平成21年10月21日(火)
- ・最上塾開催(大蔵村) 平成21年2月28日(土)
- ・修了式(山形市) 平成21年3月25日(水)

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

(5)塾生参加方式

- オープン参加
- 参加者数など
 平成18年度 延べ280名参加 修了者110名 皆勤5名
 平成19年度 延べ333名参加 修了者111名 皆勤7名
 平成20年度 延べ336名参加 修了者185名 皆勤4名

(6)開催方式など

- 地域のキーマンが主体となって企画・開催
- 事務局の各総合支庁がサポート

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

(7)基本プログラム

- まちあるき
- レクチャー
- 交流談義

やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

II 塾の成果と今後

(1)成果

- 「やまがた観光まちづくりネットワーク」(平成20年度~)
- 塾生によるネットワーク集団づくり
 - 塾生の主体的な活動
 - 自らのネットワークを高める
 - 塾経験者による幹事会の設置
- 講師陣と縁を繋げる
 - 北海道小樽市
 - 白鷹の薬師桜(樹齢1200年)の二世木を植樹
 - 雪あかりの路シンポジウムへの参加、外国人ボランティア受入、仕掛けを学ぶ
 - 青森県大間町
 - 住民が喜んで参加するまちづくりの仕掛けを学ぶ


やまがた観光まちづくり塾
 やまがた観光まちづくり塾

- 富山県黒部市
 - 黒部市内 前沢ガーデンに白鷹の薬師桜の二世木などを植樹
 - 黒部まちづくり協議会との交流(桜を通じたまちづくり)
- 大分県別府市、由布院町
 - 蔵王温泉で外貨両替
 - 山形大学と連携した外国人の宿泊統計(蔵王温泉)
- 塾生の活躍(例)
 - 大蔵村肘折
 - 08「ニューツーリズム創出・流通促進事業」採択
 - 08~「地方の元気再生事業」採択
 - 09「観光まちづくりコンサルティング事業」申請中
 - 西川町志津
 - 09/3「雪旅籠の明かり」第13回ふるさとイベント大賞受賞

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

- ホームページの開設
 - ★ <http://yamagata-oiaru.jp/>
 - ★ 庄内地区の塾生の提案 管理は庄内地区塾生 平成18年9月に開設 アクセス6,000超
- メールングリストの開設
 - ★ YKMJ@googlegroups.com
 - ★ 最上地区塾生による提案 管理人は肘折温泉の塾生
 - ★ 平成18年12月に開設 MLカウンター 2,000超
- 「山形@人」(冊子)の制作
 - ★ 庄内の塾生による提案・制作(07/3)
 - ★ 発売中 800円



9

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

(2)行政としての成果認識

- 県下ネットワークの構築
 - ★ 県内外の人材との積極的な交流
 - ★ 自主的な交流の場づくり・協力体制
- 塾生の活動の伸展
 - ★ 国と連携した事業の展開
 - ★ 行政境に捉われない活動
 - ★ メディアへの露出

10

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

(3)課題と今後の展開

- 課題
 - ★ 参加者の固定化・偏在化
- 今後の展開
 - ★ より県民主体へ ← 多様な産業、業界の垣根を超えた参加の呼びかけ
 - ★ 草の根展開 ← 参加したくなるような魅力的なプログラムづくり
← 自律的な実践活動の喚起、活動の協同化
 - ★ 知事の名誉塾長就任によるバックアップ体制強化
← 住・産・官一住・産・学・官のプラットフォームづくりの試み

11

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

Ⅲ 塾のコンセプトと運営

(1)塾のコンセプト

- ★ 人材の発見
- ★ 予定不調和
- ★ 活動の孵化

12

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

(2)運営のポイント

- ★ ホメ合いは殺し合い
- ★ 何も無いのは知恵がない
- ★ 蘊蓄百言より現場百回

13

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

(3)新しい観光づくりへの視点の導入

- ★ ENHANCE: 地域の資質(魅力)を際立たせる
- ★ 民俗学 : 文化観光の涵養
- ★ 協働体 : 知恵と汗のネットワーク

松ヶ岡開整場

14

やまがた観光まちづくり塾

やまがた観光まちづくり塾

ご清聴ありがとうございました。



山形県HP <http://www.pref.yamagata.jp/>
山形県観光HP <http://www.yamagatakanko.com/>

連絡先など
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号
山形県商工労働観光部 観光振興課(観光企画担当)
TEL 023-630-2104 FAX 023-630-2097
E-mail: ykanko@pref.yamagata.jp

15

0202
庄内地区学生中心

平成18年度
やまがた観光まちづくり塾の開催

○ 2006年10月28日(土)～27日(日) 庄内地区
 ・酒田市、鶴岡市のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「国産みづくり事始め―豊額と鶴の活力について」
 ・参加者:64名

○ 2006年10月24日(火)～25日 最上地区
 ・金山町、大蔵村付田温泉のまちあるき
 ・講師:早坂賢一 氏
 [別府旅館温泉 ホテルHAMMOND代表取締役]
 テーマ:「人づくり まちづくり」
 ・参加者:51名

○ 2006年11月12日(日)～13日 豊後地区
 ・白根町、高島町のまちあるき
 ・講師:小川勝彦 氏(南数寄 代表取締役)
 テーマ:「加勢を活かしたまちづくりと官民協働の情報発信」
 ・参加者:66名

○ 2007年1月21日(日)～22日 村山地区
 ・山形市山寺、天童市天童温泉のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「街の心を表現する―風情と住まいのデザイン」
 ・参加者:80名

0202
庄内地区学生中心

平成18年度
やまがた観光まちづくり塾の開催

○ 2006年10月28日(土)～27日(日) 庄内地区
 ・酒田市、鶴岡市のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「国産みづくり事始め―豊額と鶴の活力について」
 ・参加者:64名

○ 2006年10月24日(火)～25日 最上地区
 ・金山町、大蔵村付田温泉のまちあるき
 ・講師:早坂賢一 氏
 [別府旅館温泉 ホテルHAMMOND代表取締役]
 テーマ:「人づくり まちづくり」
 ・参加者:51名

○ 2006年11月12日(日)～13日 豊後地区
 ・白根町、高島町のまちあるき
 ・講師:小川勝彦 氏(南数寄 代表取締役)
 テーマ:「加勢を活かしたまちづくりと官民協働の情報発信」
 ・参加者:66名

○ 2007年1月21日(日)～22日 村山地区
 ・山形市山寺、天童市天童温泉のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「街の心を表現する―風情と住まいのデザイン」
 ・参加者:80名

0202
庄内地区学生中心

平成18年度
やまがた観光まちづくり塾の開催

○ 2006年10月28日(土)～27日(日) 庄内地区
 ・酒田市、鶴岡市のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「国産みづくり事始め―豊額と鶴の活力について」
 ・参加者:64名

○ 2006年10月24日(火)～25日 最上地区
 ・金山町、大蔵村付田温泉のまちあるき
 ・講師:早坂賢一 氏
 [別府旅館温泉 ホテルHAMMOND代表取締役]
 テーマ:「人づくり まちづくり」
 ・参加者:51名

○ 2006年11月12日(日)～13日 豊後地区
 ・白根町、高島町のまちあるき
 ・講師:小川勝彦 氏(南数寄 代表取締役)
 テーマ:「加勢を活かしたまちづくりと官民協働の情報発信」
 ・参加者:66名

○ 2007年1月21日(日)～22日 村山地区
 ・山形市山寺、天童市天童温泉のまちあるき
 ・講師:宮城俊作 氏(奈良女子大学教授)
 テーマ:「街の心を表現する―風情と住まいのデザイン」
 ・参加者:80名

0202
庄内地区学生中心

塾生による自主的な取組み

○ ホームページの開設
<http://ysmagata.ojaru.jp/>
 ・庄内地区の塾生の提案
 ・管理は庄内地区塾生
 ・平成18年9月立ち上げ
 ・アクセス5,000超

○ メールिंगリストの開設
YKMI@googlegroups.com
 ・最上地区塾生による提案
 ・管理は最上の塾生
 ・平成18年12月に開設 ML 2,000附近

○ 「山形@人」(冊子)の制作
 ・庄内の塾生による提案・制作
 ・平成19年3月に完成 好評発売中

0202
庄内地区学生中心

塾生による自主的な取組み

「やまがた観光まちづくりネットワーク」設立
 (塾生有志による自主的な組織づくり)
 平成20年9月16日設立
 代表幹事 酒井真実(鶴岡市)
 幹 事 佐藤美知子(尾花沢市)
 志田晴宏(喜川町)
 山口豊作(上山市)
 押田琢哉(最上町)
 徳嶋健一(天童町)
 遠藤友紀雄(米沢市)
 高橋誠(白根町)
 丸山光(米沢市)
 佐藤一夫(庄内町)
 西村裕(酒田市)
 幹事会の役割:塾の企画、塾生会の開催、
 合同イベントの企画、HP・ML運営の企画など
 開催状況
 第1回幹事会の開催 平成20年9月16日(金)
 第2回幹事会の開催 平成20年8月12日(火)
 第3回幹事会の開催 平成20年10月6日(月)

②南房総観光カレッジ

●報告者

- ・NPO法人グローバルキャンパス 理事長 大社 充
- ・館山市 経済観光部 商工観光課 観光プロモーション室 担当課長 熊井 成和

○取組み紹介

地域の明日を語りあう「場づくりの機能」を担うこと、地域が自律的・主体的に観光を推進する上で必要不可欠な「商品開発能力」と「マーケティング能力」を身に付けることを目的として、南房総観光カレッジを開催。カレッジでは、知識の習得と並立し、実践の中で体験しながら成長を促すカリキュラム編成としている。

普通の地域資源を連携して束になってかかる。国の再生事業の支援を受けている。人を磨くという観点から観光カレッジを立ち上げている。コンセプトは考えて、やってみること。教室での講義は基本的な考え方の説明に終始している。宿泊施設再生、地域再生、修学旅行の専門家などの講義、参考図書を読んだの討論などが主な内容である。



成果として、カレッジ内での交流、商品の共同開発、プラットフォームの形成につながったことが挙げられる。課題は、受講生のモチベーションの維持が難しいことで、カレッジとしての勉強だけではなく、イベントの中でのモチベーションが上がることは成果として捉えている。観光・農業・移住定住関係の連携がなく、近隣の行政同士での連携も難しかった。民間人が集まって、自分たちで出資して商品を作っていくプラットフォームづくりの重要性を感じた。

清水氏コメント

課題としてモチベーションの維持や、横の連携が挙げられたが、どの地域でも課題になることである。モチベーションの維持については、「何をするのか」ということを明確にし、目標を定めないと次の目標が見えてこないのではないかと感じている。

会場からの質問

今年観光協会を設立予定だが、まちあるきを主体とした観光を考えている。コミュニティビジネスに移行していく中でモチベーションが低下したときに、行政としてどう発破をかけるべきか教えてほしい。(目黒区)

⇒特に発破をかけたわけではないが、出入りする人に話をしていた。3月まではやる気をもってやってくれた。今年度から継続していくことは課題。(西堀氏)


⇒行政が発破をかけるという考え方はどうか。メンバーの一人として参加していく姿勢が必要。(清水氏)

●発表資料

観光カレッジの舞台－館山

南房総館山です！千葉県です！
立山ではありません！

- 内湾と外洋、海浜は31.7km！
- 12月下旬から花畑が満開！
- 黒潮・親潮が交わり魚介類が豊富です！
- 館の町、館山です！
- フルーツも豊富です！
- 野菜は何でも採れます！
- 実は温泉もあります！



普通の資源を活用するために

I 「館山」ではなく南房総広域観光圏 → H20.10に認定。

II 地域資源の再発見・整理・活用・実践 → 観光カレッジ

- ① 多様な主体(人・活動・情報・機能)を結びつける「地域経営プラットフォーム」の構築
- ② 地域資源を活用した体験・交流プログラムの開発・販売

↓

地域ガイドや地域コーディネーター等の観光人材の育成

南房総広域観光圏（館山市・鴨川市・高野町・新市）
 事務局 館山市経済観光産業局観光課観光プロモーション室 ☎0470-22-2544 <http://kankouken.boso.net>

～南房総・観光学のススメ～ 南房総観光カレッジ

① 地方の元気再生事業

② キックオフフォーラム
1日開催
① 館山・鴨川市・高野町・新市4市域の観光・スポーツの魅力を再発見・再発見・再発見
② カレッジ開催の趣意説明

③ 南房総観光カレッジ
2019年10月20日
① 観光事業者と観光客の両者の視点から、観光の魅力を再発見・再発見・再発見
② 観光事業者と観光客の両者の視点から、観光の魅力を再発見・再発見・再発見

受講生の募集

① 募集状況
41名募集、41名申込
② 11月10日(月)から、南房総広域観光圏のエリアから応募開始

② 受講生の所属分類
館山市 10名
鴨川市 10名
高野町 10名
新市 10名
その他 11名

カリキュラム・日程

基本構成
 展開+観光まちづくり研究会
 Week1 観光まちづくり研究会の紹介
 Week2 観光まちづくり研究会の紹介
 Week3 観光まちづくり研究会の紹介
 Week4 観光まちづくり研究会の紹介
 Week5 観光まちづくり研究会の紹介
 Week6 観光まちづくり研究会の紹介
 Week7 観光まちづくり研究会の紹介

カレッジの成果

受講生ネットワークの形成と商品販売の試行への新発作

- ① 受講生ネットワークの形成
ゼミリングリスト 41名登録
から 35名登録
- ② 商品販売の実践への道筋作り
受講生からの商品提案 26件
受講生らから店が、観光客に向けた「地域コーディネーター」登録(実行委員会)を結成
- ③ 「南房総ほっとはなっと」の展開
実行委員会による商品販売の観光キャンペーン「南房総ほっとはなっと」が開催された。
産地型旅行商品全35商品(南カレッジ受講生提案商品129商品)

もう少しだけ・・・

南房総地域「普通に良いとこ」です
南房総へのご旅行・移住をお考えの際は



にご連絡下さい。

代表者
熊井 成和
 南房総観光局 観光課長
 〒290-0001 館山市 0470-22-2544
 E-mail: kankouken@boso.net
<http://kankouken.boso.net>

●南房総観光カレッジの事例紹介(担当:大社 充)

1. カリキュラム

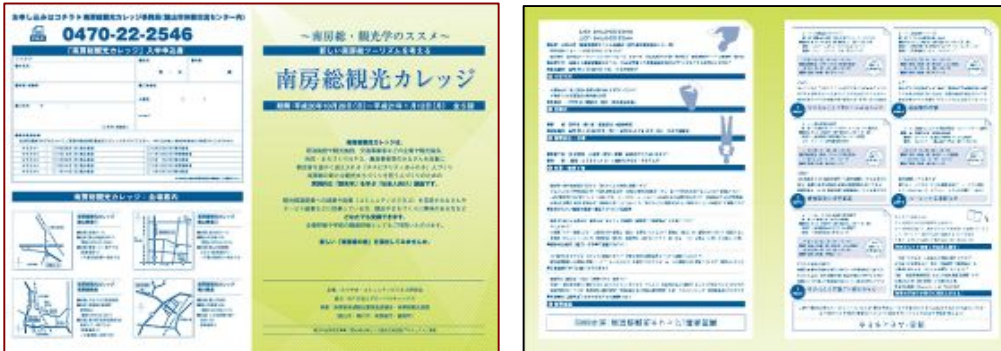
- ・コンセプト We think and try
- ・日程 1回/月、日曜午後と月曜午前、2教室で開催(館山・鴨川)
- ・講義 基本的な考え方を解説
- ・宿題 各自フィールドで調査や実践
- ・研究会 専門家の講義
- ・輪読会 参考図書を読んだ人が要旨を解説してみんなで議論する

2. カレッジの成果

- ・観光関連事業者のネットワークの形成 ⇒ 協働しての商品づくり
- ・集客交流プラットフォームの形成 ⇒ ほっとはなっと実行委員会
- ・域外および新たな人的ネットワークの形成 ⇒ 銀行やJR、大手旅行社ほか

3. 課題

- ・カリキュラムの課題 ⇒ 宿題を遂行するモチベーションの維持、宿題と実践との取り組み方の違い、事務局スタッフがもっとも育つ
- ・地域における総合的課題 ⇒ 継続的な活動を誰がどう支援するのか
- ・リーダー的人材の課題 ⇒ リーダー人材育成の別カリキュラムが必要
- ・自治体の課題 ⇒ 自治体内部の情報の流通と協力体制
⇒ 隣接自治体間の情報の流通と協力体制



③富士河口湖町観光まちづくりカレッジ

●報告者

- ・観光カリスマ・NPO 法人富士山地域創造 代表理事 小佐野 常夫
- ・富士河口湖町 観光課 観光地域プロデューサー 花岡 利幸

○取組み紹介

観光まちづくりカレッジを開催し、観光まちづくりへの取組みを実践。カレッジでの観光まちづくりの実践は、総合観光サービス業を興すこと、その体験を通じて地域振興に資する人材育成を行うことを目的とし、カレッジを続けることで地域に人材が蓄積することを狙いとしている。

昨年 NPO を立ち上げた。行政でやる観光に限界を感じ、形骸化しつつある。隙間を狙うことが NPO の役割である。小さな県としては健闘していると自負している。富士山だけを売り物にするのではなく、日本の歴史文化をどう発信していくかが課題。6月に通訳士協会の山梨県支部を立ち上げる。

観光推進基本計画が作られたのは富士河口湖が最初の例だと思う。まちづくりと観光立町推進を結びつけるものとして観光まちづくりカレッジがある。観光まちづくり推進会議を有志で結成し、カレッジを運営している。推進会議の能力向上、エンジン機能の養成がひとつの特徴。学生が毎年受講しており、これを毎年続けることによって、地域に人材が蓄積されていくことになるだろう。



清水氏コメント

町長がリードしてきたまちづくりは典型的な事例である。退任されてから隙間を狙う NPO を組織し、専門家である花岡氏をプロデューサーとして迎え入れた点はほかとは異なる形態である。

今まで観光産業に関係してこなかった方々を巻き込むことが、今後住民に関心を持ってもらう鍵となる。人材育成のあり方については、やまがたのようにネットワーク化し、塾生がそれぞれの地域で活動するかたち、館山のように事業化し、人材育成をしていくかたちがある。富士河口湖町がこれからどのような方向に進んでいくかを明確にし、行政とのかかわり、既存組織の役割が課題である。


●発表資料

小佐野常夫

NPO法人富士山地域創造 代表理事、
観光力リスマ、
前富士河口湖町長

「20年間、富士河口湖町においてやってきたこと、
その考え方」

五感観光
 香り:河口湖ハーブ館
 見る:河口湖美術館
 触る:河口湖フィールドセンター
 聞く:河口湖ステラシアター
 食べる:河口湖自然生活館
 楽しむ:西湖いやしの里



○観光資源・観光施設の紹介

- ◆1990年、香りの里づくりの拠点町立施設として開設。
- ◆河口湖が女性に喜ばれる文化的な観光地イメージを発信する拠点となる。




河口湖ハーブ館

○観光資源・観光施設の紹介

- ◆1991年、町立美術館として開設。
- ◆民間観光施設が度々に立地する呼び水となる。




河口湖美術館

○観光資源・観光施設の紹介


- ◆1994年、フィールドミュージアム(野外博物館)の拠点として町立開設。
- ◆世界的に貴重な溶岩柱林を含むトレイルを利用した自然解説が教育旅行の要所となる。




河口湖フィールドセンター

○観光資源・観光施設の紹介

- ◆1995年、町立の野外音楽堂として開設。
- ◆客はコンサートと観光を兼ねて河口湖を訪れる。
- ◆2007年、可動式屋根を設置。



河口湖ステラシアター

○観光資源・観光施設の紹介

- ◆1996年、新しい特産品としてのブルーベリーの普及拠点として町立で開設。
- ◆ブルーベリーグッズの販売とともにジャム作り体験も人気。




河口湖自然生活館

○観光資源・観光施設の紹介

- ◆2006年、西湖の茅葺屋根の原風景を再現した観光拠点として町が開設。
- ◆山梨の様々な伝統文化を体験できる。



西湖いやしの里

花岡利幸

観光地域プロデューサー
山梨大学名誉教授

「観光まちづくりカレッジを通じた観光立町推進への取り組み」

観光まちづくり推進会議
総合観光サービス事業
三つの演習テーマ

1. きのこの森づくり
2. ペラコミュ誌づくり
3. 朝市の開催と周辺散策

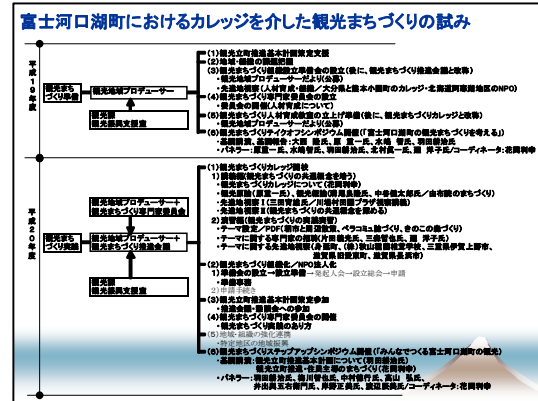
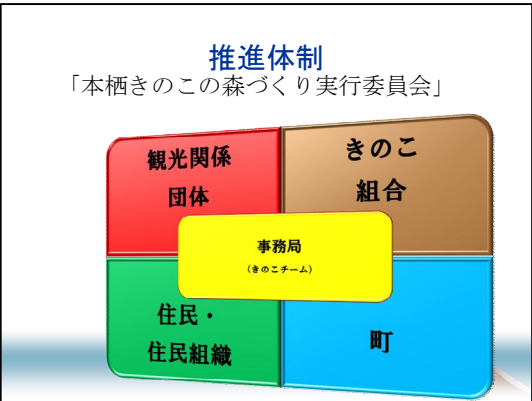
観光まちづくりカレッジ 演習テーマ

「本栖きのこの森づくり」

「ブランドきのこづくり」～「きのこの森づくり」
～「人びとが楽しみ癒され、人と共生する森づくり」～

きのこの森づくりチーム

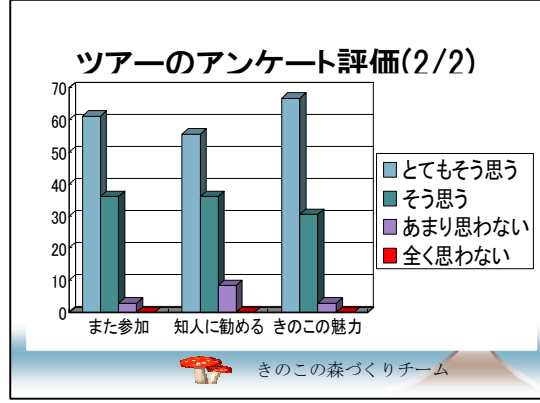
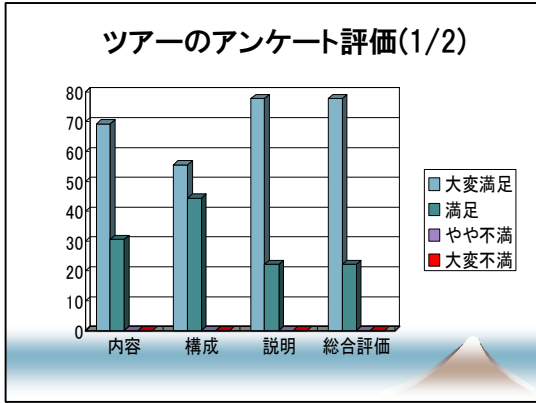
メンバー
杉野 靖司、井上 武
木下 勝己、岸野 正美
小池 亦彦、深井 豊



富士河口湖町観光まちづくり実践カレッジの特徴

目的	構成	内容	詳細内容、特徴
イゴール	観光まちづくりの要諦	観光まちづくりの要諦	・DJT型、地域密着型、プロジェクト志向
演習	観光まちづくり推進会議 観光まちづくり推進会議	観光まちづくり推進会議 観光まちづくり推進会議	・フラグマディズム
運営主体	観光まちづくり推進会議	観光まちづくり推進会議	
学主専業	専任行政観光推進支援 専任行政観光推進支援	専任行政観光推進支援 専任行政観光推進支援	
カリキュラム	研修演習	研修演習	
講師	観光まちづくり推進会議	観光まちづくり推進会議	
講師(特記事項)	観光まちづくり推進会議	観光まちづくり推進会議	





<パネルディスカッション> 「新たな担い手による観光地域づくり」

コーディネーター 水嶋 智 (観光庁 観光資源課 課長)

● 青森県下北郡大間町 まちおこしゲリラあおぞら組 島 康子 氏

○取組み紹介

フェリー客に向けて「旗ふりウェルカム」活動おっぴ始める/大漁旗を手に、頭を手ぬぐいまいてフェリー埠頭に出発。大間-函館のフェリーのお客様に向かって「よぐ来たの〜！」と叫びながら大漁旗を振って歓迎。帰りは「へばの〜！」とお見送り。「金がなければ勇気を出せよ」と始めたゲリラ活動だったが、今では大間の歓迎・お見送りスタイルとして定着した。おもしろがる心で地域を元気にする試みに挑戦し、「マグロを生かしマグロを超える」まちづくりに取り組んでいる。

大間町は本州最北端、僻地と言われており、子供のころは都会への憧れが強かった。今は自分たちのいる大間町が世界の中心だと思い、その思いをエネルギーにして活動している。あおぞら組の名前で2000年から活動を開始。あおぞら組の活動は「金がないなら勇気を出せ！」と「旗振りウェルカム隊」から始まった。町民の反応は良くなかったが、「ばか者」活動を10年積み重ねるうちに、大間の見送りスタイルとして定着した。



2000年頃は大間のマグロを大間で食べられなかったが、2001年からマグロを資源に集客する「マグロ祭り」など行政に頼らない取組みを始めた。商店主たちによるマグロ解体ショーや、漁師の娘や奥さんたちの観光ガイド「大間エスコート」を結成し、新たな担い手が登場した。今後の課題はコンソーシアムをつくり、「地域を組織化」できる仕掛け・仕組みをつくることである。

島氏の取組みと既存組織との関係についてお聞かせ願いたい。(水嶋課長)

町の人は当初、冷ややかな反応だったが、次第に暖かい反応へ変化し、最近は次のアクションに期待してもらえるようになったが、既存の組織や業者との温度差を埋める難しさを痛感している。競合せずに既存の組織や業者の人も収益を上げる仕組みづくりが必要になると思う。(島氏)


●発表資料

自分がいる。ここが世界の中心だ！



北海道 函館市 本州
津軽海峡 大間町 心つ市
津軽半島 下北半島
日本海 青森県 青森市 野辺地町

NHKドラマ「私の青空」をきっかけに
頭がおかしくなったメンバーで「あおぞら組」結



2000年春～怒涛のゲリラ活動スタート

金がなければ、勇気を出せ！



「旗ふりウェルカム隊」が出発！



世界をまたにかけ
ゾーショッカーが大暴れ！大間T増殖計画

アテネ・オリンピックで大ヒット！



大間の「エバリモノ」が、風を起こす。

町民スター化大作戦



ガイズン顔モデル



漁師のジジモデル



5月5日に空を泳ぐ
アノ魚を
マグロ化したい！
「ニッポン列島
マグのぼ化計画」

大間で、なぜ大間のマグロが出せないのか！



自分たちのできることを、やってみよう！



2001年からのチャレンジ
「朝やげタやげ横やげ～大間超マグロ祭り」



たった1本のマグロから始めた。



1. イベント用ではなく、商業として特大マグロを流通させる仕組みができた。
2. 日前的人観光地・函館にPR攻撃。「横やげ～」を見てほしい。宿泊させるための仕掛け。
3. マグロの大きさと漁師の鼻穴を見てほしい。産地ならではの臨場感。

ひとりフィルム・コミッション力で漁師をメディアに登場させる。



伝説のマグロ漁師・浜端アニ(大間漁協・組合長)

勝手にデスティネーション・キャンペーン



「オーマの休日」で地域の素材をつなげていく

● 千葉県富津市 観光地域プロデューサー 島田 昌幸 氏

○取組み紹介

新たな観光地を創出していくため、①担い手創出のための受け入れ体制整備、②担い手創出のための持続可能な生活様式の整備、③観光地を創出するための基礎となる地元住民の形成、④経済活動を取り入れたコミュニティビジネスの展開、⑤自立した活動を継続するための研修実施、⑥地域資源の整理と独自のプログラム開発、⑦担い手発見のための情報発信、⑧地域資源を活用した地域商材の開発と情報発信、等に着眼しながら活動を実施。

「石と芸術のまち」がテーマだが、石や芸術は経済活動につながらないため、まず、やる人だけでできることから始めた。年間 200 日程度地域に滞在し、地域住民と話し合いを重ね、ネットワーク構築の一環として「石の舎（いしのや）」という施設を開設した。近隣市町村で食事をする観光客へ案内所で地元飲食店の紹介も始め、街の中核企業の応援で地場産品のお店を運営している。



ある時期からマスコミに注目され、人に評価されることで少しずつ地域住民の主体性が高まってきている。プロデューサーの役割はプロデューサーがいなくても地域を運営できる方法を教えることなので、スケジュールと到達点を明確にしている。お金になることがわかると地域住民も協力的になり、商品開発も活発になってきた。

7つのステップに着眼し、3年間の計画を立てている。外国人向けのマーケット、日帰り観光客に対応しきれない点は弱みだと認識しているが、これを強みに変えて、鎌倉や京都に行く時間がなくても金谷で満足してもらえるものをPRしていきたい。

島田氏と木村氏はよそ者、島氏はUターン組、宇田川氏は地元の若者とそれぞれ立場は違うが、素晴らしい取組みを行っている。よそ者としての木村氏の意見を伺いたい。(水嶋課長)

当初は自分の言っていることを理解してもらえなかったのが課題だった。まずは一緒にいる時間や空間を作ることでハードルを越えていったのではないかなと思う。(島田氏)

●発表資料

観光地域プロデューサー事業
観光地域づくり人材シンポジウム

地域のだれもが「観光にやさしいまち」をめざして
地域の一人一人が自分の町の知識をもつこと・おもてなしの心をもつことを目標に

平成19年度からの実績

- ①観光案内所の設置
- ②地場産品のお店『海農里』のオープン
- ③年間2万人を超える観光客の増加
- ④観光案内所の設置による飲食店の売り上げ増加
- ⑤起業家1名の創出
- ⑥Uターン起業家1名の創出
- ⑦年間368数名の若者が遊休地開拓を実施
- ⑧地域連携を実施しながらの体験プログラムの開発
- ⑨芸術家の若者による石の刻道の創出
- ⑩地域資源を活かした商品開発実施
- ⑪商品販売による年商1500万円の地域波及効果
- ⑫ストーンマイスター制度の策定

※学芸員 芸術家の誘致・富津市観光案内所の設立・商品開発・地域資源再発見 再発見型(新しい歩き方)のパネル展(写真展)の作成打ち合わせ等の実施

1. 島の個性観光推進計画内所整備 地域住民の育成 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成	2. 芸術家の誘致の推進 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成
3. 地域資源の活用 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成	4. 新しい歩き方 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成
5. 地域産品を活用した商品開発 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成	6. 地域観光客の誘致 ・島民向け 島民カフェ・島民情報館(島民サービス)の開設 島民イベントの開催 ・島民の育成 ・島民の育成 ・島民の育成

観光案内所「石の舎」の運営の仕組みについて
(プロデューサーに必要な書類)

● 静岡県伊豆の国市 観光地域プロデューサー 木村 美穂 氏

○取組み紹介

グラフィックデザイナーとしての職業を生かし、「観光にもデザイン力」をコンセプトとして、まちの観光活性化に取り組んでいる。市内の素材調査、デスクリサーチ、首都圏在住の方の宿泊モニター調査結果を元に、女将さんを中心としたワークショップや講演会の開催、プロカメラマンによるキービジュアル撮影を行い、それらを利用したイメージポスター製作、ホームページ改訂などを実践している。

職業はグラフィックデザイナーだが、デザインはものの素材を見て、誰にどう伝えるかが重要であり、それは観光まちづくりと共通する部分であると感じている。「伊豆の国市」という素材をどうデザインして発信するかと考えている。伊豆の国市の素材はたくさんあるが、どれも小さい。しかし、小さな点が線になり、面になれば、いい方向に向かうのではと思っている。



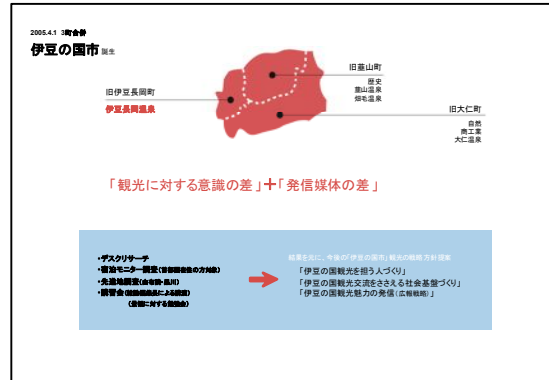
流行をつかってきた50代の女性とその娘世代を対象に宿泊モニター調査を行った結果、問題点は首都圏の客がどう感じているかを理解していないということがわかった。この結果を元に戦略方針を定めた。女将さんや仲居さんを集めて、モニター結果を見せ、ワークショップを開いた。女性が外に出て意見を言う機会がなかったが、これをきっかけに女将さんたちにも活動の機会ができた。

一貫して取り組んできたのが、「首都圏から」、「異業種から」、「女性から」という3つの視点でまちをデザインすることである。自分たちの街の魅力を再発見して、意識改革をしていきたい。

木村氏のように20代の異分野の方が観光地域プロデューサーに採用されたのはうれしい誤算である。現場での本音トークをお聞かせ願いたい。(水嶋課長)

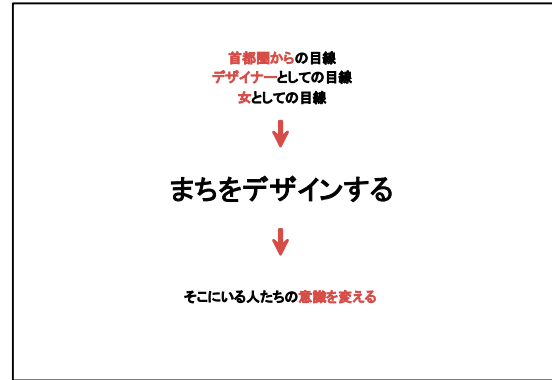
実際に会議に出席して珍しさもあり発言できる場もあったが、サポートしてくれる町の人が心の支えにもなった。(木村氏)

●発表資料



- 1 観光コミュニケーションワークショップ (1つ1つ個別課題解決も、内容を検討し調整)
 - 1-1 女将さん会ワークショップ (宿泊モニター調査結果を元にまちづくり)
 - 女将さんを中心としたおもてなしの実践と具体的な対応のレベルアップ
 - 1-2 情報コミュニケーション講習会 (講師に合わせたワークショップ)
 - 観光・観光関係者の参加(交流)と観光関係の下地となるネットワークの形成
 - 今年で観光関係者が少ない(観光関係者の少ない)ネットワークの形成
 - 観光関係者の「素材」を生かした観光まちづくり(観光の必要性)に対する意識の変化
- 2 観光ポスターキービジュアル撮影
 - 2-1 キービジュアル写真撮影(春・夏・秋・冬・春・夏・秋)
 - 2-2 キービジュアル写真を使用したイメージポスター制作
 - イメージポスターの制作(観光客の増加)と観光客の増加
 - ポスターの魅力を発信するポスター(観光客の増加)と観光客の増加
 - 2-3 ホームページの改訂
 - 利用コースを拡大、検索しやすく、デザイン的にも魅力あるページへ、キービジュアル撮影の成果を活用し改訂(HP)
 - 2-4 観光地下鉄大戸線 案内広告(新幹線内付)
 - 2-5 ポスター、もも、観光デザイン(主要イベント本のデザイン)及び、観光関係、内容等の見直し
 - イベント参加者、来場者の増加
 - 観光客の増加(イベント内容の、より効果的な発信方法を考えるように)
 - 2-6 観光客の満足度向上
 - 観光客の満足度の、観光客の満足度の向上
 - 観光客の満足度の向上(観光客の満足度の向上)
 - 2-7 パンフレットのデザイン/パッケージ制作





● 鳥取県米子市 皆生温泉旅館青年部 皆生つるや 若女将 宇田川 育美 氏

○取組み紹介

「エメラルドグリーンに輝く皆生海岸シーカヤック体験&エコツアーリズム推進事業」として、皆生温泉を含む大山・中海エリアで、自然を利活用したエコツアーリズム事業を推進。平成 18 年皆生温泉旅館組合青年部が主体となり、皆生レクリエーションカヌー協会（KRCA）を設立。青年部自ら指導免許を取得し、カヤック体験ツアーを当地の着地型観光メニューとして提供している。昨年「第 19 回全旅連青年部全国大会褒章」にてグランプリを受賞した。

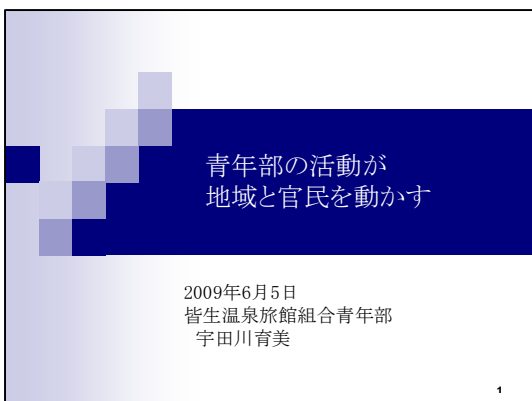
旅行形態の変化などが原因で皆生温泉の客数は減少傾向にある。現状を打破すべく、山田桂一郎氏を迎えて状況改善に取り組んだ。2006 年から「シーカヤックとエコツアー」として、旅館の若旦那たちが指導免許を取り、カヤックスクールを開設した。2007 年、行政・民間団体が集まった「大山・中海・隠岐エコツアーリズム協議会」が設置された。「第 19 回全旅連青年部全国大会褒章」で、「シーカヤックとエコツアー」がグランプリ、旅館の廃油を障害者施設でバイオディーゼルにして販売すし、園児と旅館のバスのバイオディーゼルによる運行を行っている「障害者施設と BDF 事業」が優秀賞を同時に受賞した。また、限界集落で青年部オリジナルの地酒作りを行い、宿泊客に提供して喜ばれるなど旅館、行政、企業などの思いが一致した事業となってきた。皆生温泉と地域への郷土愛を持ち、意見を言うだけでなく実行し、自分たちも楽しむことで、地元住民との連携を今後も続けていきたい。



団体型から個人型への対応、環境問題に取り組む姿などわかりやすく紹介していただいた。仲間たちとのチームワークについてお聞かせ願いたい。(水嶋課長)

本業は旅館業であるが、地域のまちづくりも同時に取り組まなければならないという状況は、時に心が折れそうになることもある。しかし、持続していくことの重要性を感じている。旅館組合青年部をはじめとする周囲の人びとは、何かあったときには痛みを分かち合う、助け合う大事な存在となっている。(宇田川氏)

●発表資料



自己紹介


皆生温泉旅館組合青年部、皆生つるや若女将

皆生温泉旅館組合青年部

- 男性7名 女性2名 合計9名
- 平均年齢37.2歳

皆生つるや〜四季を奏でるさらさの宿

- 創業時7部屋よりはじめて現在は3000坪の敷地、300名の収容人員
- 平成18年国土交通大臣表彰受賞



3


全旅連青年部グランプリ & 優秀賞 ダブル受賞の快挙

第19回全旅連青年部
全国大会褒賞
2年に1度全国の青年部の
最優秀活動を決める

G P賞 ①シーカヤックとエコツアー

優秀賞 ②障害者施設とBDF事業

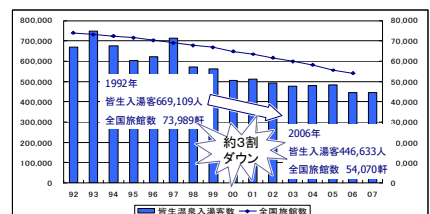
③限界集落と日本酒作り



4

皆生温泉の入込客数

全国の旅館数と皆生温泉の入湯客数15年間比較



年	皆生入湯客数	全国旅館数
1992年	669,109人	73,989軒
2006年	446,633人	54,070軒

約3割ダウン

典型的な団体旅行依存型

出典：鳥取県文化観光局観光課及び厚生労働省調査


5

青年部が将来を危惧

いろいろな知恵をお借りする

このままでは皆生温泉の将来は暗い・・・
自分たちの町づくりに積極的にいかかわろう！

2006年8月3日観光カリスマの
山田桂一郎氏
皆生温泉のアドバイザーに招聘。
世界の観光を教えてください。



青年部と議論を重ねる
モンベルの辰野会長など紹介いただく

6

ビデオ紹介

～各マスコミ報道紹介



7


エコツーリズムに将来を見出す

皆生海岸を有効活用

自然豊かなこの地の自然を活かす

2006年11月17日
若旦那・若女将自らが運営する
カヤックスクール開設
(皆生レクリエーションカヌー協会)
・若旦那5人がカヌー指導員資格取得
・若女将ほか地元有志15名で構成

海の上は真夏でも涼しく快適！自然を満喫！



8

青年部の思いが官民を動かす

大山・中海・隠岐エコツーリズム推進協議会

2007年3月21日エコツーリズムサミットを開き、
「大山中海エコツーリズム推進宣言」採択

▼

エコツーリズムへの思いが行政を動かし
官民一体の協議会設置 (2007年4月)

▼

バラバラに活動していた観光関係体がエコ
ツーリズムを意識した動きとなり、地域全体で誘
客を図ろうとする意識が醸成。

9

エコ活動と障害者自立支援

BDF(バイオディーゼル燃料)がつなぐ輪

利益追求のツアー一造成ばかりではだめ

青年部で障がい者の皆様のお役にたきたい、環境問題に取り組みたい！

→ 障がい者との協働活動

- ・廃食油を回収し障がい者施設でBDFに精製・販売
- ・廃食油提供による自立支援協力
良質かつ大量の廃油を無償で提供
- ・BDF購入による自立支援協力
旅館の送迎マイクロバスの燃料をBDFに転換し、障がい者施設からBDFを有料(110円/ℓ)で購入



10

エコ活動で幼稚園と連携 BDF (バイオディーゼル燃料) がつなぐ輪

将来を担う子供たちに
皆生温泉への愛と誇りを持ってもらいたい



カヤック体験会を通じて連携
→ 園児バスと旅館バスの
BDF合同出発式開催

人生最初の環境問題教育
赤澤亮正衆議院議員挨拶
「ライオンバスに乗ると地球が元気に！」

11

グリーンツーリズムへの取り組み 限界集落で青年部オリジナル地酒造りの商品化

- ・若旦那や若女将と一緒に酒造りの農業体験
- ・できたオリジナル日本酒を宿泊客に提供



限界集落
65歳以上の人が人口の半分の上代集落

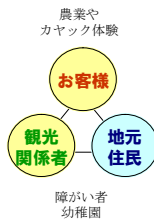
コラボレーション

皆生温泉：健康と環境での誘客
行政：地産地消推進・地域連携
酒造会社：観光分野と連携
限界集落：地域おこし

12

まとめ 愛と誇り

- 皆生温泉を愛するからこそ
家業を継ぐ～愛と誇り・郷土愛
- 「NATO廃絶」
No action Talk only ではだめ！
by山田桂一郎氏
- まず、やっている自分たちが楽しまなげや。
- 観光事業者だけではなく、地元の方やお客様と一緒に持続可能な事業を目指す。



13



14

<会議総括> 観光庁 観光資源課 課長 水嶋智

本日のシンポジウムのテーマは、「それぞれの地域がどのように活動し、そのために国は何をやるべきか」ということだった。

清水氏の講演から「よそ者・若者・ばか者から脱却」が紹介されたが、実際には「よそ者・若者・ばか者」ですら活用できない地域も多い。最後のパネルディスカッションは若い方たちの生の声を聞く機会があってよかったのではないかと思う。

<閉会挨拶> 観光庁 観光地域振興部 大黒伊勢夫

今回は観光地域づくりの人材育成について尽力している 32 名の方からご発表をいただいた。本日のシンポジウムは具体的な事例を挙げて、その意義や成果を共有できたと思っている。

シンポジウムの中では横の連携が重要であるという話があった。若い人はバーチャルな世界を志向する傾向にあるが、それを打ち破るためには体験型の企画を地元で提供する必要性を感じた。

持続可能な組織運営など、観光振興には人材育成が重要であることを再認識した。本シンポジウムを契機とした各地での人材育成に期待したい。また、この後の交流会でもネットワーク構築の一助となることを期待したい。

3 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業

3-1 児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業の概要

児童・生徒によるボランティアガイドの育成における課題を整理し、その解決策を検討すると共に、児童・生徒によるボランティアガイドの普及促進を図ることを目的として、昨年度に引き続き本モデル事業を実施した。

平成20年度においては全国の4団体でモデル事業を実施し、その取組み結果を踏まえ、児童・生徒によるボランティアガイド普及促進に向けた「手引き書構成（案）」の内容について検討している。平成21年度は前年度に引き続きモデル事業を実施したが、ここでは同「手引き書構成（案）」の内容を検証し、その結果を児童・生徒によるボランティアガイドに取組む上での「手引き書」として取りまとめることを狙いとした。

そのため、各モデル地域においてはボランティアガイドの取組みを進めるとともに、その取組みを通じて児童・生徒によるボランティアガイドを実施する上での課題の整理、解決策の検討を行うこととした。各モデル地域での検討結果を踏まえ、指導者、児童・生徒それぞれに向けた「児童・生徒によるボランティアガイド手引き書」を取りまとめた。

なお、モデル事業については平成21年6月1日（月）から6月30日（火）までの期間で公募を行い、次頁以降に示す16の団体を選定した。

3-2 モデル地域と取り組み概要

平成21年度、児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業において、モデル地域としてボランティアガイド事業に取り組んだ地域と実施主体、取り組み内容についてまとめた一覧は以下の表のとおりである。

地域・事業名・実施主体	成果と課題	取り組みの特徴
1 【北海道 松前町】 ●児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業 (松前町ツーリズム推進協議会)	【成果】 ・児童生徒：町の魅力を自らの言葉で語れるようになった。地域社会の一員としての自覚を持つようになった。 ・地域社会や保護者：観光ホスピタリティの醸成に向けた取り組みが、地域全体で見られるようになった。 ・実施主体：新たに「観光地域づくりマネジメント部会」を設置し、地域の人材を掘り起こすための支援体制を構築した。 【課題】 ・児童・生徒への普及には、学校の教育課程(校内指導)または課外活動など、学校の方針(指導体制)が課題。 ・他校との交流やスキルアップ講習など、ガイド研修に必要な財源確保も継続的な取り組みを行っていくうえで重要な課題。	●高校と観光推進団体(協議会)との連携事業／高校生 ●フォトワーク(風景を撮影した写真)を使ったガイド学習 ●資料：ガイドブックの作成(ガイド用)、フリップを尾提示(お客様用) ●大人1名、学生2名のパートナーでガイド ●ボランティア保険加入
2 【北海道 弟子屈町】 ●てしかがえこまちJr.事業 (てしかがえこまち推進協議会) ⇒事例紹介⑤ ガイドのための資料づくり	【成果】 ・児童生徒：他者とのコミュニケーション、プレゼンテーション能力の向上 ・地域社会や保護者：学校行事(文化祭や参観授業)において、ガイドに参加した子どもが、多人数を前に堂々と立ち振舞っているという声が聞かれた。 ・実施主体：来訪者からは好評であり、満足度の向上に貢献。 【課題】 ・参加人数が少ない。 ・「よそのお客様にガイド」が子どもたちにとってハードルが高く、参加動機へと結びついていない。 ・「体験→ガイド」というプロセス ・学校との連携(公募でのグループとは違った動きが期待できる)	●観光推進団体(協議会)の事業／小・中学生 ●プロのガイドを講師にしたガイド学習 ●資料：ガイド内容にあわせた写真・イラスト資料(ガイド用)、既存資料配布(お客様用) ●事前下見、現地情報の把握、参加児童・生徒の行動から直接指導 ●ヒグマ、ハチ、ウルンなどのリスク回避のための現地情報把握、季節・天候による服装
3 【北海道 室蘭市】 ●大型客船ダイヤモンドプリンセス号の寄港にともなう乗員乗客の通訳ボランティア活動 (海星学院高等学校)	【成果】 ・児童生徒：ボランティアを通して、普段、学校で学んでいる英語により力を入れるようになった。しかし、生徒自身が英語を使って、社会で何をしていくべきかを考える良い機会となった。 ・地域社会や保護者：5年間継続してボランティア活動をすることによって、地域の方からも本校の取り組みを高く評価。生徒が自分たちのあるべき姿を自覚するとともに将来への視野を広げることができた。 ・実施主体：国際理解教育の大きな柱、学校の教育方針を示す際の具体的な取り組みの一例。新聞や市の広報にも毎年掲載され、学校の取り組みを地域の方に知っていただく大きなチャンスとなった。 【課題】 ・生徒の英語力の向上。 ・一般の方からの期待が年々高まってきているが、おもてなしの心を最優先に考えたボランティア活動を今後もしていくことが大切。	●私立高校の行事としての外国人観光客案内／高校生 ●英語教育(修学旅行のホームステイ)と航空会社の元客室乗務員によるおもてなし講習 ●資料：英語による資料作成(ガイド用)、既存資料配布(お客様用) ●場所ごとにガイドのグループを配置 ●ガイドの生徒の配置にあわせた教員の巡回と配置
4 【青森県 八戸市】 ●山の楽校ボランティアガイド育成事業 (社団法人八戸観光コンベンション協会) ⇒事例紹介① ボランティアを行う環境づくり	【成果】 ・児童生徒：自分たちなりにどうすればお客様にうまく伝え、喜んでもらえるかということを中心に考えるようになり、ガイドとして確実に急速に成長している姿を強く実感。 ・地域社会や保護者：本事業の趣旨を十分理解し、子どもたちの送迎や事業での安全管理などあらゆる面ですべての人たちが、全面的なバックアップ。 ・実施主体：訪客に直接つながるとまではいかなかったが、市民一人ひとりが観光案内人として人材を育てる事業を進めており、大変有意義である。お客様に喜んでもらえるのはガイドでする技術ではなく、本心で知ってほしい、喜んでほしいという気持ちが第一であるということを学んだ。 【課題】 ・学校、受入施設、保護者すべての理解がないと、事業はうまく進まない。	●観光推進団体と中学校、観光交流施設の事業／中学生 ●現役のガイドやガイドを目指している人(何れも大人)、地元の郷土史家、役所職員、講師派遣などによる講習 ●資料：講習や体験(蕎麦打ち、煎餅焼き)の学習ノート(ガイド用) ●移動時の安全確保を保護者、観光交流施設スタッフが担う ●体験内容は指導できる地元の人たちがフォロー
5 【東京都 中央区】 ●ボランティアガイドによる江戸日本橋観光めぐり事業 (特定非営利法人東京中央ネット)、(日本橋美人推進協議会)、(江戸日本橋観光めぐり事務局)	【成果】 ・児童生徒：生徒がコースなどを企画したため、学区付近の地域の観光資源を調査し、地域への理解が深まるとともに郷土愛の醸成ができた。 ・地域社会や保護者：生徒主導の地域活性化活動は、地域の企業や団体に受け入れられ、事業所からの説明を得るなどの協力を受けることができた。 ・実施主体：江戸日本橋観光めぐり事務局が日本橋女学館と協働したモデル事業の実施を、参加者や地域企業や団体にPRする良い機会となった。 【課題】 ・実費負担の場合、質の高さは大きな問題とならないが、活動を継続的に継続するため最低限の参加費を徴収する際は、ボランティアガイドの質を高め、参加者の満足度を高める必要がある。	●都心部のNPOと地元企業による観光推進団体(協議会)、私立高校による事業／中・高校生 ●地域の商店や資料館などが連携 ●都市やワークショップの専門家による講習 ●資料：説明資料(ガイド用)、お褒めポイントを記載したマップと概要書(お客様用) ●傷害保険の加入、教員・事務局スタッフの配置、事前の現地視察(ルートなど)
6 【新潟県 佐渡市】 ●宿根木観光ボランティアガイド事業 (佐渡市立小木中学校)	【成果】 ・児童生徒：参加者アンケートの結果96%が、「ふるさとを自慢できる」と回答。生徒が表現力の向上を実感したこと、初めてガイドに参加した生徒は、ガイドを通してコミュニケーションの力が付いたと実感。自分なりに工夫して、説明することができるようになった生徒の割合が多くなった。 ・地域社会や保護者：「高齢化が進みさびれていく集落に刺激を与えてくれた。」「生徒の活動を通して紹介される有名になることはうれしい。」などの声が寄せられ、活動への理解が深まってきた。地域住民が集落の価値や意義を改めて気づいてきている。新たに喫茶店や食事処が開店するなど、地域の活性化にも貢献。多くの地域住民からサポーターとして生徒の安全を見守っていただくなど、活動を支える体制が構築。保護者は、この活動の意義や教育的なねらいを学校だけでなく、家庭でも理解が深まってきた。好意的な感想、生徒の送迎にも協力的。 ・実施主体：観光客との応対を通して、大きな声でのあいさつや正しい言葉遣いなど、基本的な生活習慣を学ぶ場としても大変貴重。場面に応じて来客等の外部の人に児童生徒がしっかりと対応している。 【課題】 ・佐渡島内だけでなく、県内外から取材や表彰等が相次ぎ、学校の一活動でなく、地域に対してある程度の責任が生じている状況。今後当分の間は継続させる必要があり、部員確保が最大の課題。 ・現在、入部希望者は十分にあるが、生徒数減少を見越して、卒業生にも参加呼びかけを継続していく必要がある。 ・ますます膨らむ地域の期待に応えられるよう、活動の質の向上にも努めていかなければならない。	●伝建地区の中学校の希望者による事業／中学生 ●夏休みを利用した「総合的な学習」の成果をガイド ●伝建地区の市民団体、地域団体によるガイドの指導 ●資料：過去の積み重ねのデータを更新したものを原稿として使用(ガイド用)、過去の総合的な学習で作成したパンフレットを限定配布(お客様用) ●伝建地区の市民団体、地域団体3団体よりサポーターを配置3~4人の大人が安全確保

地域・事業名・実施主体	成果と課題	取り組みの特徴
<p>【新潟県 新潟市】</p> <p>●宮浦中ガイド学習・佐渡汽船で新潟紹介にチャレンジガイドの先輩小中宿根木ガイド見学事業 (音談集団「ECHIGO」・有限会社ビープロデュース)</p>	<p>【成果】</p> <p>・児童生徒：小中中の宿根木ガイドを見学した後、自分たちのガイドに対して意欲的に取り組むようになり、ガイド内容も佐渡研修の内容を織り込み、自分たちのガイド学習への考えが前向きになってきた。</p> <p>・地域社会や保護者：生徒のガイド意欲が高まると、ガイド学習の真剣さが伝わり、協力体制をとるようになった。</p> <p>・実施主体：学校との連携が深まり、休み期間を利用しての学習・校外学習に対しても、担当教諭が必ず引率・参加するなど、生徒たちが取り組みやすい環境づくりができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・新潟市内でも、中学生のボランティアガイドの重要性が認知され始め、各種方面より依頼があった場合の対応、受け口が課題。</p> <p>・学校側が主体となって行うのがベストであるが、学校負担がかなり大きく、どのような形で継続していくかも課題。</p> <p>・今回の事業、佐渡汽船内での発表や研修は、希望者・有志が実施したが、総合学習として今後継続していく場合は、人前で話すのが苦手な生徒の対応も考える必要がある。</p>	<p>●放送関連の民間企業と中学校、行政機関などの連携による事業／中学校</p> <p>●汽船内でのガイド実施、地元のガイド団体による指導、アナウンサーによる当日指導</p> <p>●資料：船内上級用パワーポイント、ガイド団体作成による資料(ガイド用)</p> <p>●船内での動線の確保、交通事故対策のためのジャンボタクシーの利用</p>
<p>【長野県 原村】</p> <p>●子どもたちによる、原村の魅力発見・共有による地域力向上 (原村・はらこども教室「わWAO」)</p>	<p>【成果】</p> <p>●子どもたちによる、原村の魅力発見・共有による地域力向上 (原村・はらこども教室「わWAO」)</p> <p>【課題】</p>	<p>●村が主宰する生涯学習団体と公募した小学生による事業／小学生</p> <p>●村のイベントと移住・交流推進のモニターツアー時にガイドを実施</p> <p>●住んでよし、訪れてよい観光地として、子どもたちが暮らしに密着した案内を実施</p> <p>●資料：児童が作ったシートのポストカードを村の観光マップに織り込み冊子化</p> <p>●ボランティア保険加入、ガイド時はスタッフが危険防止に</p>
<p>【岐阜県 多治見市】</p> <p>●多治見観光ボランティアガイドとボーイスカウト多治見協議会によるガイド養成事業 (多治見観光ボランティアガイド、多治見ボーイスカウト協議会)</p>	<p>【成果】</p> <p>・児童生徒：地元の産業、文化、歴史について学校で学んだものと生活の中の手柄が繋がっていることに直面、受け継いでいくことの大切さを感じた。世代が離れた団体の事業のため、上の世代からは基礎能力の鍛錬不足を感じるという感想が多く寄せられ、若い世代からは「ガイドさんが一生懸命なの自分たちも教わるという気持ちになる。」という声もあった。普段の生活圏外の人と交流することからコミュニケーション力を付けていく1歩となる。</p> <p>・地域社会や保護者：子ども同様保護者にも、地元の歴史、文化に(直接興味が無ければ)深く学習する機会がないので(都市のベッドタウン化しているため、地域の知識も少ない方が多い)一緒に興味を持ち参加希望者が出てきた。活動に賛同いただき参加にも協力的。</p> <p>・実施主体：観光ボランティアガイドの高齢化、新規加入者の高齢化といった問題から、ボーイスカウトという子ども団体と連携することにより知識の伝承、活動の共有を意識することができた。世代間の考え方、受け止め方の違いを双方確認しあう事ができ普段の活動にはない刺激を受けた。今回はこうした活動のきっかけであり、今後継続していくにはどうしたら良いかということをもボランティアガイド、ボーイスカウトの指導者双方同じ認識で話し合う事ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・子ども達に伝えていくことには、予想以上に時間がかかる事を実感。</p> <p>・教育観光としてガイドをする場合、年齢、生活環境を深く考慮しより噛み砕いた知識でのガイドが必要。</p> <p>・取り組み期間が5ヶ月しかなく、活動時間の調整が大変だったが、今後の目標が互いにできた。</p> <p>・2015年にボーイスカウトの世界大会が日本で開催されるのでその受け入れ準備も兼ねて年間活動計画に観光ボランティアガイドの育成事業を盛り込み、英語を中心に海外からの訪問者への対応に取り組む。</p> <p>・高校生まで広げたいものにしていく。</p> <p>・英語版、中国語版、韓国語版のパンフレットを市(行政)が制作しているが、予算的に毎年増刷はできないので、民間の語学ボランティアに声をかけて一緒に活動していくことも必要。</p> <p>・観光ボランティアガイドは後継者育成を念頭に子ども達と時間をかけて活動を共にする。こういった取り組みを地域社会に発信し観光が身近なもうひとつの産業に成りつづめるということを知っていただく必要がある。</p> <p>・活動を知ってもらいガイドをする子ども等の存在をアピールし、その事が子ども達に自発的な取り組み、やる気をおこさせ、行動の活性化につなげる支援も必要。</p>	<p>●地元観光ガイドとボーイスカウトが中心となり、観光推進団体(観光協会)と自治体、が連携した事業／小・中・高校生</p> <p>●ボーイスカウトの活動の中で地元観光ガイド団体が指導、ラジオアナウンサーによる話し方指導</p> <p>●資料：既存資料に聞き込みで得た情報を追加した資料作成(ガイド用)、既存資料配布(お客用)</p> <p>●事前調査による場所の確保、緊急時連絡先、避難場所の確認</p> <p>●お客様の人数確認、別行動をとりたてたお客様の集合場所の徹底</p> <p>●大人が必ず付くフォローは最低限</p>
<p>【愛知県 南知多町】</p> <p>●篠島子ども観光ボランティアガイド養成事業 (篠島観光協会)</p>	<p>【成果】</p> <p>・児童生徒：知らなかった地域の歴史や史跡を再認識し、ふるさとを愛する気持ちが芽生えたように感じた。</p> <p>・地域社会や保護者：児童・生徒がボランティアガイド講習に参加することにより、保護者や地域社会、教師なども協力時に見守ってくれた。</p> <p>・実施主体：「おかみ会」によるボランティアガイドもガイド内容を深めることができ、児童生徒との親しみが深まった。</p> <p>【課題】</p> <p>・今後、いかに継続していくか検討する必要がある。</p> <p>・「おかみ会」が依頼を受けてガイドするときに、児童・生徒も同行し、得意な場所をガイドしてもらい、自信をつけるようにし、ボランティアガイドの育成を図る。</p>	<p>●観光推進団体(観光協会)、とボランティアガイド団体が連携した事業／小・中学生</p> <p>●観光ボランティアガイドによる指導</p> <p>●資料：ガイド用資料を作成</p> <p>●ボランティア保険加入、ガイド時は必ず大人同伴、暑さ対策と水分補給に留意</p>
<p>【石川県 金沢市】</p> <p>●夕日寺生きものきっず・レンジャー(夕日寺自然体験実行委員会)</p> <p>⇒事例紹介③ ボランティアガイドの具体的な実施方法</p>	<p>【成果】</p> <p>・児童生徒：児童が自ら企画実施した自然体験活動「自然と遊ぶ」では、目的である「参加した人に、自然を好きになってもらうこと」を意識して実践。話をする時には、お客様の視点にたつことに気がついた。ガイドのあり方については、「気持ちよめて」、「挨拶や態度が大事」ということを実感した。今後も継続して行いたいという意見もあり、児童にとっても意義のある活動であった。</p> <p>・地域社会や保護者：保護者との関わりでは、保護者の理解を得て活動へ参加してもらうことで協力体制ができた。保護者自身もボランティア活動を楽しみ、今後も協力してくれる信頼関係を構築。地域との関わりでは、学校との連携がスムーズに行われ信頼関係を構築。</p> <p>・実施主体：外部の指導者との連携によって運営スタッフとなり事業運営できたことで、共働事業のモデルができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・次年度、中学生となった彼らが継続して活動できる環境・機会づくりができるか、関係機関(中学校やクラブ活動など)との調整が大きな鍵となる。</p> <p>・今回、学校、町会との連携については事業への協力、参加を通じ一定の成果はあったが「観光面での連携は極めて難しい」。</p>	<p>●県による事業運営チームが自然体験活動(里山)にテーマを絞って実施／小学生</p> <p>●講師による集中講義と図書館、インターネットの活用による児童の自主学習、実地の自然体験活動による講習</p> <p>●インテリブリーダーとしてのガイドの役割を学習</p> <p>●屋外活動のため自分の身の安全確保、荒天時のプログラムなどを指導</p> <p>●資料：既存資料を利用し小学6年生向けのものを作成(ガイド用)、配布はしないが自然物(木、核など)を提示(お客用)</p> <p>●現地の下見を2回以上実施、緊急時の対応マニュアル作成、保護者・関係機関向けの緊急連絡網作成</p> <p>●失敗を恐れず、児童の「気づくこと」を重視</p> <p>●里山での活動のため、入念な危険箇所の把握と対応策(危険箇所での活動をしない)</p>
<p>【滋賀県 湖北町(現長浜市)】</p> <p>●湖北町子どもボランティアガイド育成事業 (湖北町教育委員会)</p>	<p>【成果】</p> <p>・児童生徒：コミュニケーション能力(話す力)を培う上で有効な手法。初めは躊躇していた子どもたちが、賞賛の言葉を受け、自信を持ち、みるみる積極的な姿勢に変わった。人に喜んでもらえる喜び、人の役に立てる喜びが自信へとつながり、自己有用感へと高まりをさせた。あらためてふるさと地域のよさを実感。</p> <p>・地域社会や保護者：子どもガイド活動をとおり、今まで気づかなかった(知らなかった)湖北町のよさに気づいた。ガイド活動により子どもが積極的にになり、人前でも物怖じしないで堂々と発表する姿に驚いている親もいる。(子どもの変容)</p> <p>・実施主体：これまで町内全体で積み上げてきた「学校と地域の連携」「地域に根ざす教育」にいつそう弾みがついた。コミュニケーション能力(話す力)の高まりをめざす上で有効な手法である。</p> <p>【課題】</p> <p>・学校の取り組みとしては、休日に多く訪れる観光客に合わせて、ガイド活動の日や時間を設定することが難しい。</p> <p>・新型インフルエンザの流行により、子どもが長期に渡って休んだり学級閉鎖や休校措置により学習を計画的に進めなかつたりして、予定を変更せざるを得なかった。新型インフルエンザ感染拡大の影響は避けたいものであり、今後も引き続き心配することである。</p>	<p>●教育委員会と3つの小学校に1つの中学校による事業／小・中学生</p> <p>●総合的な学習や地域貢献活動としてのガイド内容の学習とガイドの実施</p> <p>●資料：パネルやガイドブックなど各校による(ガイド用)、野鳥の資料を作成配布(お客用用1枚が実施)</p> <p>●校外ガイド時の行動範囲、安全な行動様式の指導、緊急連絡カードによるトラブル対応の体制づくり</p> <p>●ガイド時は指導者による補足、施設スタッフによる支援体制づくり</p>

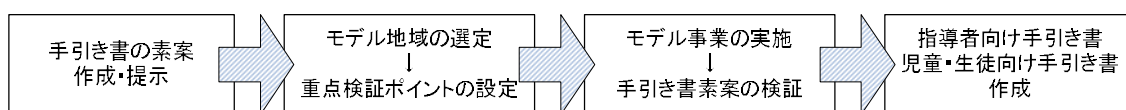
地域・事業名・実施主体	成果と課題	取り組みの特徴
<p>【三重県 鳥羽市】 ●離島地域における子どもガイドボランティア「しまっこガイド」育成事業 (有限会社オズ海島遊民くらぶ企画部)</p>	<p>【成果】 ・児童生徒：自分たちの住んでいる地域の良さを人に伝える為に、調査などを行う事で、旨島の良さを再認識した。ガイドやお客様という島外の人との出会い、コミュニケーションを通して、他人への接し方や、自分の考えを人に伝えるという事の大切さを学習することができた。 ・地域社会や保護者：地域の子ども達が、お客様をご案内する為に調査段階から知識や資料の提供をすることで、ガイドをする子ども達だけではなく、地域住民や保護者の方も一緒に地域の良さを再認識でき、地域内でのつながりがより深くなった。 ・実施主体：子ども達を指導することで、地域住民との距離が縮まり、地域の人々にさらに受け入れてもらえるようになった。 【課題】 ・担任の先生が代わる事で、子ども達に対する指導内容や気持ちの持っていく方が違ってくる。何年にも渡って活動を行うには、先生の資質だけに頼らず、育成の仕組みを地域に応じてマニュアル化することも検討課題のひとつである。</p>	<p>●民間企業(エコーア企画運営)と小学校の総合学習として実施した事業/小学生 ●学校の授業の一環としてガイドの講習、フィールド演習を実施 ●資料：ポイントごとのシナリオ作成、3択のクイズなども取り入れた資料(ガイドの提示用)、クイズ正解者用景品・特産品の配布(お客様用) ●ガイド時は、先生とスタッフが付いて安全管理、フィールド調査時に児童とともに危険箇所チェック、児童による時間管理を基本に大人がフォロー、離島という立地条件下での児童への危機管理意識の指導</p>
<p>【兵庫県 加西市】 ●加西市立北条小学校歴史ガイド隊 (加西市観光まちづくり協会、加西市歴史街道ボランティアガイド、北条まちづくり協議会) ⇒事例紹介② ボランティアを行う環境づくり</p>	<p>【成果】 ・児童生徒：新たなガイド案内書を作成。新たなガイド案内書には、ガイドの順番が一目で分かる地図を入れたり、ガイドをする際のポイントを入れるなど、生徒の目線に沿ったものに改良した。本事業を実施し、ガイド範囲の拡大を目指す。 ・地域社会や保護者：本事業の実施により、改めて小学生「ガイド隊」に対する保護者の理解や、わが町に対する地域住民の愛着も少しずつ増えつつある。 ・実施主体：今後の地域の担い手である小学生が、自分の地域の歴史に興味を持ち、積極的にガイドとして取り組む姿勢は非常に重要であると本事業の取り組みを通して、再認識した。 【課題】 ・現在は、6年生のみがガイドを行っているが、4年生・5年生さらに中学生になってもガイドが出来るような体制作り。 ・「ガイド隊」を今以上に広く外部に宣伝できるような学校・保護者の理解増。 ・ガイド範囲の拡大。</p>	<p>●ボランティアガイド、観光案内所と学校が連携した事業/小学生 ●大人のボランティアガイドによるガイド指導、地域のまちづくり協議会による校外学習の実施 ●資料：ガイド案内書を利用し、学習時のポイントなどを加筆(ガイド用)、既存資料配布(お客様用) ●ガイド時に必ず大人が1人付き添う体制 ●トラブル対応には大人が待機、ガイド前にお客様に児童のガイドの説明を実施 ●大人のボランティアガイドによるフォロー ●ガイドを行う場所は小学校に隣接した寺院、住職なども安全管理を担う</p>
<p>【大分県 由布市】 ●ゆふいんボランティアガイド活動活性化・ステップアップ事業 (公益財団法人人材育成ゆふいん財団、一般社団法人由布温泉観光協会)</p>	<p>【成果】 ・児童生徒：子どもの観察力や考えている視点を知ることができ、大人のガイドにも参考になるようなガイド要素を見つけ出すことができた(普段、大人では気がつかないようなこと)。参加した子どもの主体性を活かしたプログラムをつくることができた。「子どもの能力は無限にある」ということを痛感したので、今後も様々な形式の企画を試していきたい。 ・地域社会や保護者：湯布院、地域、自然、子どもとの目線など、知恵や知識を出し合う過程で様々な再発見をすることができた。何より、講座を開催すること自体が大きな成果。地域の様々な分野(自然、農業、産業、暮らし...)に興味を持つきっかけとなった。自分たちが暮らすまちに対して関心や興味を持つようになり、自己啓発につながった。 ・実施主体：様々な主体が入ったことにより人の輪が広がった。あざきりの会の皆さんのように、意外と知らなかったまちの専門家に出会えた。「地域を知る」というテーマを持つことにより多世代交流ができた。今回の検討メンバーの参加を継続させ、実際にガイドをしている方、あるテーマに関する精通者、専門家、経験者などを交え、異業種の方や様々な人を巻き込んで検討することができると良い。 【課題】 ・人集めが非常に重要。 ・参加者が集まりやすい時期や方法を考え、天気や気候に気を配って、屋外の場合は実施時期を検討したい。 ・今回の成果を外部に対して広く報告し、その情報を本当に興味のある子どもにしっかりと届けることが今後重要。 ・短期間で勉強し、研究してすぐにガイドをする形式は、少しハードに感じた。もう少し長期間に渡って分散して開催できると良い。 ・子どもの得意な手法に併せて、表現手法を考えても良い。他の地域の子どもと地元の子どもが交流するようなガイドツアーなどを企画したい。 ・経費面で、子どもガイドの育成の経費をどう捻出していくかが課題。</p>	<p>●地域の公益法人(財団)と観光推進団体(観光協会)による事業/小・中・高校生 ●地元関係者(教育委員会、観光推進団体など)とガイドの専門家による指導、ワークショップやゲーム、プレゼンクイズなどを取り入れた指導 ●資料：クイズカードの作成(ガイドがお客様に提示) ●傷害保険加入、マナー、話し方、安全確保などを重点的にフォロー、危険箇所での安全確保に留意</p>
<p>【鹿児島県 鹿児島市】 ●石橋記念公園「子どもガイド」育成事業 (鹿児島県 石橋記念公園、NPOかごしま探検の会) ⇒事例紹介④ ボランティアガイドの具体的な実施方法</p>	<p>【成果】 ・児童生徒：活動2年目に入り、活動に余裕がみられた。中学生は2期生や年少者への気遣い配慮など態度や言葉に変化が大きくなった。中学生を中心とした「リーダー会」を発足、イベント計画や勉強会の内容についてリーダー会メンバーに相談しながら進めることで更に変化がみられた。6年生は2学期後半から、中学生になるに向けてリーダー会へ参加し一緒に加わることで、年少者メンバーも順次責任のある立場へなることの意味付けを行ったところ、年少者の発言に変化がみられ、年長者として認めながら、親交が更に深まった。 ・地域社会や保護者：周辺町内会や各団体等に勉強会や広報等のご協力をいただき、子どもたちに多くの経験をさせていただいた。保護者の皆様には、活動方針・趣旨をご理解いただき、常にご協力いただいている。子どもたちの「やる気」はもとより、大切なことは保護者の皆様のご協力・ご理解があり成り立つ事業。 ・実施主体：子どもガイドや芸員の活動を通し、マスコミ等に取り上げていただくことが多くなり、公園PR・利用促進に大きな効果。 【課題】 ・子どもたちの成長に合わせた(1期生・2期生の理解度に応じた)勉強会の実施とガイド時における安全確保 ・1・2期生に続く後継者確保</p>	<p>●県立公園とNPO団体による事業/小・中学生 ●定期的なガイド実施のために定期的にガイドの勉強会を開催。活動は学習からガイドまで全て自由参加とし、気安さに配慮 ●基礎的な勉強の他、地域で実施している歴史探索や体験活動などで楽しみながら歴史学習を実施 ●テストや意見交換など多様な取り組みによるガイド育成 ●資料：各児童・生徒が調べた資料や写真、地図などを入れたファイルを作成(ガイド用)、既存資料配布(お客様用) ●年長者(中学生)による「リーダー会」を結成し、リーダーと職員が連携した安全確保、園外では保護者がサポート ●児童が自分の力で解決、考えるため、大人は安全確保や写真撮影、アドバイザーなどとして付かず離れずのスタンス ●ガイド時にはリーダーや職員が必ず同行、写真撮影なども行う</p>

4 児童・生徒によるボランティアガイド手引き書

4-1 児童・生徒によるボランティアガイド手引き書の作成

平成 20 年度モデル事業実施成果を踏まえ、他地域の取り組みの参考となる「児童・生徒によるボランティアガイド手引き書」の素案および構成を検討した。この素案について、今年度の児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業と各モデル地域からの報告書から検証を加え、「指導者向け手引き書」ならびに「児童・生徒向け手引き書」を作成した。

手引き書作成の作業手順を以下に示す。



なお手引き書の概要としては、モデル地域が児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業との中で取り組んだ事例や作成した資料などを多用するとともに、今後、新たに同様の児童・生徒によるボランティアガイドの実施を計画している他地域において、一般的にどのような手順や注意が必要となるのかを詳らかにすることを目指した。

また、頁数は、指導者向けおよび、児童・生徒向け手引き書とも A 4 版 30 頁程度のものを作成することとした。

4-2 児童・生徒によるボランティアガイド 指導者向け手引き書

指導者向けの手引き書は、大きく分けて「実施環境づくり」、「参加者募集と指導手法」、「安全管理と注意事項」の 3 項目より構成した。また、それぞれの項目の中に、より具体的な取り組み手法や各モデル地域が実施した取り組み事例を紹介し、手引き書の利用者の状況に応じ、必要箇所を早く見つけ出すことができる構成を目指した。

上記の 3 項目のいずれについてもポイントとなる要点があるため、それぞれについてモデル地域ではどのような取り組みが行われたのかを資料を例示し、より具体的に示すを行っている。

また、児童・生徒の安全管理については、非常に重要な点であるため、モデル地域の取り組みなどを参考に、より具体的な記述を行った。

以下に、指導者向け手引き書の全体構成を示す。

指導者向け手引き書全体構成

概 要	1. 児童・生徒によるボランティアガイドの目的と意義
	1-1 具体的な事業の目的と目指す方向性
	1-2 事業の意義と期待される効果
	1-3 この手引き書の見かた・使いかた
	1-4 児童・生徒によるボランティアガイドモデル地域一覧
2. 児童・生徒によるボランティアガイドを実施するための環境づくり	
2-1 ボランティアガイドの活動環境づくり	

	<ul style="list-style-type: none"> ①地域全体としての理解を得る ②事務局と窓口の設置 <p>2-2 組織の種類と実施体制の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ①運営主体別の組織の種類と特徴 ②保護者に対する説明 ③関連する主体別の役割分担
指 導 手 法	<p>3. 児童・生徒によるボランティアガイドの具体的な実施方策</p> <p>3-1 ガイドの募集から指導までの流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ボランティアガイドの募集方法 ②ボランティアガイドの組織づくりと留意点 ③ボランティアガイド実施前の留意点 <p>3-2 ガイド実施のための学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ①お客様のお出迎えと挨拶・身だしなみ ②求められる案内の内容 ③説明方法や話し方の技術 ④お客様のお見送りと挨拶 ⑤指導方法の種類 <p>3-3 ガイドのための資料づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ガイドが持つ資料 ②お客様に渡す資料
注 意 事 項	<p>4. ガイドをする際の注意点</p> <p>4-1 安全な場所の把握</p> <p>4-2 お客様とのトラブル防止</p> <p>4-3 大人によるフォロー体制</p>

4-3 児童・生徒によるボランティアガイド 児童・生徒向け手引き書

児童・生徒向けの手引き書は、モデル地域において実施した取り組み内容などの事例や作成した資料例を多用することで、手引き書を読む児童・生徒がボランティアガイドというものがどのようなものであるのかをイメージしやすくすることを目指し作成した。

あわせて、安全なボランティアガイド活動を実施するための留意点についてもより、具体的に記述することを心がけた。

以下に、児童・生徒向け手引き書の全体構成を示す。

児童・生徒向け手引き書全体構成

実 践 手 法	<p>1. ボランティアガイドの役割と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 1-1 みなさんに期待されていること 1-2 ボランティアガイドって楽しいよ <p>2. ガイドを行う内容とその調べ方</p> <p>2-1 ガイドを行う場所とそこでの説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ①住んでいる地域や町について ②建物の中（観光施設、教育施設 など）
------------------	---

<ul style="list-style-type: none"> ③建物の外（公園、広場、商店街 など）
2-2 ガイドを行う内容の調べ方
3. ガイドを行うための資料作り
3-1 資料の作り方
4. お客さまをご案内する
4-1 ご案内で気をつけたいこと
<ul style="list-style-type: none"> ①お客さまのお出迎えとあいさつ・身だしなみ ②説明や話し方について ③お客様のお見送りをしましょう
4-2 うまく説明するためのヒント
4-3 注意することや困ったとき
<ul style="list-style-type: none"> ①ガイドする場所の下見をしましょう ②付き添いの大人と一緒にガイドをしましょう ③困ったことが起きたときどうするかを決めておく

以下に指導者向け手引き書および児童・生徒向け手引き書を示す。

（１）指導者向け手引き書

<p>児童・生徒によるボランティアガイド手引き書</p> <p>指導者向け</p>	<p>目次</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 児童・生徒によるボランティアガイドの目的と意義</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>1-1 具体的な事業の目的と目指す方向性</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>1-2 事業の意義と期待される効果</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td>1-3 この手引き書の見かた・使いかた</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>1-4 児童・生徒によるボランティアガイドモデル地域一覧</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td>2. 児童・生徒によるボランティアガイドを実施するための環境づくり -実施環境づくり-</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td>2-1 ボランティアガイドの活動環境づくり</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td>①地域全体としての理解を得る</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②事務局と窓口の設置</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2-2 組織の種類と実施体制の留意点</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> <tr> <td>①運営主体別の組織の種類と特徴</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②保護者に対する説明</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③関連する主体別の役割分担</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 児童・生徒によるボランティアガイドの具体的な実施方策 -参加者募集と指導手法-</td> <td style="text-align: right;">9</td> </tr> <tr> <td>3-1 ガイドの募集から指導までの流れ</td> <td style="text-align: right;">9</td> </tr> <tr> <td>①ボランティアガイドの募集方法</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②ボランティアガイドの組織づくりと留意点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③ボランティアガイド実施前の留意点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-2 ガイド実施のための学習</td> <td style="text-align: right;">14</td> </tr> <tr> <td>①お客様のお出迎えと挨拶・身だしなみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②求められる案内の内容</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③説明方法や話し方の技術</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④お客様のお見送りと挨拶</td> <td></td> </tr> <tr> <td>⑤指導方法の種類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3-3 ガイドのための資料づくり</td> <td style="text-align: right;">21</td> </tr> <tr> <td>①ガイドが持つ資料</td> <td></td> </tr> <tr> <td>②お客様に渡す資料</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. ガイドをする際の留意点 -安全管理と注意事項-</td> <td style="text-align: right;">26</td> </tr> <tr> <td>4-1 安全な場所の把握</td> <td style="text-align: right;">26</td> </tr> <tr> <td>4-2 お客様とのトラブル防止</td> <td style="text-align: right;">26</td> </tr> <tr> <td>4-3 大人によるフォロー体制</td> <td style="text-align: right;">26</td> </tr> </table>	1. 児童・生徒によるボランティアガイドの目的と意義	1	1-1 具体的な事業の目的と目指す方向性	1	1-2 事業の意義と期待される効果	1	1-3 この手引き書の見かた・使いかた	2	1-4 児童・生徒によるボランティアガイドモデル地域一覧	2	2. 児童・生徒によるボランティアガイドを実施するための環境づくり -実施環境づくり-	4	2-1 ボランティアガイドの活動環境づくり	4	①地域全体としての理解を得る		②事務局と窓口の設置		2-2 組織の種類と実施体制の留意点	4	①運営主体別の組織の種類と特徴		②保護者に対する説明		③関連する主体別の役割分担		3. 児童・生徒によるボランティアガイドの具体的な実施方策 -参加者募集と指導手法-	9	3-1 ガイドの募集から指導までの流れ	9	①ボランティアガイドの募集方法		②ボランティアガイドの組織づくりと留意点		③ボランティアガイド実施前の留意点		3-2 ガイド実施のための学習	14	①お客様のお出迎えと挨拶・身だしなみ		②求められる案内の内容		③説明方法や話し方の技術		④お客様のお見送りと挨拶		⑤指導方法の種類		3-3 ガイドのための資料づくり	21	①ガイドが持つ資料		②お客様に渡す資料		4. ガイドをする際の留意点 -安全管理と注意事項-	26	4-1 安全な場所の把握	26	4-2 お客様とのトラブル防止	26	4-3 大人によるフォロー体制	26
1. 児童・生徒によるボランティアガイドの目的と意義	1																																																														
1-1 具体的な事業の目的と目指す方向性	1																																																														
1-2 事業の意義と期待される効果	1																																																														
1-3 この手引き書の見かた・使いかた	2																																																														
1-4 児童・生徒によるボランティアガイドモデル地域一覧	2																																																														
2. 児童・生徒によるボランティアガイドを実施するための環境づくり -実施環境づくり-	4																																																														
2-1 ボランティアガイドの活動環境づくり	4																																																														
①地域全体としての理解を得る																																																															
②事務局と窓口の設置																																																															
2-2 組織の種類と実施体制の留意点	4																																																														
①運営主体別の組織の種類と特徴																																																															
②保護者に対する説明																																																															
③関連する主体別の役割分担																																																															
3. 児童・生徒によるボランティアガイドの具体的な実施方策 -参加者募集と指導手法-	9																																																														
3-1 ガイドの募集から指導までの流れ	9																																																														
①ボランティアガイドの募集方法																																																															
②ボランティアガイドの組織づくりと留意点																																																															
③ボランティアガイド実施前の留意点																																																															
3-2 ガイド実施のための学習	14																																																														
①お客様のお出迎えと挨拶・身だしなみ																																																															
②求められる案内の内容																																																															
③説明方法や話し方の技術																																																															
④お客様のお見送りと挨拶																																																															
⑤指導方法の種類																																																															
3-3 ガイドのための資料づくり	21																																																														
①ガイドが持つ資料																																																															
②お客様に渡す資料																																																															
4. ガイドをする際の留意点 -安全管理と注意事項-	26																																																														
4-1 安全な場所の把握	26																																																														
4-2 お客様とのトラブル防止	26																																																														
4-3 大人によるフォロー体制	26																																																														

事例紹介 一運営主体別の組織の種類と特徴①／学校が単独で実施する取り組み

- 新潟県佐渡市の佐渡市立小木中学校では、総合的な学習の成果を活かし、伝統的建造物群保存地区である「唐楨木集落」の良さを観光客に知ってもらうため、平成16年から夏休みの土日を利用して、ボランティアガイドを実施している。ガイドは、学校の部活動として希望者のみで実施しており、全校生徒の約3分の1が部員として参加している。学校単独の取り組みではあるが、生徒のガイド指導やガイド時のサポートなどは、伝統的建造物群保存地区の市民団体、地域団体3団体より関係者が参加し取り組みを支えている。



【ガイド対象となる街並みを前にした案内】



【集落内に設置した受付スペース】

2) 学校と外部団体が連携した組織

学校との連携体制を持った組織作りの場合、相互の連絡や調整をまき細かに行うことが必要になる。特に連絡体制については、学校側、組織側ともに担当者置き、連絡や情報の行き違いや齟齬を避ける体制づくりに留意する。

事例紹介 一運営主体別の組織の種類と特徴②／学校と外部団体の連携による取り組み

- 北海道室蘭市の海星学院高等学校では、学校教育の一環として、大型客船ダイヤモンド・プリンセス号の入港時に英語で街を案内するボランティアガイドを毎年実施している。ガイドの実施は、地元のまちづくりNPOの協力のもと、全校生徒約160人でシャトルバス市内と市内の各観光スポットで英語教育の成果を活かすことを目的に、生徒が学んだ室蘭市の観光、産業、歴史等について国際交流を通して世界へと発信している。



【手書きの英語資料による説明】



【シャトルバス内での案内】

3) 地域の観光施設や関連団体による組織

地域の観光施設やガイド団体をはじめとする様々な組織が行うボランティアガイドでは、参加する児童・生徒が活動に興味を持って楽しみながら活動できる組織作りが求められる。ガイドの活動がお客様に喜ばれる楽しいものであることを広くPRするとともに、学校や児童会などへの働きかけとあわせて、児童・生徒の保護者に対して、日ごろからボランティアガイド活動をPRするなど、参加者の確保を考慮した組織や体制整備が必要になる。

事例紹介 一運営主体別の組織の種類と特徴③／観光施設や関連団体による取り組み

- 青森県の八戸観光コンベンション協会の取り組みでは、地域の八戸市立中沢中学校へ生徒の募集を依頼し、廃校になった小学校の校舎を観光・交流に活用している山の楽校運営協議会とともに、ボランティアガイドを実施する環境を整え、実施している。この取り組みの中では、説明の方法や話し方などガイドの技術的な指導については、講師派遣を行っている専門組織が担当するなど、観光推進団体に地域の学校や観光施設、専門技術の指導団体など、多数の関係機関が関わってボランティアガイドが行われた。八戸のように多くの主体が、それぞれの専門分野で役割分担を行いながらボランティアガイドを支える環境づくりは、それぞれの主体の作業負担が軽減できるため有効な手法である。複数の主体が関わる場合は、事務局の連絡調整や運営の力量が求められる点に留意することも必要である。



【廃校を活用したそば打ち体験の様子】



【高校を活用した手焼きせんべい作り体験】

事例紹介 一運営主体別の組織の種類と特徴④／観光施設や関連団体による取り組み

- 兵庫県加西市には数々の古墳群や日本最古の石仏など多数の名所・旧跡がある。加西市観光ボランティア協会は、地元の小学校に事業を依頼し、ボランティアガイド事業を実施した。児童へのガイド方法などの指導は、加西市歴史街道ボランティアガイドが行ったが、石仏についてガイドを行う寺院の住職や住民組織であるまちづくり協議会など、地域の様々な組織が児童によるボランティアガイドの取り組みに関わり、地域ぐるみでボランティアガイド事業が実施されたことがわかる。地域が1つになり、地域資源を活用しながら児童がボランティアガイドを実施するという典型的な例である。

事例紹介 一運営主体別の組織の種類と特徴④／観光施設や関連団体による取り組み

- 兵庫県の加西市には数々の古墳群や日本最古の石仏など多数の名所・旧跡がある。加西市観光ボランティア協会は、地元の小学校に事業を依頼し、ボランティアガイド事業を実施した。児童へのガイド方法などの指導は、加西市歴史街道ボランティアガイドが行ったが、石仏についてガイドを行う寺院の住職や住民組織であるまちづくり協議会など、地域の様々な組織が児童によるボランティアガイドの取り組みに関わり、地域ぐるみでボランティアガイド事業が実施されたことがわかる。地域が1つになり、地域資源を活用しながら児童がボランティアガイドを実施するという典型的な例である。



【寺院の境内で観光客へのガイドの様子】



【境内の樹木の説明なども行っている】

2) 保護者に対する説明

ボランティアガイドの活動を行う際には、児童・生徒の保護者に対する説明が必要になる場合がある。特に、休日や夏休みなどに実施する場合は、保護者に対する説明や周知方法として、保護者への開催、説明書類の配布、承諾書の提出などが考えられる。

保護者への説明においては、学校行事としての主旨説明、外部組織との協力体制、具体的な活動内容などを分かりやすく説明し、事前に保護者の理解を得ることが必要である。

3) 関連する主体別の役割分担

学校と地域の外部団体などが連携しボランティアガイドを実施する場合は、各主体が役割分担を明確にし、活動を円滑に進める必要がある。考えられる役割分担としては、参加する児童・生徒の確保や協力者への依頼と連絡、会議などの会場の確保、保護者への説明、ガイドを行うための知識の教育などを学校側が担い、ガイドとしてのマナーや説明・接客の技術、地域の身近な生活文化や歴史の伝承などを外部団体が指導するといったものが挙げられる。

また、地域の外部団体と児童・生徒が接することによるメリットとしては、普段、児童・生徒が接する機会が少ない年齢層の人たちとの交流の機会が生まれるとともに、地域でガイドやボランティアを行っている高齢者の楽しみや生きがいづくりにもつながることが期待できる。

事例紹介 一関連する主体別の役割分担／具体的な役割分担の明確化について

- 新潟県の佐渡市立小木中学校では、地域の関係団体などとの連携において、分担する役割を具体的にわかるようにしている。



【依頼内容を周知するための関係者用資料】



【実施スケジュールなども明確に記されている】

事例紹介 一保護者に対する説明／書類による承諾の確認

- 新潟県新潟市の音楽集団「ECHIGO」は、ボランティアガイドの実施にあたり、保護者からの理解を求めるために承諾書をとらっている。



【保護者向け承諾書】



【保護者向け承諾書】

3. 児童・生徒によるボランティアガイドの具体的な実施方策 ①-参加者募集と指導手法-

3-1 ガイドの募集から指導までの流れ

ボランティアガイドを実施する際、児童・生徒が興味を持ち、参加する意欲を高めるような募集を行うことが重要になる。ここでは、ボランティアガイドとしての児童・生徒の募集から実際の指導を行うまでに必要な取り組みや事前に準備することで円滑な運営が可能になる要点について説明する。

①ボランティアガイドの募集方法

ボランティアガイドの募集では、児童・生徒が活動に興味を持ち、自発的にボランティアガイドに応募する仕組みづくりが必要になる。募集時にこれまでの活動を具体的に説明する資料を配布する、保護者にも興味を持ってもらう、活動の中で次の世代となる児童・生徒を巻き込むなど、多くの児童・生徒が楽しみながら参加しやすい方法が望まれる。

1) 募集対象

ボランティアガイドの活動に支障が無い場合、学年や学校の枠を超えて児童・生徒を幅広く募集することが望まれる。そのメリットとして、年齢層や学校の異なる児童・生徒間の交流の機会創出が期待できる。特に、地域の自然環境や街並み、町の歴史など、テーマを持ったボランティアガイドの活動を実施する際は、年齢層が異なる児童・生徒が混在することで年齢による役割分担や説明内容の変化など、劇的な効果も生じるため、学校行事など以外では、募集対象の制限を狭めないことが望ましい。

2) 募集人員

学年や年齢、性別、居住地など募集対象のばらつきを低減したい場合は、それぞれの募集人員をあらかじめ決めて、募集を行うことが有効である。また、指導や運営を行うスタッフの人数を踏まえ、組織としての人数の上限を把握しておくことも求められる。応募者が集まらない場合は2次募集などが必要になるため、余裕をもった募集期間も必要になる

3) 募集の媒体

一般的には、行政の広報誌やチラシ、ポスターなどが考えられるが、行政が実施主体に加わっていない場合は、タウン誌や新聞などの募集も検討する必要がある。学校や地域との連携体制がある場合は、学校を通じての募集、親近協会や地域のスーパー、商店街などへのチラシ、ポスターの配布も考えられる。

4) 募集の条件

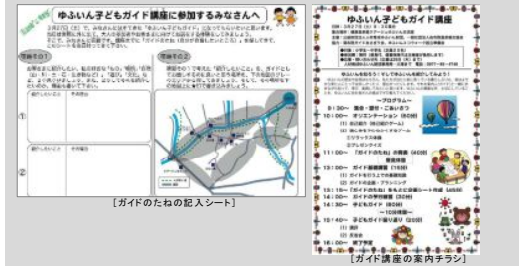
学校教育の一環でない場合は、「こども**隊」というような組織の目的が分かりやすい名称とともに募集を行うことも検討する必要がある。特に、厳しい条件（活動参加の強制や最低参加回数設定など）や難しそうな印象を与える文言の使用などは避け、差込みながら何かを知る、活動するということを強く打ち出し募集することが望ましい。

事例紹介 ①ボランティアガイドの募集方法①/ガイド募集時の工夫

●鹿児島県の石橋記念公園が取り組んでいる「子どもガイド」育成事業では、ガイドを募集する段階にも工夫を凝らしている。ボランティアガイドの活動に興味はあるものの、具体的な活動内容が分からない、あるいは実際の活動を体験してから参加するかどうか決めたいという児童や保護者の声があることを踏まえ、「ガイド体験」の場を用意した。すでに活動に参加している子供たちの輪に加わることで不安を取り除くとともに、保護者に対しても活動内容や趣旨を理解していただくよう努めている。

事例紹介 ②ボランティアガイドの募集方法②/ガイド募集時の工夫

●大分県の人材育成ゆらいん財団では、ボランティアガイドの募集時から、参加する子どもたちがお客様に紹介したいものや場所を「ガイドのたね」として探し、持ち寄り講座に臨む仕組みをとっている。このような方法は、参加する子どもたち一人ひとりが独自の「ガイドのたね」を見つけ出すことができるとともに、講座自体の充実度を高めることに有効であると考えられる。



②ボランティアガイドの組織づくりと留意点

児童・生徒によるボランティアガイドの活動で組織作りを行う場合、一般的に関係者や関係する組織が主体となって推進すべきものについては、以下のようなものが考えられる。

1) 組織の名称を決める

活動を始めるにあたり、組織や団体の名前を決めることが必要になる。組織名は、地域名を冠したり、活動内容を盛り込んだり、誰でも分かりやすいものとすることが望ましい。

2) 組織の所在地を決める

組織の所在地、窓口の設置とあわせて考える必要がある。特に問い合わせなど対外的な対応を行うのかによって観光推進団体（観光協会など）や公的機関に設置することが考えられる。一方、任意団体等の場合は組織の責任者の自宅などが考えられるが、問い合わせなどに支障をきたさないものを選び必要がある。学校行事として行う場合は、学校が窓口や所在地となる。

3) 組織の目的を明確にする

児童・生徒によるボランティアガイドでは、何を目的にどのようなものについてガイドを行うのかという組織の目的を明確にすることで、活動方針も明確になる。組織の目的は対外的にもPRすることが求められるため、ガイド活動の際は、「子供たちがお客様をおもてなし」、「自分たちの街を説明」などの紹介文とあわせて組織の目的を明示することも1つの手法といえる。

さらに、観光客に対するボランティアガイドの効果とあわせて、活動によって生じる児童・生徒への効果も視野に入れておくことが望まれる。一般的な効果として、「子供の頃から地域社会へ関心を持つ」や「総合学習の成果を活かす」、「児童・生徒の地域への愛着心向上を促す」などが挙げられる。

4) 組織の代表者・責任者を決める

特に、観光推進団体や任意団体においては、児童・生徒によるボランティアガイドの成功率、地域の観光推進団体などの関係者が、組織の代表者や責任者となる必要がある。代表者や責任者の役割としては、組織活動の説明やPRなど対外的なものから、児童・生徒に対する指導や組織全体の管理・運営など広範なものが考えられる。

5) 組織の管理運営と定期的な会議開催

児童・生徒によるボランティアガイドを実施する場合においても、大人のガイド団体と同様に組織の管理や運営方針を決め、情報共有をはかるための関係者による会議開催が不可欠か？テレビの裏に何かいたの？」

になる。このような会議は、実際の活動を効率よく円滑に運営するために必要なものであり、定期的に開催することが望ましい。

③ボランティアガイド実施前の留意点

児童・生徒によるボランティアガイドを実施する場合、実施時期や雨天の場合の対応（屋外のガイドの場合）、ガイドの集合場所などを事前に決め、準備することで、活動が円滑に進められるものがある。一般的なものでは、以下のようなものが考えられる。

1) ガイド実施の時期・スケジュール

児童・生徒によるボランティアガイドの活動を行う場合、その実施時期の設定が活動の成否を左右することも考えられる。実施時期の設定では、学校行事や地域活動との重複を避け、観光客などの来訪者が見込める季節や日時を選ぶ必要がある。一般的には、夏休み

や冬休み、連休などの学校の休暇時期や春、秋の行楽シーズンなどが考えられる。

ガイドの実施スケジュールは、活動の頻度とも関連するため、ガイドや関係者の人数、活動内容などを考慮し、無理のない範囲で実施する必要がある。

事例紹介 ①ガイド実施の時期・スケジュール/学校行事の影響がない取り組み方

●多くのモデル地域では、ボランティアガイドの活動や講習会のスケジュールを計画する際、地域の学校と協議を行うなどして、学校行事のない時期や曜日を選び合わせながら事業を進めていたが、岐阜県のみ多治見観光ボランティアガイドおよび多治見ボーイスカウト協議会の取り組みでは、ボランティアガイドをボーイスカウトの活動と組み合わせながら実施しており、学校行事の影響を受けない環境下でのボランティアガイド事業が実施された。



【観光ボランティアガイドによる講習会】



【観光ボランティアガイドによる勉強会】



【視覚のラジオアナウンサーによる話し方講座を開催】



【大人のガイド資料を参考に自分たちの資料を作成】

また、ボーイスカウトの活動であるため、怪我の処置などは既に身につけており、ボランティアガイドの取り組みの中での大人のフォローは最低限に抑えて実施した。

2) 雨天時の代替ガイドや中止

公園や街なかなど屋外で活動を行う場合、天候による活動の必要や中止について考慮する必要がある。例えば、展示や案内のための施設がある場合は、雨天時には、その建物内でのボランティアガイド活動が考えられるが、そのような施設が無い場合は、雨天時の活動の中止とその連絡方法を事前に決めておく必要がある。

③説明方法や話し方の技術

児童・生徒がボランティアガイドを行う際にも、基本的な説明の順序や話し方など、ガイドの技術き身に付けることが必要になる。ガイドを行う際の説明方法や話し方について一般的なものを以下に挙げる。

1) 説明方法

ガイドを行う場合、お客様に対し、分かりやすく正確な説明をすることが必要になる。はじめに何について説明するのかを伝え、次に説明するものの細部について話を進めることで、お客様が全容から細部について理解することが容易になる。説明の合間には、お客様からの質問を受けることも、正しい理解につながるため、可能なかぎり試みることが望ましい。

2) 話し方の留意点

ガイドの話し方に決まったものはないといわれるが、お客様の年齢や性別にあわせた話し方、正確に情報を伝える話し方、興味を持たせる話し方など気を付けるべきポイントがいくつかある。

話ことばの説明が長くなるとお客様に主音が伝わりづらくなるため、手短かに話すことを心がける。一般的な目安では、5秒程度で1つの文を話すことが良いとされている。

難しい言葉を使う必要はなく、分かりやすい言葉とはっきりとした口調で話す。説明したいものが沢山ある場所などでは、一度に色々な説明をせず、1つ1つ丁寧に説明することで、お客様に正確な情報を伝えることができる。

3) 身振り手振りの表現

必要に応じて、「このくらい大きさの～」、「こんなにか小ささ～」といった言葉とあわせた身振り手振りなどを入れることで、説明の表現が豊かになる。実感を込めて大きさを伝えたい時に考えられる説明方法の1つといえる。

4) 気をつけたい動作

お客様にガイドを行う時の話し方は、普段の話し方と違うため、動作で気をつけたいものがある。

お客様に対して、正面か斜めに向き合い、背中を向けることのないように説明する。お客様は複数の場合が多いため、3mくらい前の人に話しかけるように心がけると、声の大きさや高さが分かりやすいものになる。

ガイドをする時は、顔を上げて、お客様会員の顔を見るようにしながら話すことを心がける。

5) ガイドを行う時間の長さ

あまり長時間のガイドは、お客様の負担になることがあるため、コースを考える時から30分～1時間程度の時間で案内ができる範囲や内容を決めておく。

④お客様のお見送りと挨拶・お礼状の送付

ボランティアガイドでお客様をご案内した後、お客様が帰られるまでの間の短い時間を使い、地域やコース、ガイドの感想を聞くことも、効果的なガイドを行うために必要である。

1) お見送りと挨拶

お客様が帰られる際には、「ありがとうございました」、「またいらしてください。お待ちしております」など、参加したボランティアガイド全員で、お見送りとあわせ挨拶を行うことを心がけたい。お客様が見えなくなるまで、お見送りすることも忘れてはならないポイントといえる。

2) お礼状の送付

ボランティアガイドを利用されたお客様宛てに、お礼状を送付することも地域を印象付けるために有効な手段となる。お礼状を送付するタイミングは、お客様が家に帰られた頃に、ガイドの案内でまわった地域や施設を思い出す葉書や写真が届くように送ることが望ましい。

送付する葉書は豪華なものではなく、児童・生徒による手書きのものを送ることなども好まれる。

事例紹介 ーお礼状の送付ー

●新潟県の佐渡市立小木中学校では、児童・生徒がお客様へのお礼状の文面などを考える際、参考に資料を配布している。



【お礼状の葉書の文面案】

⑤指導方法の種類

児童・生徒によるボランティアガイドでは、参加者や地域の状況によって、指導方法を考えることも必要になる。一般的に考えられる指導方法について要点を示す。実際に指導を行う場合は、ここで示す要点とあわせて、状況に応じた指導方法の検討が望まれる。

1) 年齢別指導方法

ボランティアガイドを行う児童・生徒が複数の学年にわたることや、小学校と中学校での合同実施などが考えられるため、年齢に応じた指導方法の検討が必要になる。その際、小学生と中学生（低学年と高学年）で説明内容を分けることや、小学生と中学生（低学年と高学年）を組み合わせたグループを作り、その中で役割を分担しながら説明を行えることなども有効といえる。

一方、指導者が留意すべき点としては、学年や年齢別に理解度を確認し、分かりやすい言葉を選ぶなどの配慮が必要になる。

2) 実施環境別指導方法

児童・生徒がボランティアガイドを行う環境は、公園や観光施設内に限定されているものから自然環境や街なかで案内を行うものなど多岐に渡っている。ガイドの実施環境の違いを考慮した指導も必要である。特に、自然環境や街なかなどの屋外でボランティアガイドを実施する場合、ガイドの内容や技術だけでなく、安全管理に関する指導もあわせて行う必要がある。

公園や広場のような屋外では、あらかじめガイドが動く範囲を決めておくことで、怪我や事故とともに危険箇所への侵入も防ぐことが可能になる。

街なかでは、交通事故や他の歩行者の邪魔にならないようなガイド方法とお客様の誘導にも配慮することが必要になる。

観光施設や展示施設など屋内のガイドについても、あらかじめガイドで使うルートや経路を決め、効率よく安全に案内することが望まれる。

事例紹介 ーモデル地域のガイド指導方法①ノガイド内容の学習ー

●鹿兒島県の石橋記念公園の「子どもガイド」育成事業では、毎月、第二土曜日に職員が行うガイド基礎勉強会のほか、地域主催の歴史ウォークや、体験活動への参加を積極的に行っているほか、子どもたちの興味を引き付け、楽しみながらゲーム感覚で「歴史の学習」に導くよう指導計画を行っている。具体的な指導内容は、以下のようなものがある。

- ・シティビューを使って歴史探検
- ・羅結まるごと体験ツアー（シーカヤック体験・タツノオトシゴ養殖見学など）
- ・石橋記念公園の石橋はどこに架けられていたの？甲突川「五石橋めぐり」
- ・上町新まちづくりプロジェクト主催「上町歴史探訪「いしえプロジェクト」
- ・皆既日食「西田橋の上で皆既日食を観測しよう」
- ・かごしまマニアック歴史クイズ大会
- ・「〇〇橋のここがすごい！チーム対決！プレゼン対決」
- ・ガイド！レベルUPクイズ

事例紹介 ーモデル地域のガイド指導方法②ノガイド内容の学習ー

●鹿兒島県の石橋記念公園の「子どもガイド」育成事業では、毎月、第二土曜日に職員が行うガイド基礎勉強会のほか、地域主催の歴史ウォークや、体験活動への参加を積極的に行っているほか、子どもたちの興味を引き付け、楽しみながらゲーム感覚で「歴史の学習」に導くよう指導計画を行っている。具体的な指導内容は、以下のようなものがある。

- ・シティビューを使って歴史探検
- ・羅結まるごと体験ツアー（シーカヤック体験・タツノオトシゴ養殖見学など）
- ・石橋記念公園の石橋はどこに架けられていたの？甲突川「五石橋めぐり」
- ・上町新まちづくりプロジェクト主催「上町歴史探訪「いしえプロジェクト」
- ・皆既日食「西田橋の上で皆既日食を観測しよう」
- ・かごしまマニアック歴史クイズ大会
- ・「〇〇橋のここがすごい！チーム対決！プレゼン対決」
- ・地図上探検

●ガイドデビュー前には、基礎勉強会を行い、最終日に実施するテストに合格した児童・生徒がガイドとしてデビューしている。ガイドデビュー後も勉強会やガイド日にあわせ半年に1回程度、全員でガイド方法についての「意見交換」を実施している。ボランティアガイドの実践が児童・生徒の経験、成長につながるため、関係者は多くのお客様をガイドできるよう、広報や環境づくりに努めている。

●石橋記念公園では、小中学生がボランティアガイドを行っているが指導方法を年齢別に変えることはしていない。わからない事は、年長者が教えたり、児童・生徒が各自で調べたりを基本としており、それぞれの力に合わせタイミングをみながら声かけを行っている。



【クイズを利用したガイドの実施風景】



事例紹介 ーモデル地域のガイド指導方法②ノガイド方法と専門知識の学習ー

●滋賀県湖北町（現長浜市）の湖日小学校では、湖北野鳥センターの専門員から、①ガイドとしての心構え（来客者への接し方や質問への答え方など）、②コハクチョウ、カイツブリ、オオヒシクイ、オオフシなど代表的な鳥の特徴を学習した。また、双眼鏡で鳥を見ている人や鳥図鑑を見ている人、鳥の掲示物を見ている人、ガイドを頼んできた人などを想定して、説明や話し方の練習を行いボランティアガイドに臨んだ。

3-3 ガイドのための資料づくり

児童・生徒によるボランティアガイドがお客様をご案内するときに、説明を適切に補助する資料の準備が必要になる。資料はボランティアガイドを行う環境や人数、対象物の種類によっても作り方や材料が異なるため、それぞれの地域の状況に応じたものを作成することが望まれる。

ここでは、ボランティアガイドが用いることで、観光客への案内に効果的な資料づくりについて説明する。

①ガイドが持つ資料

児童・生徒がボランティアガイドを行う時に使用する資料は、分かりやすく、使いやすさ、説明のしやすさなどとあわせて、持ち運びやすいものであることも重要な点になる。

屋外で用いる資料は、濡れや雨水などに強い材質を選び作成することが望ましい。

また、作成する資料の種類としては、地域や施設全体を説明するマップ形式のものや部分的な場所や施設、樹木などを説明するパンフレットやチラシのもの、詳細なものや一定の部分拡大して見せるための裏書や写真サイズのものなど、説明対象と大きさが広範囲にわたることが予想される。

さらに、新聞や雑誌などに取り上げられたものは、記事の切れきなどを見せるために、資料の裏打ちやラミネートフィルム補強（パウチ）なども考えられる。資料作成とあわせて、指示棒を準備することも効率の良い説明には有効である。

このような状況を踏まえ、一般的な資料の種類と考えられる材料の組み合わせを以下に挙げる。

1) 広がりのある範囲を説明するマップ類

比較的大きなものが必要になるが、屋外などで使用する場合は、大きすぎるものは扱いが困難になってしまうため、最大でも新聞紙片面～A2程度とすることが望ましい。折りたんで持ち運ぶことが想定されるため、強度や耐久性のあるコート紙などの素材を使うことも検討すべき。

2) 単独の対象を説明するパンフレットやチラシ類

紙の大きさとしては、A3～A4あるいは、B4～B5サイズが中心となる。いずれも持って説明することが想定されるため、濡れたり濡れたりする可能性のある場所では、1枚ずつラミネートフィルム補強を行うことが望ましい。また、一度に複数の資料を見せながら説明する場合は、クリアファイルに入れた資料の裏をめくりながら説明することなどが一般的である。

3) 詳細なものや拡大部分を見せるカード類

ある対象物の詳細や拡大部分を見せる場合には、写真や裏書などカード状の資料を見せながら説明することが想定される。その際には、資料の保護を兼ねたビニールフィルムの袋に入れることやラミネートフィルム補強などが考えられる。

4) フリップおよびボード類

施設内の展示物や個別の場所、建物などについて、順を追った説明を行う場合などは、説明内容を記載したボード類を使うことが考えられる。使用する材料は一般的なイラストボードなどが考えられ、紙芝居形式の構成などを取り入れることも効果的である。

事例紹介 ーガイドのための資料づくり①ー

●北海道のてしかがえこまち推進協議会では、子ども達が、「弟子屈町ならではの歴史や文化、ふるさとの素晴らしさ」などを地域とのふれあいや体験活動から実感・体感し、お客様をガイドすることで、主観と客観の両方の視点から地域の素晴らしさを学び、「地域への愛着・誇り」を醸成することを目的に取り組みを行った。ボランティアガイドは、クリアファイルを使い、お客様に見やすいよう紙芝居風にまとめた説明資料を作成している。ガイドの持つ資料は、クリアファイルにガイド内容に合わせた写真・イラストを用意し、振り返りやガイド中の台本として野帳（フィードノート）を使用、ノートには写真も貼りつけて分かりやすくまとめたものを作成した。



【写真を多く取り入れ当日のガイドの流れをまとめた資料】



【クリアファイルの説明資料を使ったガイドによる案内】

②お客様に渡す資料

ボランティアガイドを利用したお客様に資料を渡すことは、地域や施設をより強く印象付けるための有効な手段といえる。資料の種類としては、施設で配布される印刷物などよりも児童・生徒が作成した絵葉書やカード類などが喜ばれるが、落し葉や木の葉などその時期に各地域で収穫できるものを説明書きとともに渡すなど、安価で特徴的な資料配布も考えられる。

事例紹介 ーガイドのための資料づくり①ー

●新潟県佐渡市の小中中学校では、「お客様への説明用」と「ガイド用マニュアル」に分けて資料を作成しており、その中には、完成度の高いものも多数見られた。いずれの資料も図や写真を多用するなど、分かりやすいものになっている。



【ガイド用マニュアルとして作成した資料】



【生徒が作成したパンフレットの例】

事例紹介 ーガイドのための資料づくり②ー

●滋賀県湖北町（現長浜市）の琵琶湖畔にある野鳥観察施設のボランティアガイド活動では、カラーで分かりやすい観光客向け配布資料とガイドの説明用資料が作成されている。



【作成したガイド用説明資料】



【作成したお客様への配布資料】

事例紹介 ーガイドのための資料づくり③ー

●長野県原村のはらこども教室「わわO」では、ボランティアガイドの学習をする中で、児童・生徒が自分たちの地域の好きな場所を見つけ、その場所を観光客へ紹介することを試みた。



【児童・生徒の絵や写真を使い配布資料を作成】

事例紹介 - ガイドのための資料づくり④ -

● 北海道の松前町ツーリズム推進協議会と松前高校の取り組みでは、松前公園を訪れる観光客に対して、松前高校の委員会活動としてボランティアガイドが行われている。松前高校の資料作成方法は、フィールドワークとして、松前公園の名所や風景などを撮影しながら地域の魅力を再認識するとともに、松前公園高台ゾーンガイド倶楽部の指導を受け、フィールドワークで撮影した史跡等を調べる地域学習を開催し、ガイドツール（教本）を作成している。さらに、松前ガイド協会の指導のもと、模擬ガイド及びガイドイングを実施し、ガイド技術の習得と向上が行われている。



【ワークショップでの名所の写真撮影】



【パソコンを使った写真の整理】



【ガイドツール(教本)の作成】



【ボランティアガイドによる講話の開催】



【完成したガイドツール(教本)】



4. ガイドをする際の注意点 - 児童・生徒のガイド時の安全確保 - 安全管理と注意事項 -

児童・生徒によるボランティアガイドを実施する際、特に気を付けなければいけないことが、児童・生徒の安全の確保である。安全の確保については、ガイドを行う環境によって注意する内容が異なるが、いずれの環境においても、あらかじめ安全な場所を把握しておくことが求められる。ここでは、児童・生徒の安全の確保について説明する。

4-1 安全な場所の把握

ボランティアガイドを実施するためには、ガイドを行う環境について 詳細な下見を実施 することが必要であり、下見の回数は複数回が望ましい。また、当日のサポートや誘導など直接、現地の活動に関わる大人が目視確認を行うことで危険箇所を把握する。

下見で危険箇所が見つかった場合は、ガイドのコースと危険箇所の位置関係を明確にし 安全性の検討もあわせて行うとともに、ガイド時の危険性がある場合は 危険箇所をコースから除外し、安全なコースを確保したうえでボランティアガイドを実施する。

街なかのボランティアガイドでは、特に 交通事故には充分注意する必要がある。さらに、歩行者の邪魔にならない場所を選んでガイドを行うことも留意すべきである。街なかでの ガイドを行うポイントの把握を兼ねた現地の下見や疎開による交通量の把握なども事前に行うことが望ましい。街なかでも危険箇所が見つかった場合は、コースから除外し児童・生徒を危険に近づかせないことを念頭に置き、ガイドコースを検討する。

4-2 お客様とのトラブル防止

児童・生徒によるボランティアガイドでは、観光客、ガイドを行う児童・生徒ともに楽しく、充実した時間を過ごすことが望ましく、活動に関わる大人が中心となり、トラブルが起きにくい活動運営づくりを行うことが求められる。

児童・生徒のボランティアガイド実施時には、大人の引率者やサポートが付き、万が一、観光客とのトラブルが生じた場合は、周囲にいる大人が必ず対応するものとする。

ガイドを実施する前に、怪我や交通事故、迷子などを含め、想定される問題が発生した場合の連絡体制や緊急マニュアルを決め、周知しておくことは、どのようなボランティアガイドの実施においても欠かすべきではない。

4-3 大人によるフォロー体制

前述したお客様とのトラブル以外にも、児童・生徒がボランティアガイドを行う場合、様々な場面において大人のフォローが必要になることが想定される。このため、ボランティアガイドを実施する場合、スタッフとして参加できる充分な人数の関係者の確保を行い 児童・生徒には、必ず大人が付き添う体制をとることが求められる。

ボランティアガイドの活動に関わる大人の具体的なフォローには、児童・生徒のガイド活動に付き添う以外に、会場の手配や設営と撤収、当日の連絡調整や手配などの作業も兼

生するため、そのような作業量を見越した人員確保や配置を考慮しておく。

万が一、事故や怪我などのトラブルが発生してしまった場合は、児童・生徒の保護者への連絡や対応、関係者による事後処置が必要になり、活動そのものができなくなってしまう可能性も大きい。児童・生徒の安全確保はボランティアガイドを行ううえで、最大の留意点といえる。

事例紹介 - 安全の確保① -

● 愛知県南知多町では、篠島ボランティアガイド（おかみ会）の協力により、児童・生徒がボランティアガイドの案内方法の学習や練習を行った。また、地元である南知多町内の観光施設のガイドを南知多観光ボランティアガイドに依頼し、実際に体験するなど地域の関係者による協力体制によってボランティアガイドの活動が行われている。実際のガイド時にもおかみ会などの大人が付き添う形で活動が進められた。



【地元のガイド団体やおかみ会などの協力による活動の実施】



事例紹介 - 安全の確保② -

● 北海道の松前町では、高校生の委員会活動としてボランティアガイドに取り組んでいる。実施の際は、観光ガイド事業者1名と生徒2名がパートナーを組み、事前の防止策をとっているほか、観光案内所が窓口になり、お客様の要望に応じて生徒を派遣する体制をとっている。トラブルがあった場合は観光案内所が責任を持って対応にあたることとしている。



【団体客へのガイドの実施風景】

(2) 児童・生徒向け手引き書

児童・生徒によるボランティアガイド手引き書

児童・生徒向け

1. ボランティアガイドの役割と目的

1-1 みなさんに期待されていること

みなさんの住んでいる町を、よその町からやって来るお客さまに説明したり、町のすてきな場所にご案内して、喜んでいただいたり、満足していただいたりすることを「ボランティアガイドでご案内する」といいます。

みなさんが、お客さまに自分の住む町をご案内することは、お客さまに喜んでいただけるだけでなく、みなさんが自分たちの住んでいる町について、いろいろなことを知ったり発見したりすることにも役に立ちます。

そして、自分たちの住んでいる町を知ることで、みなさんがもつ自分の住む町を好きになり、誇りを持ったり、自慢できるようになることが町の担い手として町を盛り上げて楽しい場所にしていくことにつながります。

ボランティアガイドをやることは、お客さまだけでなく、みなさんの住んでいる町にとっても、大変、役に立つこととなります。

この手引き書では、みなさんが、お客さまに自分の住む町をご案内する方法や、そのための説明資料の作りかたから、お客さまにボランティアガイドを楽しんでいただくために心がけたいことなどをまとめています。

1-2 ボランティアガイドって楽しいよ

みなさんがボランティアガイドとして、お客さまをご案内することは、これまで知らなかったよその町のことをお客さまから教えてもらったり、家族やお友だちとはちがう年齢の人とお話をしたりすることで、学校やお家とは別の世界が広がります。それは、自分たちの知らない町や場所に新しいお友だちができることもいえるのです。

ボランティアガイドの活動は、みなさんが大人になった時に、よその知らない町へ旅をしたり、その町と自分の町を比べて、違いを見つけることを楽しむコツを身に付けることにも役立ちます。

そんな、ボランティアガイドをみなさんも楽しんでみませんか？

目次

1. ボランティアガイドの役割と目的	1
1-1 みなさんに期待されていること	1
1-2 ボランティアガイドって楽しいよ	1
2. ガイドを行う内容とその調べ方	2
2-1 ガイドを行う場所とそこでの説明	2
① 住んでいる地域や町について	
② 建物の中(観光施設、教育施設 など)	
③ 建物の外(公園、広場、商店街 など)	
2-2 ガイドを行う内容の調べ方	11
3. ガイドを行うための資料作り	15
3-1 資料の作り方	15
4. お客さまをご案内する	17
4-1 ご案内で気をつけたいこと	17
① お客さまのお出迎えとあいさつ・身だしなみ	
② 説明や話し方について	
③ お客様のお見送りをしましょう	
4-2 うまく説明するためのヒント	22
4-3 注意することや困ったとき	24
① ガイドする場所の下見をしましょう	
② 付き添いの大人と一緒にガイドをしましょう	
③ 困ったことが起きたときどうするかを決めておく	

2. ガイドを行う内容とその調べ方

2-1 ガイドを行う場所とそこでの説明

みなさんが住んでいる町はどんなところですか？どんな町にも、いくつものすてきな場所やきれいな景色があるものです。そんな場所に知らない町からやって来たお客さまをご案内することは、とても喜ばれます。

お客さまに見ていただきたい場所やご案内したい場所、楽しんでいただきたいと思う景色を思い浮かべてみてください。それぞれの場所で、みなさんはお客さまにどんなことを説明したいと思いますか？

① 住んでいる地域や町について

自分たちの住んでいる地域や町を説明するときには、そこがどのような場所、どんな特徴があるのか？などの情報を正しく伝え、お客さまにその場所をよくわかっていただくことが大切です。

他の町でボランティアガイドをやっている人たちがどんな説明をしているのか？を見てみましょう。



[青森県八戸市/山の楽校ボランティアガイド育成事業]

わたしたちの『なんごう』はこんなにイイところ！

●山の家校

山の家校は、建中中学校が崩壊したときに、その土地の森を利用していろいろな体験ができるようにしたもので、平成17年にオープンしました。ここでは、お正月、お盆、お彼岸、お花見、お祭りなどお正月行事も体験できます。中でもお正月やお彼岸の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。お盆の行事は、この地区に伝わるお盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。お盆の行事は、この地区に伝わるお盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。

●南郷のJAZZ

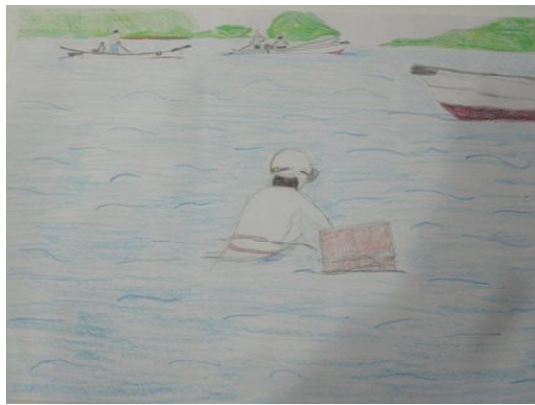
平成20年2月には、中学校に新たにジャズバンド部が創設され、JAZZの部員が増えています。毎年、一連のJAZZ大会を開催し、好評です。平成20年8月の「南郷サマーズフェスティバル」記者発表では、サックス奏者のM.T.A.さんと共演しました。

●南郷の美味しいもの

南郷は自然が豊かでおいしいものがたくさんあります。そばは、お盆の行事から食べられていたそばは、とても貴重で、今も南郷地区ではお盆の行事をやる家もあります。お盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。お盆の行事は、この地区に伝わるお盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。

●ブルーベリー

青森県で一番生産量が多い南郷のブルーベリーは無農薬で育てられています。お盆の行事から食べられていたそばは、とても貴重で、今も南郷地区ではお盆の行事をやる家もあります。お盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。お盆の行事は、この地区に伝わるお盆の行事は、お正月の朝までお正月の行事です。



〔三重県鳥羽市/「しまっこガイド」育成事業〕

こんなにあったままだまだ知らない八戸！

八戸（青森）の日本一

- ①イカの水揚げ
日本で水揚げされるイカの約4割が八戸港に水揚げされる。
ちなみに、八戸港に水揚げされる魚介類の約半分はイカ！
- ②早寝早起き日本一（青森県）
平成18年の総務省の調査
起床 6時22分 就寝 10時32分
- ③一般公衆浴場の数（人口10万人あたり）日本一（青森県）
25.3軒 [2位鹿児島県 約17軒]
ちなみに市内には朝5時や6時から営業している銭湯が20軒ほどある・・・



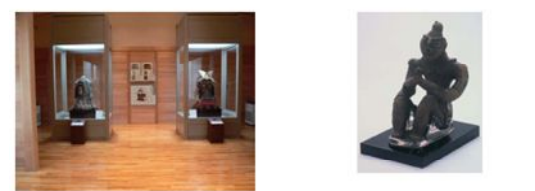
〔青森県八戸市/山の家校ボランティアガイド育成事業〕

ここはどこ？これなあに？



南郷区高守
『福一萬虚空蔵菩薩堂』
日本三大虚空蔵のひとつと言われ、丑年と寅年の守り本尊。双方約1間の大きさは日本唯一とされる

松鐘
『住金鉱業 通称八戸キャニオン』
露天掘りの石灰岩鉱山としては日本で最も低い位置で採掘している。(海拔マイナス160m)日本でも最も空が深い場所と言われる



柳引八幡宮国宝館
『赤糸威鏡児・白糸威鏡取鏡児』

風張遺跡出土
『合掌土偶』

青森県唯一の国宝(本州最北)

〔青森県八戸市/山の家校ボランティアガイド育成事業〕

他の町のボランティアガイドの人たちは、自分たちの地域や町の 特徴を写真や手描きの絵を使って楽しくまとめているようです。
みなさんは、自分たちの住んでいる地域や町のどんなところを、どんな説明をしながらお客様にご案内してみたいですか？

②建物の中(観光施設、教育施設 など)
自分たちの住んでいる地域や町の説明と同じように、建物や施設についてもお客様に特徴や役割を説明することが必要です。
他の町でボランティアガイドをやっている人たちがどんな説明をしているのか？を見てみましょう。



Q 西田橋に使われている石の数は何個でしょうか？
** 護岸や敷石も含めた全ての数です。
8266個です。
もし聞かれたら……
高麗橋は9465個 玉江橋は5262個

〔鹿児島県鹿児島市/石橋記念公園「子どもガイド」育成事業〕
鹿児島県の石橋記念公園では、公園にある石の橋についてクイズを使って説明しています。クイズは、お客様もみなさんも楽しめる説明のやり方の1つです。

3. ガイドを行うための資料作り

3-1 資料の作り方

お客様に分かりやすい説明をするためには、効果的な説明用の資料を作ることが大切です。資料は、地図（マップ）やフリップ、パンフレット、カードなど、色々な形や大きさのものがありますが、自分たちの町をいちばん分かりやすく説明できる形や大きさのものを考えて、作ることが大切です。作った資料でご案内の練習をしておく、お客様がいらした時にも落ち着いてご案内することができます。

ここでは、他の人たちがボランティアガイドを行っている写真から、どんな資料を使っているのか？を見てみましょう。



北海道室蘭市では、高校生のお兄さんやお姉さんがボランティアガイドをやっています。高校生の人たちはスケッチブックにイラストや文字を書いてお客様をご案内しています。大きな資料はとも見やすいですね。



建物の外でお客様をご案内するときは、資料をファイルに入れて持ちやすくすると説明しやすいだけでなく、持ち運びやすく、雨にも強い資料になります。



東京の日本橋でも中学生と高校生のお姉さんたちがボランティアガイドとして、町を案内しています。ここでは、お客様に説明しながら町の名所や見どころをまとめた資料を見せています。



三重県鳥羽市にある官島では、小学生が「しまっ子ガイド」として活躍しています。「しまっ子ガイド」のみんなは、島でお客様をご案内するために作ったシナリオを持ち、好きな場所や見ていただきたいものについて、クイズを出しながらボランティアガイドをやっています。



大分県の瀬布院ではボランティアガイドのみんなが、大きな資料を持って説明しています。ここでもクイズを出しながらお客様をご案内しています。

4. お客様をご案内する

4-1 ご案内で気をつけたこと

みなさんの住んでいる町を訪れたお客様に楽しく、気持ちいい時間を過ごしてもらうためには、どんなことに気をつけなければいけないでしょうか？

① お客様のお出迎えとあいさつ・身だしなみ

1) 集合時間をきちんと守りましょう。

集合時間の10～15分前には集合場所に集まり、お客様を待つことを心がけましょう。

2) ごあいさつをしましょう。

みなさんの家や学校にお客様が来た時、まず、ごあいさつをしてお迎えするように、みなさんの住んでいる町を訪れたお客様にも同じように、ごあいさつをしましょう。

集合場所では、「こんにちは、またガイドを始めるときは「ようこそ●●町（みなさんの町の名前）へ。今日はよろしくお願ひします。」など、来ていただいたお客様をあいさつで明るく迎えることが大切です。

3) 身だしなみを整えましょう。

お客様をお迎えするときは、清潔な身だしなみを心がけましょう。洋服はもちろんのこと、髪の毛がよごれていないか？つめがのびていないか？ということもガイドを始める前に確認しておきましょう。

4) ガイドを始める前に説明をしましょう。

ガイドを始める前に、お客様に、ガイドを予定しているコースについて簡単に説明しましょう。（どのような場所に行くのか、何を見てもらうのか、どのくらいの時間がかかるのか）こうすることによって、お客様は安心してガイドを受けることができます。

② 説明や話し方について

1) わかりやすく伝えましょう。

ガイドを行う場合、お客様に対して、分かりやすく正確な説明をするように心がけましょう。まず、何について説明するのかを伝え、次に詳しい内容を話すと、お客様に分かりやすく伝えることができます。

2) お客様に合わせて話し方をしましょう。

お客様の年齢や性別にあわせて話し方、正確に情報を伝える話し方、きょうみを持ってもらう話し方について考えてみましょう。

まず二つ目は、短く話すことを心がけましょう。話が長くなるとお客様に見てもらいたいことや、知ってもらいたいことが伝わりづらくなります。

三つ目は、分かりやすいことばではっきりと話すことを心がけましょう。むずかしいことばを使う必要はありません。

四つ目は、一度にたくさんのご説明せず、ひとつひとつについていかに説明しましょう。見てもらいたいもの、知ってもらいたいことがたくさんある場所では、特にこのことに気をつけて説明すると、お客様に正確な情報を伝えることができます。

3) 身ぶりや手ぶりも使しましょう。

説明するときに、「このくらい大きさの～」や「こんなに小さな～」と身ぶり手ぶりをいれて、説明することで、お客様にとっては、言葉だけの説明よりも、もの大きさや感じが伝わりやすくなります。

4) ガイドをする時はこんなことに気をつけましょう。

ガイドをする時の話し方は、たくさんの人に向かって話すため、ふだんの話し方とはちがいます。そこでガイドをする時の話し方で、どんなことに気をつけなければいけないか考えてみましょう。

二つ目は、お客様に対して、正面かななめに向き合うよう心がけましょう。この時、お客様に背中を向けることのないよう注意しなければなりません。

三つ目は、3mくらい前に話しかけるように心がけましょう。こうすると、


お客様に声がとどきやすくなります。

三つ目は、ガイドをする時は、顔を上げて、お客様全員顔をみるようにしながら話すことを心がけましょう。お客様の様子を見ながら、説明をすることができ、お客様にもガイドをするみなさんの気持ちが伝わります。

③お客様のお見送りをしましょう


1) お見送りとおあいさつ

お客様が帰る時は、「ありがとうございました」、「またいらしてください。お待ちしております」など、お迎えする時と同じく、ごあいさつをします。この時、お客様が見えなくなるまで、お見送りするように心がけましょう。



〔三重県鳥羽市/離島地域における子どもガイドボランティア(しまっ子ガイド)育成事業〕

菅島の「しまっ子ガイド」のみなさんは、馬から帰るお客様と船を港でお見送りしています。新潟県佐渡市の小本中学校のボランティアガイドの人たちは、お客様が帰ったあとにお礼の葉書を出しています。これは、ステキなやり方ですね。



〔新潟県佐渡市/宿根木観光ボランティアガイド事業〕

宿根木観光ボランティアでの注意事項

1 会場到着まで…

- 遅くとも担当時間の10分前に来ること。(初日の7/25午前の方は9:30集合)
- 自転車である人は…
 - 通常自転車を利用している人は、ヘルメットをかぶること。
 - 通常自転車を利用していない人は、十分気をつけて走行すること。

2 案内では…

- 案内は、2人で行うが、慣れてきたら1人で行う。
- なるべく原稿を見ないようにする。
 - (1回目→2回目→3回目、と回数を重ねるごとに、原稿から目を離す時間を増やしていく、お客様との「会話のキャッチボール」を行うように心がけること。4回目以降は、原稿なしで)
- ガイドマニュアルはあくまでも参考。お客様の様子を見ながら、臨機応変に対応しよう。
- お客様がどこに進んだらいいかわからなくなるので、絶対にお客様の後ろを歩かないこと。
- 歩くスピードは、お客様に合わせて。お客様が他にも見ようとしてキョロキョロしていたら、少し待ってあげること。
- もし飲食店に「君も一緒に入ろう」と誘われたら、「学校から厳しく禁止されていますので。」と言ってはっきり断ること。外部の目が怪しいところは危険。
- 身の危険を感じたら、安全確保を最優先で行動する。場合によってはお客様から逃げることも必要。
- 病気などでの急な欠席の場合は、できるだけ早く学校(86-2045)へ連絡を入れる。学校が不在であれば、その日出席する友達から伝えてもらうこと。

3 持ち物

- ガイド原稿(1人必ず1部持参。1人でやる場合もあります。)
- 水筒(ペットボトルでもよいが、すぐぬるくなります。)
- 弁当(先1日働く場合)
- 服装・制服で、上衣は宿根木部のユニフォーム。ボロシャツの裾を出さないこと。

4 心がまえ

ガイドを「やっつけてあげる」のではなく、

- ・「やらせていただく」
- ・「宿根木のことをよく知っていたかく」
- ・「旅のいい思い出にしてほしい」という謙虚な気持ちで行うこと。

※観光客の「いい思い出」になると同時に、みなさんの「素晴らしい思い出・体験」になることを願っています。暑い中大変だとは思いますが、得るものも大きいはずです。頑張ってください。

〔新潟県佐渡市/宿根木観光ボランティアガイド事業〕

お客様をご案内する時の注意点

★自然と人の機微し役…インターアクター★

インターアクターとは、自然からのメッセージをお客様にわかりやすく伝える人・役割の人のこと

- 話したことが相手に伝わったか？
- 話をする時の立つ位置、お客様のいる位置
- お客様はどんなかた？参加者を知る
- 手振り・身振りの大切さ
- 進行役以外のリーダーがちゃんと話をきく…進行役のサポートを忘れないうで
- わかりやすい話し方、ゆっくりと明確に！
- 自然への思いやりを忘れないうで ロインバクトという考え方

★テーマについて

あつかうことは、人と自然、社会と自然、文化(伝統)と自然
つながりを意識して考えてみよう

★安全におこなうために大切なこと

- まず自分の安全を守ろう
- 危険をさける
- 危険をお客様に知らせる
- 残念ながら事故がおきてしまったら、冷静に行動する

〔石川県金沢市/夕日寺生きものきつず「レンジャー」〕

4-2 うまく説明するためのヒント

はじめて会うお客様にボランティアガイドでご案内するときは、だれでも緊張したり心配になることがあります。

ここでは、そんな心配を少しでも減らすために、お客様に分かりやすく、上手に説明するためのヒントを見ましょう。

兵庫県加西市にある北条小学校の歴史ガイド隊では、「お客様とのお話を楽しもう。お客様の表情・目を見ながらガイドをしよう。ゆっくりあせらず、話をしよう。感謝の気持ちを持って、接しよう」ということが「ガイドをする際の心得」に書かれています。

新潟県佐渡市の小本中学校の宿根木観光ボランティアガイドでは、「お客様がどこから来たのか？佐渡に来たのは初めてなのか？これからどこへ行くのか？」などを聞きながらお客様と少しでも親しくなることをすすめています。

北海道松前町にある松前高校のボランティアガイドでは、ガイドに出る前の訓練として、「体をほぐす。リラックスさせる。姿勢を正しくして息をむだなく使う。」など話しかけたのコツと簡単な詩を一息で最後まではっきりと言う練習をしています。



〔兵庫県加西市/加西市立北条小学校歴史ガイド隊事業〕

参 考 资 料

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業 報告シート -1-

【松前】

事業名	児童・生徒によるボランティアガイド普及促進事業
対象地域の概要	松前町は、北海道最南端に位置し、豊かな水産資源に恵まれ、多くの種類の漁獲が特徴。産業は、水産業が中心で、町内就業者数の約半数が漁業と水産加工に従事している。観光は、道内唯一の城郭と 250 種類 1 万本の桜を観光資源に、年間 50 万人を集客している。また、風光明媚な海岸線など数多くの景勝地を有し、北前船文化発祥拠点などの唯一性に富んだ観光資源がある。
活動年数	組織結成年 平成 20 年 本格的な活動開始年 平成 20 年
児童・生徒数	学年と人数 松前高校生 全学年 総数 12名
【指導者向け】概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>児童・生徒によるボランティアガイドは、「地域への理解を深め、郷土への愛情を育てる」といった教育的な効果を通じて、将来の観光地域づくりを担う人材の育成に貢献するものと期待されます。また、子供たちは将来の地域の広告塔であり、地域を宣伝していくためには大きな要因であることから、地域全体として息の長い取り組みを地域主体で構築する必要があると考えます。</p> <p>本事業は、総合的な学習の時間などを活用して、歴史・文化・桜に関する知見を深め、観光ボランティアガイドを通して、観光のまちづくりに参画します。</p> <p>また、観光関係者、学校教育、行政機関等が相互に補完・連携し、持続可能で活力ある地域の実現に向けて取り組んでまいります。</p>

【弟子屈】

事業名	てしかがえこまち Jr.事業
対象地域の概要	北海道弟子屈町は北海道の東部にあり、町域の半分以上が阿寒国立公園に位置し、火山・森・湖に特徴付けられ原生林や温泉などに恵まれ、世界一ともいわれる透明度を記録した摩周湖、そして屈斜路湖の二つの湖と硫黄山など観光資源を抱えた総人口約8,600人(平成17年国政調査)の町です。
活動年数	組織結成年 平成20年 本格的な活動開始年 平成21年
児童・生徒数	学年と人数 小学5年生1人・小学6年生1人・中学1年生1人・中学2年生1人 総数 4人
【指導者向け】概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>てしかがえこまち Jr. 事業は子ども達が、地域とのふれあいの中で「弟子屈町ならではの歴史や文化、ふるさとの素晴らしさなど」を体験活動を通して、実感・体感し、お客様にガイドを実施することで、主観・客観の両方の視点から地域の素晴らしさを学び「地域への愛着・誇り」を醸成します。</p> <p>また、主観・客観の視点から地域の素晴らしさを知るということは、普遍的な良さを再確認でき、地元を見直すとともに、「弟子屈町の良さを伝えたい」、「町のために活動したい」「地元に残りたい」などという意識が強くなり、弟子屈町の未来を担う人材になると考えます。</p> <p>てしかがえこまち Jr. 事業は継続的にふるさと学習や環境保全活動するサークル活動として弟子屈町の未来を担う人材育成を目指します。</p>

【海星学院】

事業名	大型客船ダイヤモンド・プリンセス号の寄港にともなう乗員乗客の通訳ボランティア活動
対象地域の概要	室蘭市は北海道の南西部に位置し、人口9万人のまちで、明治5年の開港以来、港を中心に製鉄、製鋼、造船など北海道の中心的工業都市として発展してきました。札幌や洞爺湖方面へのアクセスも良く、また室蘭市は周囲を海に囲まれ、自然豊かなまちです。 大型客船が入港する室蘭港の崎守埠頭からは白鳥大橋を間近かに眺めることができ、室蘭を代表する景色の一つです。
活動年数	組織結成年 2004年 本格的な活動開始年 2004年
児童・生徒数	学年と人数 高校1年～3年 総数 168名
【指導者向け】概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>通訳ボランティアは、国際理解教育の一つとして全校生徒で取り組み、国境を越えたもてなしの心を伝える</p>

	<p>ことと同時に、普段学んでいる英語を使い、よりの確に情報を伝えるための英語力の習得を目的としています。</p> <p>異文化を理解するため、2年次にはアメリカ修学旅行で約7日間のホームステイを体験していますが、今度は受け入れる側に立ち、室蘭のことを相手に伝えるために室蘭市の観光、産業、歴史などの自文化の理解をし、英語を通して相互理解を深めていき、このボランティア活動を通して、真の国際人を育てていきます。また、国、人種、言語など関係なく、相手に対するもてなしの心を育みながら、地元の NPO 法人「羅針盤」のスタッフの方と一緒に活動を行うことによって、地域とのつながりの大切さを学んでいきます。</p>
--	--

【八戸】

事業名	山の楽校ボランティアガイド育成事業
対象地域の概要	八戸市は、青森県の南東部に位置し、日本有数の漁業の街として栄える人口25万人の都市。今回のガイド事業を実施する「山の楽校」は南郷区(旧南郷村で平成17年3月に八戸市と合併)島守に位置し、平成15年に廃校となった増田小中学校の校舎を活かし、平成17年6月にオープンした。里山の田舎で、昔からの生活文化をそのまま体験するというコンセプトの体験交流施設である。
活動年数	組織結成年 平成20年 本格的な活動開始年 平成20年
児童・生徒数	学年と人数 中学1年生 6名 総数 12名
【指導者向け】 概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>本事業は、中沢中学校の総合学習『地域をよく知る』をさらに発展させ、自分たちの住む街を知ることでの郷土愛の醸成と、人にものを伝えるというコミュニケーションの大切さを学ぶために実施するもので、地域に自信と誇りを持ち、そして自分たちの住む街の魅力を伝えられる次世代の担い手の育成を図るものである。本事業は、昨年度に引き続きの実施になるが、中沢中学校鹿内校長、そして受入施設の山の楽校岩崎楽校長も生徒が短期間で人間的に成長している様子に驚き、実践重視の本事業は、今後の教育現場に不可欠なものであるとの共通の考えを持っているようであった。</p> <p>昨年度の経験も踏まえ、本事業の意義は、地元への愛着を持つことにより、将来自分の街を元気にしようと思う子どもが育つ。ガイド実践で普段触れることのない人とのコミュニケーションを重ねることにより、自分の意見をはっきり伝えられる広い視野を持った子どもが育つ。そしてお客様からの『ありがとう』の声に素直に喜び、次はもっとうまくガイドしようという向上心の強い子どもが育つという3点があると考え。</p>

【日本橋】

事業名	ボランティアガイドによる江戸日本橋観光めぐり事業
対象地域の概要	日本橋地域には、江戸時代から続く老舗や伝統工芸施設、また日本橋を始めとする重要文化財が集積している。江戸時代の日本橋は日本の文化・経済の中心地であり、現在も江戸時代から続く400年以上の歴史を、いたるところで垣間見る事ができる。18世紀末の江戸の人口は100万人に達し近代日本を形成していたが、日本の高度成長期を支える為、日本橋には高速道路が建設され、現在では無機質なオフィス街へと変化してしまったとも言える。
活動年数	組織結成年:2007年8月 本格的な活動開始年:2007年11月
児童・生徒数	学年と人数:中学校3年生、高校生2・3年生 総数:5名
【指導者向け】 概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>NPO 法人東京中央ネットの日本橋美人推進協議会・江戸日本橋観光めぐり事業は、日本橋地域の豊富な資源を再認識し、より魅力ある地域を紹介する事業活動として既に実施している。</p> <p>その中で、今後の日本橋地域の観光事業を担う人材を育てるために、日本橋地域に居住している学生を対象に、ボランティアガイドとして育成することで郷土愛の醸成が期待できる。また、生徒たちが将来には市民ボランティアガイドや企業ボランティアガイドとして、地域の観光事業を担っていく人材になるような教育支援に寄与することを目的とする。</p>

【佐渡市小木中学校】

事業名	宿根木観光ボランティアガイド事業
-----	------------------

対象地域の概要	対象となる佐渡市の宿根木集落は、新潟県で唯一の「伝統的建造物群保存地区」として、国から指定を受けている。江戸時代、西まわり航路の寄港地に佐渡の小木が選ばれたことで、宿根木に千石船の船大工や船主、船乗りたちが多く移り住むようになり、この集落が発展した。狭い集落に多くの家が密集し、船主の豪華な家屋や西回り航路寄港地から買い集めた品々など、見どころの多い地域として観光客が絶えない。
活動年数	組織結成年 平成16年 本格的な活動開始年 平成16年
児童・生徒数	学年と人数 中学1～3年 総数 46名
	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>佐渡への観光客は平成3年の年間121万人をピークに、現在は半減している。小木⇄直江津航路は、赤字航路として存続すら危ぶまれており、観光客の減少は小木や佐渡の大きな問題点となっている。そこで当校では、小グループで来ている観光客に、「佐渡に来て良かった」とか、「また来たい」と思ってもらえるようにお手伝いできないかと活動を始めた。この活動により、少しでも宿根木や佐渡の魅力を伝えたいと思っている。</p> <p>観光客の反応やマスコミの取材等を通して、宿根木集落の価値や意義を知り、郷土に対する誇りをもつことができた生徒は多い。また、観光客との応対を通して、大きな声でのあいさつや正しい言葉遣いなど、基本的な生活習慣を学ぶ場としても大変貴重である。さらには案内した観光客から写真やお礼の手紙・電子メール等ももらうこともあり、生徒にとっても大きなやりがいとなっている。実際に活動した生徒からは「楽しかった」、「来年もやりたい」など、非常に肯定的な声が聞かれ、部員も年々増加傾向である。</p>

【新潟市ビープロデュース】

事業名	宮浦中ガイド学習・佐渡汽船で新潟紹介にチャレンジ/ガイドの先輩 小木中宿根木ガイド見学 事業
対象地域の概要	宮浦中学校は新潟市万代地区にある中学校で、2年生では総合学習の中で自分たちの住む町を調査するが、その発展的な学習として学区内にある朱鷺メッセ 31 階展望室でのボランティアガイドを行うべく本年度より、新たな学習に取り組んでいる。5月には開始のガイダンスとして、新潟シティガイドさんの案内のもと、展望室より見える新潟市内を実際に自分の足で見てきた。10月からの本格的ガイドを前に、現在はハースルを重ねている。
活動年数	組織結成年 06年 本格的な活動開始年 05
児童・生徒数	学年と人数 中学2年 総数 44名
	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>佐渡への観光客は平成3年の年間121万人をピークに、現在は半減している。小木⇄直江津航路は、赤字航路として存続すら危ぶまれており、観光客の減少は小木や佐渡の大きな問題点となっている。そこで当校では、小グループで来ている観光客に、「佐渡に来て良かった」とか、「また来たい」と思ってもらえるようにお手伝いできないかと活動を始めた。この活動により、少しでも宿根木や佐渡の魅力を伝えたいと思っている。</p> <p>観光客の反応やマスコミの取材等を通して、宿根木集落の価値や意義を知り、郷土に対する誇りをもつことができた生徒は多い。また、観光客との応対を通して、大きな声でのあいさつや正しい言葉遣いなど、基本的な生活習慣を学ぶ場としても大変貴重である。さらには案内した観光客から写真やお礼の手紙・電子メール等ももらうこともあり、生徒にとっても大きなやりがいとなっている。実際に活動した生徒からは「楽しかった」、「来年もやりたい」など、非常に肯定的な声が聞かれ、部員も年々増加傾向である。</p>

【原村】

事業名	子どもたちによる、原村の魅力発見・共有による地域力向上
対象地域の概要	原村は長野県の中部東よりに位置し、八ヶ岳西麓のなだらかな高原で、八ヶ岳阿弥陀岳頂上を頂点にほうき星のように東西に細長く広がる自然の大変豊かな、人口7,800人余り村です。70件程の原村ペンションを中心にした観光業と、高原野菜に代表される農業が主要な産業で、小学校は1校、児童431人が学びます。全国規模の「星祭り」が開催され、原村の星の美しさと自然のすばらしさを歌った「星の降る里」は合唱曲になっています。

活動年数	組織結成年 平成14年度 本格的な活動開始年 平成14年度
児童・生徒数	学年と人数 1年6人、2年6人、3年7人、4年4人、5年5人、6年2人 総数30人(本事業はオプション企画となるため新たな公募も加える。)
【指導者向け】 概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>当村の良さをどう表現し、どう伝えるか検討し、村内外の方へ紹介することを通じ、地域を再発見するとともに、将来の地域づくりの担い手を育成する。</p> <p>【内容】こどもたちの好きな原村のよいところを、どう表現して、どう案内するか話し合い、ガイドを実践する。また、あらかじめ選り調査した原村のよいところ、好きなところの絵と写真をマップとカードにし、好きな原村絵画・写真展を行いその折、案内しながら配布する。</p> <p>《スケジュール》・他地域の事例を学ぶスタッフ研修を行い、事業を組み立てる参考とする(8/6)・協カスタッフ研修会(9/18)・ボランティアガイド実践のための教室(10/4)・ボランティアガイド実践(10/17)・好きな原村絵画・写真展開催(11/7原村文化祭の折、ほか図書館等で数回)</p>

【多治見】

事業名	「多治見観光ボランティアガイドとボーイスカウト多治見協議会によるガイド養成事業」
対象地域の概要	多治見市は古墳時代より陶磁器の生産地として文化が栄えた町。豊かな自然に囲まれた市内には、随所に陶磁器施設、窯元、寺院、街並みなどの観光スポットがあり、近年では中部のみならず関東・関西方面からの観光客数が増加している。
活動年数	(ボランティアガイド)組織結成年2003年10月 本格的な活動開始年2004年 (ボーイスカウト)組織結成・活動開始年 1965年
児童・生徒数	学年と人数 多治見ボーイスカウト協議会 ボーイ隊(小6～中2)31名、ベンチャー隊(中3～高校3)31名 総数 62名
【指導者向け】 概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>多治見観光ボランティアガイドと、多治見ボーイスカウト協議会に所属する子ども達と一緒に、我が町の観光ポイントや文化財、それらにまつわる歴史などを調べ情報交換しあいながらガイドテキストを作り上げる。それを基に学習の発表の場として、秋～冬の観光最盛期には子ども達中心のガイド実施を予定。ひとつの学校、学年にとらわれず、縦割りの異学年、異学校の集合体であるボーイスカウトと行なうことで、子ども達がそれぞれの地域に戻って、各家庭、学校への意識の波及効果を狙う。ボランティアガイド側としては、資料やガイド方法の再検討を行うことで、今後の教育旅行客等への対応に活かし、子ども達とは継続して活動して行くことを目的とする。</p> <p>7月～ 9月 観光地区を3班に分け担当を決め、資料作りなどを開始 10月～11月 ガイド講習会、話し方講習会。11月～1月ガイド実施 2月 反省会</p>

【南知多町】

事業名	篠島子ども観光ボランティアガイド養成事業
対象地域の概要	愛知県知多半島の先端師崎から海上約4kmの沖合にある面積約1km ² 、人口約2千人の離島である。漁業と観光が主な産業で、年間約23万人の観光客が訪れます。 夏は海水浴と鰻料理、秋から冬にかけては、ふぐ料理が楽しめます。
活動年数	組織結成年:2009年 本格的な活動開始年:2009年
児童・生徒数	学年と人数:中1～2人、小6～7人、小4～4人、小3～2人 総数:15人

【児童・生徒向け】 実践手法	ガイドの実践 1. 養成講座の開催 ① 地元の良さを知らるために篠島の歴史や文化の講義を受ける。 ② 隣の島である日間賀島から篠島を見る。 ③ 島以外の観光施設を視察する。 2. ガイドのための資料作成 ① 篠島の中の案内する施設を抽出する。 ② 篠島の案内コースを作成する。 3. ボランティアガイドの実践 ① 篠島観光ガイドの案内を受ける。 ② 案内するための資料を作成する。 ③ 観光ボランティアガイドとして案内する。
-------------------	--

【石川県夕日寺】

事業名	夕日寺生きものきつず・レンジャー
対象地域の概要	石川県庁所在地である金沢市において、中心地より車で15分の里山。いくつかのベッタウンが隣接し、家族形態は核家族化がすすんでいる。県が里山保全のモデル拠点として位置づけしている施設(夕日寺健民自然園)を利用し、自然体験をつじた環境教育の取り組みを行っている。
活動年数	組織結成年 平成19年より 本格的な活動開始年 平成16年より
児童・生徒数	学年と人数 小学校4年生以上 総数 15名(予定)
【指導者向け】 概要	0. 事業の目的と意義について 本事業は、里山の役割を次の世代へ伝え、人と自然が共生する持続可能なより良い社会づくりを目的とします。 身近な自然とふれあう機会が少なくなってしまった子どもたちに自然の中で発見する喜びや、命の輝きを実感する機会を提供し、自然をとおして、「命」について考える意義ある活動となります。 これまで、希少な生き物を守り育てる活動を平成19年度より実施してきました。これらの活動をもとに、里山のいきものや自然の不思議さ・おもしろさについて、児童が自らが、人に伝える技術、ガイドやインタープリテーションを体験し、その大切さを理解し、実践する活動に取り組んでいきます。 点の活動から、家族のコミュニケーション、地域の交流の輪へと広がっていくことを願い活動をすすめていきます。

【湖北町】

事業名	「湖北町子どもボランティアガイド育成事業」
対象地域の概要	湖北町は、琵琶湖の北東部に位置し、琵琶湖に面した西部と、北国街道やJR北陸本線など主要幹線の走る中央部、そして小谷山など森林資源が広がる東部の3つに分けられる。琵琶湖北部には毎年コハクチョウなど多くの水鳥が飛来する豊かな自然があり、また東にそびえる小谷山には浅井長政の居城「小谷城趾」があり、JR河毛駅などを利用して毎年多くの観光客が訪れる自然環境・歴史文化に恵まれたところである。
活動年数	組織結成年 平成20年 本格的な活動開始年 平成20年
児童・生徒数	学年と人数 5年生(4名)、6年生(61名)、中学生(7名) 総数72名
【指導者向け】 概要	0. 事業の目的と意義について 西の琵琶湖岸には美しい水鳥公園が広がり、公園内の湖北野鳥センターを活動拠点として、近くの朝日小学校が愛鳥学習を中心とした環境教育を進めている。また東には浅井長政の小谷城趾がある小谷山がそびえ、近くの小谷小学校が城趾内の戦国歴史資料館を活動拠点として、小谷城祭りや歴史学習を進めている。そして、中央部は、北国街道やJR北陸本線が縦断し、近くにある速水小学校では、北国街道やJR河毛駅を活動拠点として街道沿いの歴史文化の学習を進めている。このように本町は、毎年多くの観光客が訪れる自然・歴史・文化環境に大変恵まれた地域であり、各小中学校ではこの教育環境を活かした総合的な学習の時間を展開している。そこで、子どもたちが当地を訪れる観光客の人々に自分たちの地域のよさを伝えることを通じて、“わが町 湖北町”のよさを再確認したり、人の役に立つことの喜びや自己有用感などを体得すること

	ができると考える。また観光客からの情報によって他地域への興味の広がりも期待できると考える。さらには、ふるさと湖北町を愛し、地域に誇りを持てる児童・生徒の育成をめざしていきたい。
--	--

【鳥羽(有)オズ】

事業名	離島地域における子どもガイドボランティア「しまっこガイド」育成事業
対象地域の概要	菅島は、鳥羽港の東約3kmに位置し、島内は標高236mの大山を中心に全体が山地となった島である。面積4.52km ² 、周囲13.0km、世帯数208世帯、人口741人(男363人 女378人)業種別でみると漁業従事者が一番多いが、年々漁業従事者は減少傾向にあり、3次産業へと移行しつつある。主な漁業は1本釣りや藻類の養殖が盛ん。藻類の漁獲量は鳥羽市の離島の漁港のなかで一番多い。
活動年数	組織結成年 9年 本格的な活動開始年 2009年
児童・生徒数	学年と人数 3・4・5年生 総数 36名
【指導者向け】 概要	0. 事業の目的と意義について 菅島の子ども達が、近隣島外在住の大人や旅行会社添乗員研修に対して、菅島のガイドングを行うプログラムを実施する。前者は3・4年生、後者には5年生の島っこガイドが、3コースに分かれてガイドを行う。スタッフサポートの下、島についての知識をさらに深め、その知識をアウトプットすることで、さらに島への興味も深めると同時に島の子であることの自信につながる。子ども達が自分の地域を知る・好きになる・伝えるというプロセスを体験する。また、島を訪れた人々を喜ばせたい、島を好きになってほしいという気持ちも芽生え、楽しませる工夫やおもてなしといった自発的なアクションにつながる。なお、島という特有の地域に暮らす子ども達の生活では、初対面の人とコミュニケーションをとる経験が少ないという特徴があり、学校サイドとしては初対面の人々との接し方を学ぶ機会とも捉えている。環境と教育と観光の連携の形であり、総合学習にはふさわしいものとなり、菅島小学校としては今後3年間を通しての子ども達の課題に対するプログラムとして定着させる可能性を研究し、菅島小学校で行われる県内の来年度の学習発表会の題材とする予定。

【加西市】

事業名	加西市立北条小学校歴史ガイド隊
対象地域の概要	兵庫県のおぼ中央、播磨平野の北東部に位置する人口約5万人都市。 市内には数々の古墳群や日本最後の石仏など多数の名所・旧跡のほか、約1,000ものため池が各地に点在しており、貴重な水生生物の宝庫となっています。また、市内の田園を颯爽と走る北条鉄道は市民の貴重な公共交通で、多くの方々に親しまれています。
活動年数	組織結成年 平成15年 本格的な活動開始年 平成15年
児童・生徒数	学年と人数 6年生 18名 総数 464人(6年生:88人)
【指導者向け】 概要	0. 事業の目的と意義について ○ 子どもたちと連携した、継続性のあるまちづくり活動 ○ 子どもたちのわが町を愛する地域教育 ○ 子どもたちの心に豊かな心情を育む ガイド事業を通じて、地域全体としての観光まちづくりの推進を図り、子どもたちの心ふるさとへの愛着と豊かな心情を育むことを目指します。

【湯布院】

事業名	ゆふいんボランティアガイド活動活性化・ステップアップ事業
対象地域の概要	湯布院には地域の歴史資源や広大な自然資源、暮らしに身近に存在する温泉や湧水、植生などの観光資源といった多様な資源が存在します。それらの資源を活かしたボランティアガイド「あさぎりの会」の活動をはじめ、最近ではエコツーリズム、エコウォークという新たなガイドの概念を持ってガイドツアープログラムを試案するなど、取り組みが活発になってきています。
活動年数	組織結成年 平成21年 本格的な活動開始年 平成21年
児童・生徒数	学年と人数 中・高校生 5人 小学生 5人 総数 10人
【指導者向け】	0. 事業の目的と意義について

概要	<p>本事業は、現在活動的になりつつある大人のボランティアガイドやエコウォークを展開している団体・個人が、公募による子どもボランティアガイドを養成し、共に実践することにより、大人の活動の活性化と子どもの環境教育、地域教育の推進を図り、双方の育成・ステップアップにつなげていくことを目的としていきます。</p> <p>事業の進行にあたっては、大人が実行委員会を組織化し「子どもガイド養成・実践講座」の企画検討、準備作業を行い、子どもがその養成・実践講座を受講し、最後には企画から準備、そして養成・実践をトータルに検証する大人と子どもによるワークショップを開催する。そして、次につながる活動促進に寄与するステップアップの要素を洗い出していきます。</p>
----	---

【石橋記念公園】

事業名	石橋記念公園「子どもガイド」育成事業
対象地域の概要	<p>鹿児島市の中心部を流れる甲突川に架けられていた五つの石橋のうち平成5年8月の水害で流失を免れた3橋を移設・復元した公園。公園内には歴史的遺構が多く、開園以来多くの県民に親しまれている。石橋記念館は、石橋の架橋技術や歴史を学べる資料館となっており、周辺地域は「鹿児島のはじまり上町」といわれる地域であり、郷土の歴史を学び・感じることのできる公園となっている。</p>
活動年数	組織結成年 平成20年度 本格的な活動開始年 平成20年度
児童・生徒数	学年と人数 小学校2年～中学校3年 総数 14
【指導者向け】 概要	<p>0. 事業の目的と意義について</p> <p>石橋記念公園・記念館において、「子ども学芸員」を設置し、子どもたちが石橋の歴史や架橋技術を学び、体験する中で、鹿児島の歴史や郷土への興味をもってもらい、様々な発見・感動の場所として、また子ども自身が考え、調べ、学ぶ力をつけることができる場所として提供し、今後の公園の利用促進に資する。</p> <p>また、昨年度から活動中の「子どもガイド」の育成継続と本年度「子ども学芸員」としての勉強会を終了した子どもたちの中から「子どもガイド 2 期生」としてグループ活動のできるリーダーを育成し発表の場としての提供を行う。</p>

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業 報告シート -2-

【松前】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 当協議会の中に、人材育成を担当する「観光地域マネジメント部会」を設置して、ガイド指導にあたった。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等) 当協議会事務局と生徒会顧問(先生)が、学校行事等スケジュールを調整しながら連携を図った。学校側は、パソコン教室を開放するなどの環境づくりを行った。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等) 観光施設側の受入協力、観光ガイド事業者によるガイドング指導など、観光地域マネジメント部会が全体をコーディネートし相互の連携を図った。</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法) 学級ボランティア委員会が窓口となり、校内にポスターを掲示して全校生徒に呼びかけた。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等) 組織化には至っていない。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) 当協議会事務局と生徒会顧問が学校行事等を調整して放課後に活動した。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 松前公園の名所や風景などを撮影して、地域の魅力を再認識するフォトワーク(1回)、フォトワークで撮影した史跡等を調べる地域学習(10回)を開催し、観光地域マネジメント部会が指導にあたった。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) 地域学習の成果をガイドブックにまとめた。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) フリップを使って観光施設の概説などを説明することになっている。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) 観光ガイド事業者1名と生徒2名がパートナーを組むことで、事前の防止策をとっている。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法) 観光案内所を窓口にして、お客様の要望に応じて生徒を派遣することにしており、トラブルがあった場合は、観光案内所が責任を持って対応にあたることになっている。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>①のパートナーを組むことで、ガイドの補足説明やトラブルの対処などフォロー体制を講じている。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理) 現地集合・解散時の交通安全、ボランティア保険加入、学校への校外活動願い提出 など</p>
<p>【児童・ 生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等) ガイドの心得を遵守</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 自己評価票によってスキルアップを図る</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p>

	ネームプレート、ハンドマイク、メモ帳、ガイドブック、フリップ ④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)
--	--

【弟子屈】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 てしかがえこまち推進協議会(別紙組織図)人財育成部会</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等) 訪問し直接説明</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等) 連携なし 来年の総合学習に向け、学校へ訪問予定→町内の小中学校では、総合学習において「ふるさと学習」が行われており、そのまとめとしてのアウトプット(ガイド活動)を想定して訪問している</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)、行政(役場観光商工課)宣伝、川湯エコミュージアムセンター 施設利用</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等) TOSSオホーツク TOSSの集まりの際、こどもガイドの事例発表</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方針について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法) こどもガイドを直接募集、学校でのチラシ配布、新聞に折り込みチラシ</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等) えこまちJr. まだ組織化には至ってはいない</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) 学校行事の年間スケジュールを確認し、行事のない、夏休み・冬休み、土曜日・日曜日 観光地であるメリットを活かして、観光客の入込が見込める場を設定</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) プロのガイドをしている方から内容を学ぶ、株式会社ツーリズムてしかが(1回) 実施組織メンバー</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 実施組織(協議会)のメンバーに模擬ガイド(2回)、講師は株式会社ツーリズムてしかが自然ガイド</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 現在の参加メンバーでは年齢のばらつきが少ないので、特に工夫していない</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等) 屋外での定点ガイドが現状での方法、クリアファイルを使い、お客様に見やすいよう紙しばい風にまとめる 2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) クリアファイルにガイド内容に合わせた写真・イラストを用意 振り返りやガイド中の台本として野帳(フィールドノート)を使用、ノートには写真も貼りつけて分かりやすくまとめた。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) 和琴半島の散策マップ(環境省作成)</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) リスク回避のため事前下見・現地情報の把握、参加児童・生徒の行動から直接指導、救急用品の携帯</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制) ガイドの際、2名の大人配置</p>

	<p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>ヒグマ、ハチ、ウルシなどのリスクを回避するための現地情報把握、季節、天候による服装の準備</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>ガイドする内容とその調べ方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外における定点での解説(地域の自然・歴史、自らのお気に入りの場所) →自らの体験がガイド内容となるような活動 →地域のスペシャリストへの聞き取り →郷土資料の調べ学習 <p>ガイドのための資料の作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験や調べ学習によって得た情報を基に、ガイドのシナリオを作る ・シナリオに合わせた写真やイラストを準備する →自らの台本をフィールドノートにメモする →お客さま用には、クリアファイルに写真を入れて、紙しばい風の資料を作る <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>ガイドとわかるよう、統一したユニホーム、分かりやすい言葉遣い(あれ、これなど使わない)、挨拶、自己紹介</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>プロの自然ガイドから学ぶ、身振り手振りをつける</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>マップ、説明用ファイル</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>こどもたちがガイドした後、ティータイムなどの時間をとり、お客様と直接会話をできるような時間の使い方をする。→こどもたちも、お客さまからの質問に自ら思ったことを自分の言葉で話していたので双方にとって良い時間となった。観光庁「ニューツーリズム創出・流通促進事業」モニターツアーを実施した際、こどもたちのガイドについてもヒアリング式でアンケートしました。</p> <p>難しいガイド内容ではなく、聞きやすく楽しめた、地元のこどもガイドは涙がでそうになるくらい感動した など感想がでていました。</p>

【海星学院】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>国際理解教育部を中心に外部団体の NPO 法人「羅針盤」と協力。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>基本的には保護者会などを通してボランティアの参加とその意義については説明をおこなった。</p> <p>入学する前の入試広報のときから通訳ボランティアについては理解していただいているので特別に事前説明会などを開く必要性はない。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>NPO 法人「羅針盤」と協力。羅針盤が企画したプログラムに本校が加わるという形態。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>学校行事として扱っているので1年生から3年生までの全校生徒参加(約160名)</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>観光スポット5箇所、バスガイドなどのグループを生徒3~6名で構成し、旅行者の人数予測に応じて配置し</p>

	<p>た。</p> <p>午前・午後の2交代で実施</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) 大型客船ダイヤモンドプリンセス号が来港する日が1年前から決まっているのでその日程に合わせて年間行事予定の中に組み入れている。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 普段からの英語の授業の応用と考え、特に事前の勉強会は行わない。本校は2年生全員が約10日間のアメリカ修学旅行に行きホームステイを体験しているので、外国人の方への対応は慣れている。前日にしおりを配り、外国人の方に限らず、お客様へのおもてなしについては直前の講習を行った。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 2008年5月に元JALの客室乗務員の方をお招きして全校生徒対象に「ウェルカムマインド研修」を開いた。2年生・3年生についてはその講習を受けているので基本的な接客マナーは理解しているが、1年生については、そのときの講習内容をまとめたプリントを活用して事前講習を行った。2年生・3年生に関しても、再度確認をした。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 高校生3学年とも同じ指導。ただし、アメリカ修学旅行経験者の3年生は、より積極的に行動するように、後輩のよきお手本になるようにと指導した。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) 「羅針盤」作成によるガイドマップにあわせ、本校作成の虎の巻</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 通訳ボランティア計画・主なボランティア内容 (2) ボランティア把握書(羅針盤作成) (3) 近郊までのJRタイムテーブル・チケット購入について(英語) (4) 崎守埠頭での通訳(英語)・バスガイド(英語) (5) 室蘭の概要(英語) (6) Survival English(英語) (7) ウェルカムマインド (8) 室蘭マップ(英語)・ループバス時刻表(英語) (9) 緊急連絡先 (10) 学校紹介(英語) <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) 室蘭マップ(英語)・ループバス時刻表(英語)</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) 教員による巡回。生徒の配置にあわせて、教員の配置も行った。緊急連絡先を徹底した。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法) 相手が求める英語力との誤差が生じた。 トラブルではないが、ボランティアの生徒に対して、旅行者がチップ等金品を贈与しようとした。 →即座に教員に相談し、習慣の違いの生活を含めて丁寧に断りした。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <ol style="list-style-type: none"> ①に同じ ④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類の、立地条件など地域的要因に基づく安全管理) ループバス車内での転倒事故、市内での交通事故に巻き込まれることのないよう注意を喚起した。
<p>【児童・生徒向</p>	<p>4. ガイドの実践</p>

<p>【け】</p> <p>実践手法</p>	<p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>まずは、元気に明るく「こんにちは」と声をかける。日本を訪問しているのだから挨拶は必ず日本語で行う。それから英語で話しかける。</p> <p>服装は、相手に失礼のないように、身だしなみを整える。(おしゃれではなく)</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>言葉よりも行動。言葉で上手に説明できなければ、紙に書いたり、一緒にその場まで案内をする。”I don't know.”と言うのではなく “I'm not sure but…”で、お客様の要望に対して、最後まで責任をもって、相手に伝える。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>「笑顔!!」これさえあれば、他にはいらない。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>待っているのではなく、自分から積極的に話しかけることが大切。そのきっかけとして挨拶を必ずおこなう。</p>
------------------------	--

【八戸】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>実施主体 八戸観光コンベンション協会</p> <p>協力 八戸市立中沢中学校、山の楽校運営協議会</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>中沢中学校より、事前に文書でガイド参加希望者の父兄に事業概要説明</p> <p>ガイドとしての活動及び送迎等があった場合の対応について承諾書をもらう</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>教頭を窓口、校長、1年生の担任教師と事業スケジュールについて調整</p> <p>協会－講師手配、講義内容の検討、関係団体との連絡調整</p> <p>学校－講義時間設定のための授業時間調整、講義会場の確保、父兄への連絡</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>ガイド実践の場となる山の楽校との連携(一般客が集まりやすい日程を協議)、体験事業に使用する材料の手配</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2－1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>中学校に依頼し、募集についてはすべて学校側で対応。1年生生徒から参加希望を募る。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>部活動やクラブ活動の位置づけにはしていない。他の運動部や文化部に所属しながらガイドの生徒は本事業の活動をする。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>学校行事の影響が少ない11月以降の実施とした。スケジュールについては学校側とも連絡を取りながら決定した。地域学習の講義については、総合学習の授業時間を活用したのでどの時間に行うかは学校側と連絡を取り、その後講師の手配を行った。</p> <p>ガイド実践は山の楽校にお客様が集まる休日とし、学校側も了承。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>ガイドとして活動するための基礎知識の学習を講義形式で行った。ガイドの生徒は1年生10人であるが、子どものうちから地域を知ることの重要性と学校側からの要請もあり、1年生生徒37名全員が受講することとなった。講義は3回で、自分たちの住む街の地名の由来、歴史的な出来事、食文化など子どもたちが興味を引く</p>

	<p>ような身近な内容で行った。なお講師については、市観光課長や郷土史家などに依頼した。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 青森県内で研修活動に講師派遣などを行っている「セミナー青森」に講師派遣を依頼。これまでもボランティアガイドのセミナーなどでも何度も八戸にお越しいただいており、八戸の実情も把握している。なお、内容については、子どもたちだけではなく、現役の大人のガイドやこれからガイドを目指そうという人といっしょに基本的な話し方から観光客の目線に立った話し方、お客様が求めるものなどを学習。そしてグループ形式で模擬的なガイド実践も行い、それぞれ講師からアドバイスをもらう</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 中学生ということで、まずは笑顔で元気よくということを第一に。大人の一般ガイドのレベルまで求めるのは大変なので、できることをひとつひとつ増やしていくようなイメージで指導をする。また、いきなりガイドではお客様とどのように接すればいいのか生徒はわからないので、ガイド実践の前に模擬ガイドとして、中学の校長や先生がお客様役になって、実際の体験ガイドと同じような感じで行き、生徒たちに感覚を掴んでもらった。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等) 基本的にすべて施設内なのでタイプ別というのではない。 2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) 基本的にガイドする内容がそば打ちやせんべい焼きの体験内容で、実際に手を動かしながらのガイドとなるので、資料を特別に用意していない。ただし、これまでに学習した地域の魅力に関する情報をいつでも調べられるように、生徒たちが個々にまとめたノートを持参させている。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) お客様にお渡しする資料は特に用意していない。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) ガイド時及び現場への移動には細心の注意を払う。移動時は生徒の父兄に協力を依頼。またガイド時も山の楽校のスタッフが常時教室にいて、事故のないようにする。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制) そば打ちにもせんべい焼き体験も実際指導もできる大人が付いているので、子どもがガイドに詰まった時などは手助けをしてくれる</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理) ガイドの生徒の自宅と山の楽校の位置が離れているので、送迎については特に注意した。生徒全員きちんと父兄が迎えに来て、帰ったのを確認してからスタッフは解散とした。</p>
<p>【児童・生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等) 服装は中学生らしく、派手な格好はしない。また、物づくりの体験なので、むしろ中学校のジャージで活動することも多かった。言葉づかいは、おもてなしセミナーで学んだことを活かし、はっきり丁寧に話すことを心がけた。特に無理して尊敬語や謙譲語を使うことを強要せず、まずは意思をきちんと伝えられるようにした。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 ガイドの中で自分がお客様に伝えたい事柄を自分なりにまとめておく。あとは一人でも多くのお客様と会話をする。そうすることでお客様の求めるものもわかるようになるし、慣れによってコミュニケーション能力が向上する。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を送送するなど工夫点) 第一に笑顔と元気。あとは形や言葉遣いより、まず一生懸命ガイドしようとする高い志があれば、自然とコミュニケーションもうまくできるようになるし、お客様も満足してくれる。</p>

【日本橋】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 NPO 法人東京中央ネット・日本橋美人推進協議会・江戸日本橋観光めぐり事務局と日本橋女学館が主催者となり企画運営した。専門家を招聘し勉強会を実施した。日本橋女学館の中高生が主体となりジュニアボランティアコースを設定した。コース設定後に江戸日本橋観光めぐり事務局と日本橋女学館の公式ホームページでお客様を募集し、中学・高校生ボランティアガイドが観光めぐりを実施した。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等) 日本橋女学館の中学校、高校の入試説明会時に、保護者に「観光めぐり」を説明した。また在籍している生徒の保護者に対して郵送でプリントを配付し、ジュニアボランティアコースの詳細をご案内した。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等) 日本橋女学館中学校・高等学校と連携した。中高生5名が主体となりコース設定を行った。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等) 地元密着型の観光めぐりを目指していることから、訪問先である地元の老舗「刃物 うぶげや」や「ジュサブロー館」「亀井堂」で事業者側からご説明をしていただく機会を設け、主催者との連携を行った。</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等) 都市分野の専門家を招聘し、ジュニアボランティアガイド育成勉強会を2回実施した。</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法) 教員から生徒に対してガイド募集をかけた。「にほんばし学」(学校独自のキャリア教育)を学んだ生徒や、生徒会・部活動に参加をしている生徒からの応募があった。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等) 校内に「にほんばし学」という日本橋地域と密着したキャリア教育があり、生徒会を中心に組織的活動をしている。今回の事業により新たに、「ガイド学」という組織を新設した。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) 10月より作業を実施。事務局はスケジュール案を作成し、学校側に打診、それを基に学校でスケジュールリングをした。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 都市分野やワークショップに精通している専門家を招聘し、勉強会を2回実施。 どのような姿勢でガイドに臨めばよいのか、街の見方や知り方などの講義を実施。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 勉強会にて模擬ガイドを実施。お客様全員が集まってから説明を開始したり、トイレの場所案内をするなどの指導を実施。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 年齢別の指導は実施していない。中学生3人、高校生2年の計5人のチームを組ませて観光めぐりを実施した。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等) 施設案内は、極力施設の方に説明していただくように工夫した。施設の方の説明が得られない場合は、施設概要書などを施設より入手した後に説明用の書類を作成した。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) ガイド用の説明資料を作成した。その際、施設の由来書や概要書を入手し、参考とした。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p>

	お客様用の資料を作成した。ルートマップと、訪問先の概要書を作成した。生徒からの視点でお薦めするポイントを書いた。
【指導者向け】 注意事項	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>万が一の怪我に備えて傷害保険に加入した。また、先頭にガイド、後尾にスタッフを配置し、お客様を正しく誘導するように留意した。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法)</p> <p>「施設見学時間が足りない」というお客様に対し、解散後に再度訪問していただくよう依頼した。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>教員3名、事務局3名、計6名を配置した。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>ルートは、事前の現地視察も可能であり、生徒が日本橋地域を調査した後にお薦めする場所に設定した。</p>
【児童・生徒向け】 実践手法	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>服装は生徒らしい制服とした。教員が、言葉遣いを指導した。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>事務局員と教員が指導し、生徒同士で練習させ、言葉使いや声の大きさなどの確認をした。</p> <p>③案内するときに必要なもの準備した持ち物等)</p> <p>名札、ガイド説明資料、お客様への提示資料、荷物を入れる手提げ袋、参加者が質問した時にメモするためのペンとノート。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>専門家から、訪問先にはお礼状を作成するよう指導があった。</p> <p>質問者への回答は、分かる範囲で回答し、不明な点は、正直に答え後日調べることを伝えるようにした。</p>

【佐渡市小木中学校】

【指導者向け】 概要	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>小木中学校の特設部活動として実施している。希望者によるもので強制ではないが、毎年30人強が入部しており、特に今年度は46人で全校の半数以上という大所帯となった。新潟県で唯一の「伝統的建造物群保存地区」に指定されている宿根木地区で観光ガイドを行い、訪れた観光客に対して無料で観光ガイドを行い、宿根木や佐渡の魅力を伝えようとしている。指導体制としては教師が生徒指導面で、地域住民からは安全管理面で協力しながら活動を支援している。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>学校だよりを通して取組を紹介している。PTA会長もPTAだよりで活動を高く評価し、保護者は生徒の送迎等、活動に協力的である。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>特設の部活動として学校教育の一環で行っている。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>・宿根木集落と</p> <p>宿根木集落の住民からはさまざまな協力をいただいている。まず、受付テントを設置する場所、荷物を置く場所、生徒の休憩場所、長机や椅子、さらにガイドに参加した生徒には毎回冷たいものの差し入れ等を提供してもらっている。また、住民組織である「宿根木を愛する会」「宿根木青年会」「宿根木婦人会」の3団体から、ガイド実施日には「サポーター」として人員を交代で出してもらっている。「サポーター」は生徒のガイドに</p>
---------------	--

	<p>同行し安全面を配慮したり、観光客からの専門的な質問に生徒が答えられない場合に助けをもらったりするなどの役割を果たしている。さらに7月、その年にガイドを初めて行う生徒を対象に「現地学習会」を実施し、本番に備えるのだが、その際にお客様役をお願いし、生徒への指導をお願いしている。</p> <p>・地元観光協会と</p> <p>地元観光協会から、「アースセレブレーション」というイベント開催日に合わせ、ガイドの実施日を増やして欲しいとの要望があり、それに答える形で実施日を増やした。観光協会にはポスターやパンフレットを置かせてもらい、この活動のPRをお願いしている。</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>6月に全校生徒を対象とし、この活動についての紹介と部員募集を兼ねて、全校集会を実施している。「ガイドを通して得るものは、学校生活で体験できない貴重なものであり、観光客とのふれあいは良い思い出になる。」という顧問の教師やガイドを経験した3年生の話を聞き、「今年は自分も挑戦しよう。」といった生徒の意欲を高めることがねらいである。全校集会の後に希望調査を行い、部員を確定する。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>組織は学校の特設部活動扱いなので、顧問と部長が中心となり組織を作っている。今年度は6名の卒業生からも参加希望があったため、OB部員として参加を認めた。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>基本的には夏休みの土・日曜に実施日を設定しており、その中で自分の都合のよい日を選んで参加できるようになっている。今年度の実施日は11日間あり、半日で1回とカウントして、最低でも4回は参加するように指導している。自分の都合で参加日を選べるので、生徒は参加しやすいようである。その後、顧問が昨年までの日ごとのガイド利用者数を参考にして人数の調整を行う。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>「総合的な学習の時間」の中で宿根木に関する学習の時間を設定している。1年生は、宿根木集落について調べ、模造紙等の掲示物で発表する。2学年では宿根木を含む小木の観光地を選択し、パンフレットを作成して紹介する活動を行う。したがって全校生徒に学習の機会を与えている。部員として希望した生徒には、毎年7月中旬、ガイド原稿をもとに学習会を開き、読み合わせを行う。その後各自で原稿を読む練習しておき、このあとの「現地学習会」に備える。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>7月末、その年にガイドを初めて行う生徒を対象に「現地学習会」を実施し、本番に備える。これが模擬ガイドに相当する。講師は宿根木の住民の皆さんで、お客様役をお願いし、その場で気付いたことを指導してもらっている。講師の選定・依頼については、地元の町並み保存に尽力している「宿根木を愛する会」をお願いしている。指導の観点をまとめたプリントを準備しておき、それに沿って指導をしていただく。講師の数が足りない場合は、過去にガイドを体験している生徒にその役をやってもらっている。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>卒業生(高校生)がガイドに参加する場合は、指導時間はとれないのが実情である。事前にガイド原稿を渡し、目を通しておいてもらう程度である。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>屋内と屋外で特に違った指導や工夫はしていない。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>ガイド原稿は毎年内容を少しずつ更新している。ガイドの最中にお客様から受けた質問やその回答例をQ&Aコーナーとして赤字でガイド原稿の中に追加している。また、生徒が実際に案内してみても、不都合があった場合には適宜修正を行っている。</p>

	<p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p> <p>2年生が前述の「総合的な学習の時間」内で作成したパンフレットのうち、できればのよいものを配布しているが、印刷費の問題もあり、全員に配布することは難しいのが現状である。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>前述のとおり、住民組織の3団体から「サポーター」として人員を交代で出してもらい、学校からも職員が交代で張り付くため、少なくとも3～4名の大人が安全確保に努めている。職員は受付で生徒の指導を行い、「サポーター」はできるだけ案内する生徒についてと、役割を分担している。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>①で記述したとおり</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>案内する地域は住宅密集地であり、地域住民の目が常に届く範囲にあるので、比較的安全である。①で記述した以外は特になし。</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>服装は制服であったが、今年度からはガイド用ユニフォームとして、お揃いのロゴ入りポロシャツで実施している。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>案内終了後にお客様からアンケートを記入してもらい、自分のガイドぶりを振り返る場を設けている。至らない点があれば次回から気を付けさせている。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>説明用の写真パネル5枚(A3サイズ)、ガイド原稿(必要な生徒のみ)</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>生徒と撮った記念写真を送付してくれたお客様には、必ず令状を書かせ、点検後送付させている。はがきは学校から支給している。</p>

【新潟市ビープロデュース】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>新潟市立宮浦中学校と音読集団「ECHIGO」がガイド養成に今年度開始。協力者として新潟県、新潟市、北陸建設弘済会、新潟国道事務所など行政・企業など多くの協力者を得てスタートした。申請事業は宮浦中学生のガイドを行っている生徒が佐渡汽船内でガイドの発表を行い、佐渡にわたってから、先輩格の小木中が行っている宿根木ガイドの視察見学を実施した。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>夏休み中のガイド学習として、保護者承諾書を作成し、宮浦中学校より配布</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p><連携の有無></p> <p>総合学習の中に組み込まれていることから、平日頃より学校との連携はあり、今回の8月1日の佐渡汽船での発表および、小木中の宿根木ガイド研修についても綿密な打ち合わせを実施した。</p> <p><連携方法></p> <p>7月前半・・・メールおよび、電話にての連絡。</p> <p>7月後半・・・生徒のガイド練習時にあわせ、打ち合わせを実施</p> <p>宮浦中学・・・小木中学校との連絡、生徒への伝達事項および、生徒保護者への通達を担当</p> <p>音読集団「ECHIGO」・・・佐渡汽船でのイベント、佐渡島内での研修スケジュール、各種チケット手配、引率な</p>
--------------------------	---

	<p>どを担当</p> <p>双方協力・・・佐渡汽船内での発表に当たっての、原稿・パワーポイント資料などの作成および、リハーサル。</p> <p>そして生徒引率に教諭1名、スタッフ1名参加</p> <p><学校の役割></p> <p>上記記載のとおり、生徒・保護者など学校内での伝達および、学校間での連絡を担当</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>新潟市内を把握するにあたり、新潟シティガイドさんによる案内および指導依頼。佐渡汽船内での発表に関しては、佐渡汽船航路活性化協議会主催のイベントに招待参加となることから、昼食の提供および、往路に関する乗船は無料というご厚意を受けた。</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>上記記載のとおり、中学生ガイドの先輩である小木中学の生徒の見学研修をかねていることから、宿根木ガイドを披露して下さるなど、また当日担当の先生方よりボランティアガイドとしての形成・テキスト作成方法など教えていただくなど、ご協力いただいた。宮浦中学校より、事前に挨拶の連絡をいれてもらうなど、学校間での連絡は行ってもらった。また、佐渡島内見学研修に当たっては、佐渡市観光協会さんより見学コースのご提案、ジャンボタクシーの手配など、多大なるご協力をいただいた。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方針について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>ガイド学習をおこなっている生徒の中より、希望する生徒を募集。各種部活や大会と重なる時期でもあり、多数の参加が厳しいことから6名程度に選抜</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>あくまでも中学校の総合学習として実施。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>総合学習の中の一環として、ガイド学習が組み込まれていることから、通常のガイド学習に関する学習は毎週水曜日におこなってきたが、本事業に関しては夏休み期間中であることから、「学校担当教諭と部活動顧問との連絡→生徒たちへの連絡→生徒間でのやり取り」という流れの中で、当団体と学校担当教諭と連絡を取り合い、リハーサルスケジュールを決定。</p> <p>船内での発表に関しては、航路活性化事業とのスケジュールおよび、小木中学校のボランティアガイド開催スケジュールとの調整の上決定。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>宮浦中学校のガイド学習に関しては、新潟シティガイドさんより、数回にわたり指導をうけており、各自新潟に関する知識は豊富に持ち合わせている。しかし、中学生としてのガイドという点から、先輩格の小木中学の宿根木ガイドを見学することで、学習効果をより一層高めることを目的とした。また、佐渡汽船内での発表に関しては、新潟市内をガイド学習した際に作成したパワーポイントをあらたに、佐渡汽船での発表用に組み替えたりするなど、各自の発表内容とあわせ担当教諭とともに作成した。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>ガイドの話し方に関しては、2回のリハーサルを通して、当団体のプロのアナウンサーなどが立会い、佐渡汽船乗船客の嗜好やイベント内の雰囲気や伝え、それに合わせた内容、声の大きさ、マイクの使用法、ステージの使い方などを指導した。あわせて、当日のリハーサルではステージ上にてマイクの声の乗せ方、ステージでの動きなどを指示。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>全員が中学2年生のため、大きな声で、はっきりと話すなどを指導したが、同一学年のため年齢別指導としては、特別なものはなし。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p>

	<p>佐渡汽船 船内施設でのガイド発表のため、上記⑤記載のとおり、マイクの使用・ステージ上での動きなどを、実際にイベントを企画運営するスタッフより指導。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>パワーポイントにて資料を各自作成。研修の際に、自分たちで撮影した画像をふんだんに利用。また、シティガイド関克人さんが作成してくれた、ガイドテキストを参照。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p> <p>朱鷺メッセ 31 階の案内チラシを配布</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>佐渡汽船内での発表に関しては、当日 天地人の与六役の加藤清史郎くんも同じイベントに参加していたことから、ステージと客席との間にはロープが張られていたため、通常よりも安全確保はできていたものの、同行スタッフ・引率教諭が安全性に関しては留意。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法)</p> <p>当日、トラブルは一切なくお客様も、大変興味深く聞いてくださり、発表生徒一人一人発表が終わるたびに、大きな拍手をいただいた。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>導線の確保など、発表、視察に集中できるようにチェックした。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>船の中、視察の観光名所の中での中学生らしい行動と観光客への配慮を指導。また、当初佐渡島内の移動を、予算の都合上レンタカー利用だったが、昨今の校外学習での交通事故多発を考慮し、プロのドライバー(ジャンボタクシー)に依頼。</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>学生服の着用と、中学生らしいはきはきした態度をお願いした。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>佐渡汽船内での発表に対しては、2回の実践的な練習を実施。ゆっくりと丁寧に話すことを指導した。また、発表者が交代する際の移動を素早く行うこと、スクリーンを利用したガイド発表だったため、発表内容にあわせ、スクリーン上の画面を指差すなど、動きに関する指導。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>パノラマガイドの腕章、DCのカンパッチなど</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>今回の研修に関しては、佐渡汽船に乗船された観光客へのガイド発表だったため、礼状の送付先の確認もできないことと、多数のため、礼状発送は行わなかったが、他の研修ではそれぞれお世話になった人たちにお礼状を出して、喜ばれている。船内では、発表途中にクイズをおりこむなど、お客様が参加できるような形にした。また、発表中もお客さまのほうへ顔を向けるなどの指導を行った。</p>

【原村】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>既存の子ども教室の組織が、新たな募集もする中で行ったが、組織外からの子どもたちの応募は無かった。しかし、子どもたちを支援するスタッフはこの機会に増やすことができた。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>学校との連携として、募集チラシの配布のみ行った。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>行政主催で実施した大会や移住対象者への現地見学会とタイアップし、参加者へ原村の「いいとこ」を案内した。住んでよし、訪れてよい観光地として、子どもたちから暮らしに密着した案内を行い、大変好評だった。既にある観光資源でなく、子どもたちが発見することから始めた。子どもたちが紹介したい原村の「いいとこ」は観光施設や住民組織と連携が必要なものが無かったため、今回は連携していない。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>既存の組織としての当方が、今回のガイド事業について小学校へ全児童宛に募集ちらしを配布し、募集した。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>ガイドのための新たな組織は作っていない。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>あらかじめ開催が予定されている行事や、確実に原村を訪れる方がいる日程を選んで、学校行事を避け、スタッフと講師の都合を調整し、活動日とした。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>子どもたちのへ指導は全三回。第1回目のワークショップ9月22日(いいとこ探しとして長野県費で実施)とガイド当日10月17日は、本事業を紹介いただいた山田桂一郎氏にお願いしました。10月4日は山田桂一郎氏のアドバイスを組織のスタッフが得て行いました。スタッフの勉強会は1回。8月6日に実施したスタッフの打合せでは山田桂一郎氏をお願いし、前回の打合せ結果や、事業の運び方に対してアドバイスをいただいた。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>相手に伝わる伝え方として、大きな声ではっきり話すことや、伝え方の工夫で以下に楽しく伝えられるかと言ったポイントを10月4日、17日の二回に渡って指導した。講師千人方法は④に同じ。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>対象は小学生でしたが、兄弟と一緒にその場にいた幼児も一緒に行っていた。参加者を学年が散らばるように班毎に分けたことにより、スタッフだけでなく、高学年も低学年に気を配りながら実施できた。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>各自が伝えたい原村の宝「いいとこ」を案内することがテーマだったため、それぞれが絵や写真に案内文を添えたシートを作り案内した。合わせて、自分たちがこれまで学習してきたことや、これが特徴といったことをクイズにして出題することでより興味を引く案内ができた。いずれも子どもたち自らの発想や発言を尊重したことで、より生き活きとした案内に繋がった。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>ガイド用の資料は、皆で話し合う中で、子どもたちがシナリオを作り対応した。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p> <p>各自が作ったシートをポストカードにしたものを、村で製作した観光マップとともに渡した。最終的にマップとシートを綴じ込み冊子にして配布できるようにした。(冊子については長野県費にて後日作成)</p>

<p>【指導者向け】</p> <p>注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>組織外部からの参加者が無かったため、組織で通年掛けているボランティア保険で対応した。合わせてスタッフが危険防止に努めるよう見守った。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>活動ごとに各班ごとスタッフが入り、決して前に出ず、頼ってきたときにすぐフォローできる距離で見守った。あくまでも子どもの自主性を尊重し、子どもたち自身で行ったことを実感できるようにした。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>室内中心の活動が多かったことから、特段の配慮は必要なかった。</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>言葉遣いや話し方について、聞いていただく方の立場に立って伝えることが大切とどうした。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>班ごとにそれぞれの役割を話し合い、ガイドの練習を行った。スタッフだけでなく他の班のメンバーが聞き手となりお互いにアドバイスし合った。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>子どもたちが自分でメモしたシナリオ。「いいところ」を案内したシート。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>普段から伝えている、相手手の立場を考えながら実施することを丁寧に対応するよう指導した。</p>

【多治見】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>多治見観光ボランティアガイド、ボーイスカウト多治見協議会の2団体で組織構成</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>ボーイスカウト保護者総会時に事業説明</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>連携なし</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>多治見市産業観光課と連携</p> <p>多治見市観光協会協賛による話し方講座の開催</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等)</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>ボーイスカウト多治見協議会側のチラシ製作と参加呼びかけ</p> <p>ボーイスカウト保護者総会時に事業説明と参加報告</p> <p>通常活動へ組み入れ</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>ガイド地区を3つに分け ボランティアガイドさん側、ボーイスカウト側もそれぞれ3つの担当班に分かれて資料作り、現地調査、などを行なう。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>ボーイスカウトの活動日(班活動日)に合わせてスケジュールを組む。</p>

	<p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 多治見市教育委員会などが作成したジュニア版多治見の歴史などを中心に 観光ボランティアガイドさんから活きた知識を学ぶ。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等) 10月31日 東海ラジオアナウンサー深谷里奈氏による話し方講座開催</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 中学生が中心となるので 身近な歴史、産業に関心を深め、自発的により広い情報を 求めるよう指導する。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等) 多治見市内の観光拠点を3つに分けて 地域に密着したガイド(なるべく住居と近い所)を行なう。 2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) 市が作成したジュニア版市史やボランティアガイドさんがすでに使用している資料を基に地域限定のネタを 入れ込んだ資料を作る。(現地での聞き込みほか)</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) 今のところ渡す資料は製作していません</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) 事前調査をし、ガイド時の場所の確保(ガイド施設への事前連絡など)、緊急時の連絡場所、避難場所の確 認をする。すでに怪我などの対処法はボーイスカウト活動で取り組んでいるので今回の事業について特に指 示はしていません。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法) はじめに必ず人数の確認をすること(移動したら必ずチェック)途中で別行動を取りたいといわれたときなど 集合時間場所を徹底する。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制) 子どもだけのガイドは想定していません。必ず 同じ班に大人が付き添います。ただし最低限のフォローの み(安全確保、誤った情報伝達時のみ)</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく 安全管理) 3つに分けたどの地域も道路を歩き(移動)ながらガイドをする事になる場面が考えられるので説明は決められ た箇所で行なうこと。</p>
<p>【児童・生徒向 け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等) 制服着用で行なう。(制服着用中はボーイスカウト保険が有効なため)無理に標準語で話す必要は無く、方 言こそ地元ならではのガイド! 大きな声で、隅から隅まで顔を見ながらゆっくりと話す。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 ボーイスカウト カブ隊、ビーバー隊に対し模擬ガイドを行なう予定なので 小さい子ども(年長から小5)にも理 解できる内容と話に注目させる工夫をする。(持ちネタを確保しておく!)説明に紙ばかりみていると様子が分 らないのでできる限り頭に入れておく。細かい数字(正確な情報伝達)などは間違いのないよう。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等) 自分達で作成した資料集。ガイドブック。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を送送するなど工夫点) 万が一質問された事が分からないことだったら、正直に知らないことを伝える。(後日わかったら連絡してあげる こともよい)どちらからいらしたか、どうしてここへ来て下さったか、きていただいてそれからの感想を セットに必ず聞いておく。</p>

【南知多町】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 篠島観光協会が実施主体となり、講師の選定・依頼、事業協力者、学校への協力依頼などを行った。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等) 事業参加者の募集</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等) 篠島ボランティアガイド(おかみ会)の協力を得て、ガイドの案内やガイドの練習を行った。 篠島開発総合センターの無料借用許可を受けて講座を行った。</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等) 南知多観光ボランティアガイドに依頼し、南知多町内の観光施設のガイドを受けた。</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法) 篠島小学校、篠島中学校へ事業実施の説明に行き学校を通じて事業参加者を募った。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) 事前に学校と協議して、学校行事と重ならない日時を選定した。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等) 小中学生を同時に募集したので区分けをしなかった。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等) 町内施設の視察や観光ボランティアガイドによる案内、屋内での研修をもとに研修を進めた。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等) ガイド用の資料を事前に作成し、資料や写真などをもとに研修を進めた。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) ボランティア活動保険に加入し、ガイドを行うときは大人のガイドも付き添った。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法)</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制) 必ず大人のガイド同伴でガイドした。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理) 盛夏で暑さ対策や水分補給に配慮した。半島側での研修では交通安全に努めた。</p>
<p>【児童・生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等) 初回到案内の仕方、言葉遣い、マナーなどについて説明した。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 現地へ行き、ガイドを受けたり、ガイドを練習した。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等) 研修で使用したテキスト(自分でメモ書きをしたもの)</p>

【石川県夕日寺】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>本事業の目的を明確にして、事業の概要について、事前に関係者と共有することが、とても重要です。</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>当団体が主体となり、外部からの指導者を招へいし、本事業実施運営のチーム(組織)を立ち上げました。指導スタッフには、①安全かつ参加児童の主體的な関わりを促すことを重点におき、②安全管理能力のある、③かつ児童自らが考え行動することをサポートできる指導者としました。具体的には、石川県環境部が実施した自然体験活動指導者講座を修了した指導者をお願いしました。運営スタッフとして、スケジュール管理、会計管理、安全管理、コンセプト(目的)管理、スタッフ管理、広報・お問い合わせ窓口担当者をおき、全体がスムーズに運営されるように総括責任者をおきました。その役割は全体調整、関係機関との調整を行いました。活動当日は、3班体制で一班に児童8名、グループリーダー、サブリーダーの指導者2名がついて、活動の支援、安全管理につとめることとしました。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>事前説明を文書で行いました。また保護者が活動にボランティア参加しやすい機会を作り、協力を求めました。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>事前に事業説明、協力依頼を行いました。連携としては、会場の利用、備品の貸し出し、参加児童への連絡、参加者集めの広報への協力、事業に対してのフィードバック(評価)を頂きました。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>今回、学校、町会との連携については事業への協力、参加を通じ一定の成果はあったが観光面での連携は極めて難しい。</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>利用する施設は夕日寺健民自然園。施設職員や管理者である石川県環境部との連携は十分図られました。施設の利用、活動実施結果を効果的に公表することで、今後の施設の利用促進となると考えられます。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>直接募集とする。金沢市立夕日寺小学校の協力のもと、全児童へ参加者募集チラシを作成し配布しました。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>ガイド要員は当団体において「夕日寺生きものキッズレンジャー」会員として登録し会員証を発行しました。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>学校行事等の調整は直接に、小学校教頭先生と打ち合わせをして決定しました。日程的には土曜日の一日としました。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>ガイドには、これまでの活動に参加してきた児童が複数名いることから、彼らがリーダーシップをとることで、児童の話合いが活発に行われました。具体的には、活動の前半で自らが自然体験活動を体験する機会を設け、後半で、児童自らが企画することを促していくこととしました。必要な知識は図書室、インターネットを利用し各自が学ぶ機会をつくるように促し、指導者が必要なアドバイスを行いました。全体テーマは里山。里山について詳しい知識を持った講師に1回に15分程度の集中講義を行いました。全4回実施。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>里山での自然体験活動(全4回実施)から、説明や話し方を学びました。自然ガイドでも自然を解説するスタイルではなく、参加者が直接体験から感じることに重点をおきました。インタープリターについて、その求められる役割について説明を行いました。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p>

	<p>今回は、小学校6年生を対象としました。資料にはルビをつけ、難しい表現をさけるように工夫を行いました。体験から学ぶ体験学習の手法で行いました。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>主に屋外での自然体験活動のガイドとなるため、まずは自身の安全に気をつけるよう指導しました。冬場の活動となるので天候に左右されることが必須なので、荒天時のプログラムを準備するなどの、下準備をしっかりと行うことも指導しました。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>6年生が利用できる資料としました。既にある資料を有効に利用し、地図などは児童が解りやすいものを用意しました。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p> <p>紙ベースの資料の配付は特になし。木や枝などの自然物を資料として提示しました。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>当日プログラム実施時には、全体を見渡す役割＝総括担当者が全体を把握する。</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>現地地下見は最低2回、当日も下見を行いました。その上で、ガイドする児童へ自分の身は自分で守ることを確認させました。緊急時の対応マニュアルを作成し、緊急時はその対応に努めるよう指導スタッフが共有しました。また、保護者や関係機関への緊急連絡網を作成し関係者に配布しました。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法)</p> <p>お客様からの問い合わせ窓口を設置し担当者をおきました。仮にトラブルがあった場合は、総括へ連絡し対応を協議、しっかりとした対応に努めるよう確認しました。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>失敗も成長の糧ととらえ、児童が自ら企画したことを自らの手で実施させることとしました。よって、支援はするがとくにフォローはしないことに。しかし、失敗したと落ち込んでいる児童に対しては、良かった点などを指摘し、今後どうしたら良いかを「気づくこと」のサポートに努めました。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類の、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>会場となる施設は金沢市中心部から一番近い里山で金沢市北東部に位置する。自然園という性質上、管理された都市型公園ではない。その為、危険箇所を把握し、対応策を講じました。危険箇所での活動はしない等の想定される危険には万全な準備を行いました。</p>
<p>【児童・生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>お客様と接するときの基本は「おもてなし」の気持ちを忘れないことを第一とします。まずは挨拶から。「こんにちは」「おはようございます」から始まり、「今日はありがとうございました」という感謝の気持ちを伝えてください。姿勢や態度は礼儀正しく。その気持ちをもつことが自然に態度や言葉に表れるものです。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>案内の練習は実際にならず人の前でやってみましょう。友だちや家族に協力してもらいましょう。「こうすればもっと良くなる」という点をひとつでも見つけ、今度は改善してみましょう。もっと良くなります。上手にできるようになることは、何回もやってみることです。また、人と場所を変えて何回もやってみましょう。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>自分が人前で話す時に必要だと思うものを事前に準備しておきましょう。写真や実際のものなど、あるとより具体的に説明できると思われるものとなります。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>参加してくれた方は「お客様」です。一緒に楽しい時間を過ごす「人」と、「一期一会」(※一生に一度だけの機会、誠意を尽くすの意味)の気持ちを忘れないで、接していきましょう。</p>

【湖北町】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 本事業の推進校及び推進委員、事務局員は次のとおりである。 ・推進校:小谷小学校, 速水小学校, 朝日小学校, 湖北中学校 ・推進委員:町教委教育長, 湖北野鳥センター専門員, 各校代表者, 事務局(町教委参事)</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等) 各校ともに「町に学び町を生かす子どもの育成事業」の一環として「総合的な学習の時間」において取り組むことを全保護者に年度当初に説明をしている。具体的な子どもの活動に関してはその都度学校が保護者に事前に知らせ連絡を取り合った。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等) 本事業に関しては、各学校の教育活動の中で教育課程に位置づけて取り組んでいる。各学校の窓口担当者 と事務局員とが密に連絡を取り合い推進している。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等) 「湖北野鳥センター」, 「小谷城戦国歴史資料館」の各施設には、子どもたちのガイド研修の指導を依頼し、ガイド活動当日の受け入れ体制など連携をはかった。また、小谷城の歴史学習に関しては、小谷小学校の学校支援地域本部事業の学習ボランティア員の指導を得た。</p> <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等) ・特にありません。</p>								
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた, ②ガイド組織の作りかた</p> <table border="1" data-bbox="355 1171 1425 1704"> <tr> <td data-bbox="355 1171 531 1328">朝日小学校</td> <td data-bbox="531 1171 1425 1328">活動児童:5, 6年生「愛鳥委員会」11名 委員会活動の一つとして児童の希望をもとに組織した。 指 導 者:委員会指導者, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:委員会活動の時間等及び休日 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 1328 531 1451">小谷小学校</td> <td data-bbox="531 1328 1425 1451">活動児童:6年生 20名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 小谷城戦国歴史資料館(湖北町郡上)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 1451 531 1574">速水小学校</td> <td data-bbox="531 1451 1425 1574">活動児童:6年生 37名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 体育館</td> </tr> <tr> <td data-bbox="355 1574 531 1704">湖北中学校</td> <td data-bbox="531 1574 1425 1704">活動児童:3年生6名 指 導 者:3年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間「地域貢献活動」 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)</td> </tr> </table> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等) ・朝日小学校の「愛鳥委員会」……月1時間、年間 12 時間の委員会活動の時間を中心として、また休み時間や土曜日・日曜日については湖北野鳥センターと調整し時間を設定した。 ・小谷小学校, 速水小学校, 湖北中学校……各校の「総合的な学習の時間」の年間指導計画に基づいて授業時間として設定した。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等) <u>朝日小学校「愛鳥活動」</u> ・ガイド講習会:2時間 野鳥センター職員による指導(1)校内教職員による指導(1) ・ガイド実施に向けた練習:6回 愛鳥委員会の指導者による指導 ・ガイドの実施:来館者へのガイド活動3回, 計4時間30分</p>	朝日小学校	活動児童:5, 6年生「愛鳥委員会」11名 委員会活動の一つとして児童の希望をもとに組織した。 指 導 者:委員会指導者, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:委員会活動の時間等及び休日 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)	小谷小学校	活動児童:6年生 20名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 小谷城戦国歴史資料館(湖北町郡上)	速水小学校	活動児童:6年生 37名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 体育館	湖北中学校	活動児童:3年生6名 指 導 者:3年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間「地域貢献活動」 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)
朝日小学校	活動児童:5, 6年生「愛鳥委員会」11名 委員会活動の一つとして児童の希望をもとに組織した。 指 導 者:委員会指導者, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:委員会活動の時間等及び休日 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)								
小谷小学校	活動児童:6年生 20名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 小谷城戦国歴史資料館(湖北町郡上)								
速水小学校	活動児童:6年生 37名全員 指 導 者:6年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間 活動場所:教室, 体育館								
湖北中学校	活動児童:3年生6名 指 導 者:3年生担任, 教務主任(推進委員会委員) 活動時間:総合的な学習の時間「地域貢献活動」 活動場所:教室, 湖北野鳥センター(湖北町今西/びわ湖岸)								

	<p>・野鳥観察や学習:学年の総合的な学習の時間や児童の自主的な時間による <u>小谷小学校</u>「小谷城と浅井氏三代の歴史」</p> <p>・小谷城の歴史, 浅井氏に関する調べ学習(8時間), その他児童自らの自主的な学習</p> <p>・学習ボランティア員からの指導(2時間)</p> <p>・資料づくり5時間, その他休み時間や家での児童の自主的な時間</p> <p>・歴史資料館でのボランティア活動 2時間30分</p> <p><u>速水小学校</u>「湖北町歴史遺産」</p> <p>・歴史遺産を巡る活動 4回計8時間</p> <p>・調べ学習とまとめ, 及び学習成果を発信する活動 計 17 時間</p> <p><u>湖北中学校</u>「地域貢献活動」(その内, 野鳥センターガイド班の活動)</p> <p>・事前学習2時間, 実際のボランティア活動6時間, 反省と次への計画作成5時間</p> <p>※新型インフルエンザ感染による休業措置で2回(4時間)活動ができなかった。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>・朝日小:湖北野鳥センター職員によるガイド講習会(1), 校内教職員による指導(1)</p> <p>・小谷小:学校支援・学習ボランティア員からの指導(2)</p> <p>その他, 学校職員による模擬ガイド事前指導など。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>朝日小:愛鳥委員会の6年生は昨年度のガイド経験をした児童がおり、5年生にとってよい手本となっている。経験者が初心者に教える姿が見られた。</p> <p>どの小学校ともに校内で「話す力」を高める指導に力を入れており、国語科などを中心に①原稿を見ないで、②自分の言葉ではっきりと伝えるということを目指に取り組んでいる。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>どの学校も、施設内でのボランティアガイドである。朝日小学校と湖北中学校は、野外のびわ湖畔で案内も考えられるが、湖北野鳥センターを訪れる来館者を対象とした。また小谷小学校と速水小学校は、自分たちが学習で積み上げてきた成果を発表という形で一般の人々に聞いてもらい、質問を受ける形式をとった。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料</p> <p>朝日小学校の愛鳥委員会は、ガイドする児童が野鳥についてのパネル(A4 版)を持ち説明をした。速水小学校は児童の手書きでガイドブックを作成した。小谷小学校は発表用として模造紙や画用紙に資料を作成した。</p> <p>②お客様に渡す資料</p> <p>朝日小学校の愛鳥委員会は湖北のびわ湖でよく見られる野鳥についての資料をパソコンで作り野鳥センター内において自由にとってもらえるようにした。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保</p> <p>校外でのガイド活動時には、児童生徒に行動範囲や安全な行動様式について事前指導を行った。また「緊急連絡カード」を引率者が持ち、緊急の場合にはすぐに医療機関並びに保護者と連絡を取るなど迅速な処置がとれるようにした。</p> <p>②お客様とのトラブル防止</p> <p>これまでにトラブルはない。ガイドを受ける側の来館者の方たちが子どもたちに合わせて親身になって聞いてくださった。</p> <p>③大人のフォロー</p> <p>児童生徒のガイド中には指導者がそばに付いていて、子どもたちの足りない部分を補った。また積極的に動けず躊躇している児童生徒には、意欲付けの声かけをし相手(来館者)をつなぐ事も行った。野鳥センター・歴史資料館ともに館内の職員がいつでも支援できる体制もとっていただいた。</p>

	<p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>各施設までの移動は町バスなどの公用車で教育委員会や学校職員が送迎した。</p>
<p>【児童・生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー 服装は、各学校の標準服を原則とした。当然のことながら相手に失礼のないよう丁寧な言葉遣いをするよう事前学習で指導を行った。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 相手側(来館者)の知りたい事柄などを的確に把握しながら臨機応変にガイドする事が大切であるが、子どもたちにはそこまで望めない。学んだ知識だけでなく現地調査をした時の体験など見たり感じたりした体験を盛り込みながら自分の言葉で説明するように指導した。</p> <p>③案内するときに必要なもの 名札、説明パネル、筆記用具</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方 初めのあいさつと自己紹介、終わりのお礼は忘れないよう繰り返し指導した。 質問されて返答に困ったときはあとから調べて答えさせていただくことを告げるなど。</p>

【鳥羽(有)オズ】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツアーを企画実施する(有)オズスタッフがサポートのもと菅島小学校総合学習の一環として、学校の担任の先生などと連携をしながら、子ども達が自分の地域を知る・好きになる・伝えるというプロセスを体験した。また、島を訪れた人を喜ばせたい、島を好きになってほしいという気持ちも芽生え、楽しませる工夫や、おもてなしといった、自発的なアクションにつなげた。 <p>②保護者に対する説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校より手紙にて説明を行い画像使用の承諾を得た。 ・しまっこガイドで体験したことを自宅に戻ってから楽しそうに話してくれたという保護者の声も多数あった。 <p>③学校との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各担任の先生とスタッフが連携を図り、打合せなどを行い、学校で子ども達の日頃の調査のサポートやモチベーションの維持などを行った。 <p>④地域や観光施設との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が島をガイド中に、地元住民の方々に島の事を教えていただく機会があった。 <p>⑤その他関連団体との連携(域外の団体等との連携の有無、連携方法、役割等)</p>
<p>【指導者向け】 指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅島小学校の総合学習の延長として。 <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅島小学校の教育計画の中に組み込み、学校行事などに影響が出ないように日程調整を行った結果、9月、3月にツアーを実施する事となった。 <p>④ガイドの内容を学ぶ</p> <p>スタッフが菅島小学校総合学習の時間に以下の授業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介、5年生ガイド見学、ガイドとしての心構えなど4回 <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ</p>

	<p>・コース決定、事前練習、フィールド練習など 4 回</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法</p> <p>・学年に応じて、理解力に差があるため、理解しやすい言葉を選び自主性を損なわないように指導する。低学年には、発表したことを黒板に書きとめて、理解を深めるなどの工夫を行った。</p> <p>⑦タイプ別指導方法</p> <p>・屋外の場合は、風や汽笛などの影響がある為、立ち居地や話すタイミングなどを考えながら話す指導などを行った。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料</p> <p>・全員がポイントごとのシナリオを書き 3 択クイズの時には、選択肢を画用紙などに記入しお客様に提示をした。</p> <p>・お客様に伝わりにくい場面では、写真などを用意し、見せることで、伝える工夫をした。</p> <p>②お客様に渡す資料</p> <p>・クイズの正解者には、手作りの景品や自分が大切にしている物を子ども達が自発的に用意して渡した。</p> <p>・菅島の特産品である海苔を養殖している業者に子ども達が交渉を行い、海苔養殖についての解説後、手作りのラッピングをした黒海苔を渡した。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保</p> <p>・活動する際には、必ず先生とスタッフが最低 1 人ずつ付き安全管理を行った。</p> <p>・フィールド調査の時などに危険箇所を子ども達と一緒にチェックする事で、子ども達自身の危険に対する意識を高めた。</p> <p>②お客様とのトラブル防止</p> <p>・子ども達の好きな地元を伝えたいという気持ちを最大限に活かす為に、募集、集合時などに、スタッフが効果的にお客様に告知する事で、トラブルを予防した。</p> <p>③大人のフォロー</p> <p>・時間管理は基本的には子ども達に任せるが、管理が難しくなった場合には付き添いのスタッフがフォローするなどの対応を行った。</p> <p>・知識面において子ども達が、正確に答えられない場合などは、スタッフがさりげなくフォローした。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点</p> <p>・菅島という海に囲まれた離島で生活する子ども達は、ガイドする際にも普段の遊び場と言う意識から思わぬ事故に発展する事を予防するために、子ども達に対する危機管理の意識を高めるようにスタッフが意識付けを行った。</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー</p> <p>・ガイドとしての意識を高めることと、連帯感を持つ為におそろいの T シャツを作った。</p> <p>・おもてなしの心をもって、お客様と接するように心がけた。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫</p> <p>・スタッフや他の大人で模擬ツアーを行い、説明のしかた、声の大きさなど改善を行った。</p> <p>③案内するときに必要なもの</p> <p>・シナリオ、クイズ用画用紙、クイズ用景品、記念撮影用カメラ、菅島小唄用テープ、資料用写真、タオル、水筒、時計</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方</p> <p>・解説ポイント以外でも、お客様に心配りをし、緊張している人には、子ども達から声をかけるなどの配慮を行った。</p> <p>・最後に全員が集まって、インタビュー形式でお客様に感想を言ってもらった。</p>

【加西市】

<p>【指導者向け】</p> <p>概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>北条小学校6年生が「ガイド隊」を結成し、小学校区内にある歴史的な観光スポットを土・日を中心に案内しています。「ガイド隊」の指導はボランティアガイド(大人)が中心となり、小学校や保護者、まちづくり協議会(住民組織)の協力を受けながら、実施しています。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等)</p> <p>保護者に対する説明会は特に実施していません。学校側でボランティアガイドの概要を生徒に説明の上、自宅に戻り児童から親に「ガイド隊」に入るか否かを相談しています。ガイドデビューする前に保護者を含めて、日頃の成果を発表する会を実施中。</p> <p>③学校との連携(連携の有無、連携方法、学校の役割等)</p> <p>学校との連携は有。児童のガイド依頼はボランティアガイド(大人)や観光案内所が学校に連絡を行います。指導等については、全てボランティアガイドが行います。学校側は、主に希望者を募るのみ。</p> <p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>ボランティアガイドが学校との連絡や、指導を行う。また、小学校がある地区の「まちづくり協議会(住民組織)」も一緒になって、校外学習等に取組み、地域社会全体で児童のガイド育成に励んでいます。</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>学校側が直接募集を行います。観光まちづくり協会では特に募集は行いません。また、小学校がある地区内の「まちづくり協議会」と一緒になって、年に数回程度、地域の歴史をするための地域学習を実施中。</p> <p>②ガイド組織の作りかた(ガイドクラブなど組織化の有無、方法等)</p> <p>「ガイドクラブ」は特にありません。5年生の段階で希望者を募り、希望者のみ週末を利用して、ボランティアガイドから指導を受ける方法。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>活動は土曜日・日曜日を中心に実施(但し、学校行事を除く)。あくまで学校行事を優先して、ガイド活動は児童の自主性としております。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>学校の授業では、ガイドに関する勉強は行いません。児童が行うガイドの講習は、ボランティアガイドが、夏休みや土・日の休日を利用して講師として案内方法や言葉遣いなどの指導を行います。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>新たにガイド隊に入る児童は、上級生から実際にガイドを受けて、どのような話し方をしているのか等を学ぶとともに、学校の先生や講師役のボランティアガイドから話し方の技術を教わります。また、先生や保護者を対象に、模擬ガイドも実施しています。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>小学生のみのガイド。男子と女子で分け、3人~4人を1つの班として指導を行います。班によって、ガイド講習の進捗状況が異なりますので、他班のバランスを見ながらボランティアガイドが調整します。</p> <p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>屋外案内型での指導(ガイド案内書のテキストを参考にしながらの実践形式)。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>資料有。ガイド案内書のテキストで、説明する順番ごとに番号を付けたり、説明の上で重要となるポイントには、マークを入れるなど工夫を凝らしています。また、通り一辺倒の案内にならないように、お客様との会話のコツなどを案内書に明記しています。</p>

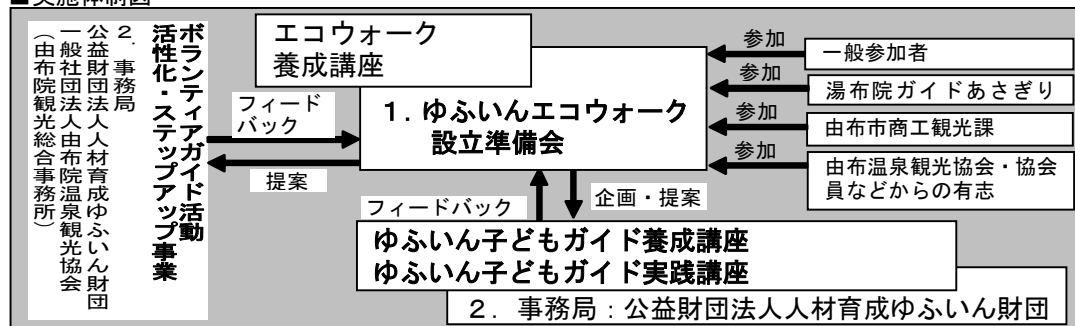
	②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等) 資料有り。生徒がガイドをする五百羅漢(羅漢寺)の案内パンフレット。
【指導者向け】 注意事項	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法) 生徒がガイドをする際は、大人(先生・ボランティアガイド・)が必ず一人付き添う体制をとっています。また、ガイド場所である五百羅漢(羅漢寺)は学校の横に位置しており、何かあればスピーディーに対応が可能。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法) 特にありません。もし、あった場合は大人が待機をしていますので、すぐに対応できるようにしています。また、トラブルがないように、ガイドを初める前にお客様に児童がガイドをする旨を伝えていきます。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制) ボランティアガイドがフォローしておりますが、いない場合は、住職等がフォロー。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理) 上記3・①でも触れたように、生徒が主にガイドをする場所(五百羅漢・羅漢寺)は、小学校の横に位置しており、立地条件からも安全管理はし易い場所にあります。また、観光施設がお寺ということもあり、住職などが安全管理を行うこともあります。児童がガイドをする上で、立地条件は安全管理の面でも非常に重要であると考えます。</p>
【児童・ 生徒向け】 実践手法	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー (服装、言葉遣い等) 児童にガイド講習を行うボランティアガイドや先生がお客様との対応や話し方の方法について指導しています。また、ガイドをする際には、「ガイド隊」のユニフォームを着用しています。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 次期ガイド隊は、上級生のガイドの仕方を学ぶところからスタートします。どのような口調でガイドをしているのか、どのような練習方法をしたのか等、上級生から学んでいます。それに併せて、休日を中心としてボランティアガイドから案内のコツを学びます。</p> <p>③案内するときに必要なもの (準備した持ち物等) 特になし。五百羅漢(羅漢寺)のパンフレットで案内します。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方 (質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点) お客様との最初に会った時で第一印象が決まるので、挨拶の重要性を説明します。また、ガイドをする際はお客様の表情を見ながらガイドをするように指導しています。最後は、お客様を見送りし、終了。ガイド案内書にも、スムーズに案内できるよう説明マニュアルを明記しています。</p>

【湯布院】

【指導者向け】 概要	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等</p> <p>【実施体制】</p> <p>1. ゆふいんエコウォーク設立準備会 現在活動的になりつつあるボランティアガイドやエコウォークという新たなガイド概念を持ってガイドツアープログラムを試案する団体・個人が緩やかに参加し、ゆふいんエコウォークの本格実施を検討している組織。今年度5月から月1回ほど集まり、会議を開催。9月16日、17日にエコウォーク・ガイド技術アップ勉強会を開催し、講師として山田桂一郎氏と横山昌太郎氏を招き、ガイド技術力の向上や今後のエコウォーク本格実施について検討。「ゆふいん子どもガイド養成講座・実践講座」の実施主体となっている。</p> <p>2.事務局：公益財団法人人材育成ゆふいん財団、一般社団法人由布院温泉観光協会</p>
---------------	--

事務局である公益財団法人人材育成ゆふいん財団、一般社団法人由布院温泉観光協会では事業実施に必要な準備作業や各種事務的な処理を行った。また、ゆふいんエコウォーク設立準備会の企画・提案事項をフィードバックして企画内容の積み上げ、充実を行った。

■実施体制図



【組織構成】

1. ゆふいんエコウォーク設立準備会

一般参加者8名、湯布院ガイドあさぎり会3名、由布市商工観光課2名、由布院温泉観光協会・協会員など8名。

2. 事務局

ゆふいん子どもガイド養成講座、実践講座の事務局は公益財団法人人材育成ゆふいん財団が主に担当、ボランティアガイド活動活性化・ステップアップ事業の事務局は公益財団法人人材育成ゆふいん財団、一般社団法人由布院温泉観光協会が担当。

【概要等】

湯布院地域では、地域の歴史資源や広大な自然資源、暮らしと身近に存在する温泉や湧水、植生などの観光資源を活かしたガイドツアープログラムを試案する取り組みが活発になってきている。昨年度は「子どもガイド養成講座」開催し、教育分野や人材育成など新たな視点の導入が目ざされつつある。大人と子どもが関わり、ふれあいを持つことで、相互に効果を生み出す人材育成に重点を絞った事業展開を行い、その効果を検証していく。

②保護者に対する説明

説明会等は特に開催せず、広報活動時に湯布院中学校、由布院小学校の PTA 会長に、事業の主旨と「ゆふいん子どもガイド養成講座・実践講座」の説明に個別訪問を行った。

③学校との連携

由布市教育委員会への広報活動の協力依頼し、由布院小学校に 180 部(5、6 年生)、湯布院中学校に 280 部(1、2、3 年生)、由布高校に 400 部(1、2、3 年生)の学級配布を行った。

④地域や観光施設との連携

エコウォーク設立準備会に一般参加者、湯布院ガイドあさぎり会、由布市商工観光課、由布院温泉観光協会・協会員などが参加することにより、各方面からの視点やアイデアの収集を行い、実施の準備作業や協力をして頂いていた。

⑤その他関連団体との連携

9 月 16、17 日のエコウォーク・ガイド技術アップ勉強会に参加した長崎県雲仙市の方に参加していただき、雲仙市で実施されているガイドの事例や経験談を話していただいた。

【指導者向け】

指導手法

2. 事業の具体的な実施方策について

2-1ガイドの募集から指導までのながれ

①ガイド要員の集めかた

子どもに対しては、上記した各学校での学級配布を行い、保護者等に対しては、湯布院地域内の朝刊(大分合同新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞)にチラシ(4400 部)を折り込むことで、広く一般の目にもふれるように広報を行い、参加させたいと思う保護者の募集をした。また、人材育成ゆふいん財団の国際交流事業の使節団 OB・OG(全 51 名)には直接郵送によるご案内、チラシ配布を行った。

②ガイド組織の作りかた

	<p>ガイドクラブなど特別な組織化は行っていない。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた</p> <p>運動会や修学旅行、遠足など 9 月、10 月の学校行事が多い時期は、教育委員会と事前相談をして実施を避けた。また、公民館事業を担っている湯布院公民館や青少年サポートセンターと事前に打ち合わせをし、子どもが関係する公民館行事や子ども会、育成会行事の日程と重複しないように調整した。また、子ども向けガイドの開発作業、検討会議が 11 月まで経過してしまった関係で、実施日を 12 月に設定している。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ</p> <p>9 月 16、17 日にエコウォーク・ガイド技術アップ勉強会で行われたプログラムの中で学んだことを活かし、ゆふいんエコウォーク設立準備会がそのプログラムの中で子どもに対しても取り入れられる要素を拾い出した。また、その成果全体を講評・アドバイスしていただくために、エコウォーク・ガイド技術アップ勉強会と同様に山田桂一郎氏を講師に選任した。</p> <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ</p> <p>他己紹介ゲームやプレゼンクイズを実施し、積極的にコミュニケーションしようとする姿勢の大切さを教え、相手の理解度を深めるための工夫をゲーム感覚で楽しく学んでもらうための工夫を行った。また、「ガイドのたね」(要素)を歩きながら発見することで、実際の現場で見つける感性を大切にし、それを伝えるメッセージを深める努力をしてもらった。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法</p> <p>指導方法の工夫は特に区別していない。年齢の上下の差があまり出ないように、低学年は保護者がフォローにつき、ワークショップ手法を取り入れながらガイドの企画を構築した。</p> <p>⑦タイプ別指導方法</p> <p>屋外において実際に大人のガイドを受けながら、子どもが発見する気づきを大切にしたい。実際のガイドを聞く過程で、ガイドの基礎技術について細かく現場で例示を受けるとともに、安全確保などについても実際の危険箇所を確認しながら子どもたちは指導を受けた。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料</p> <p>紹介したい内容を企画する時に、「クイズカード」を用意し、3 択クイズの問題と答えを書いてもらった。相手を楽しませながら伝える大切さと相手の興味を引きながら知ってもらう工夫、何より自分が紹介したいことに対して深く考えることの重要性を感じてもらった。</p>
<p>【指導者向け】 注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保</p> <p>実施する際は傷害保険に入り、参加費の費用負担の理解を求めた。定期実施の場合は、長期契約で損害賠償責任保険に入り、主催者側の過失による損害も保険の範囲に入れることが必要になる。主催者側は緊急時のやりとりや救急についても学んでおく必要があり、十分な知識と理解を持つ必要がある。日暮れ対応と危険箇所のケアや車の通らない歩道を推奨コースとして設定するなど事前の検討作業を行った。また、暗くなったら神社には行かないようにするなど、環境から感じる不安も取り除くことも配慮した。</p> <p>②お客様とのトラブル防止</p> <p>ガイドすることを忘れ、自分の興味に意識が働き、勝手に動く場面があった。ガイドで紹介するススキやドングリなどのモノも遊び道具になってしまった。ガイドとしてのマナーを徹底し、モノを使っても良いがそれらを有効に利用することを教える必要性があった。</p> <p>③大人のフォロー</p> <p>大人が気づいたことはできるだけその場で教えたり、正したりするように心がけた。特に、マナーや話し方、安全確保などについては、なぜ必要なのかをその場で教えた。ただし、「ガイドのたね」探しについては、子どもの感性で見つける純粋なモノ、場所を尊重し、あまり大人は口出しをしないようにしたが、危険箇所が潜んでいる場合は、ある程度安全が確保できる範囲で制限をするようにした。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点</p>

	<p>季節や実施日の気候を確認した。冬の季節は見所も増えるが、残雪、凍結による交通安全、歩行安全の児童・生徒への普段以上に注意が必要になる。また、実施するときの時間帯を意識し、屋外をガイドする場合に一番適した時間帯をその日に決めて、机上の講義などは時間帯を移動し、短縮するなどその日の状況にあわせて柔軟な対応をすることが必要となる。川沿い、湖沿いの道を歩行する際の安全確保が必要になり、大人のガイドなどにおいて、日ごろからよく歩くように心がけ、気がつく点をチェックして話し合っておく必要がある。</p>
<p>【児童・生徒向け】 実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー ガイド基礎講座でガイドの役割や優しくガイドする手法について考えてもらった。笑顔で、声を大きく、相手の目を見て話すという3つの重要なポイントを講義した。名札を随時つけるように呼びかけ、他己紹介ゲームで考えたニックネームを呼び名にして、大人と子どもの上下がなく、親しみやすいコミュニケーションが取れるように工夫をした。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫 大人のガイドを受けた時に自ら紹介したいと思う「カイドのたね」カードを記入してもらい、どのように紹介したらお客様にとって分かりやすく、楽しくなるかを企画シートにまとめ、それを発表する練習をした。大人がクイズや紙芝居の例示し、相手を楽しませるテクニックを学んでもらった。</p> <p>③案内するときに必要なもの 企画シートや大人のガイドを受けた時に自分が見つけて拾ったモノ(ススキ、ドングリ、木の実)など。実際のモノを見せて紹介すると伝わりやすいということを教えた。</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方 プレゼンゲームにおいて、説明と質問を繰り返す双方のコミュニケーションの大切さを講義し、大人のガイドを受けた時は積極的に質問するように促した。また、促しや繰り返し技法を使い、相手に物事を伝えるためのポイントについて解説した。</p>

【石橋記念公園】

<p>【指導者向け】 概要</p>	<p>1. 事業を実施するために必要な環境づくり</p> <p>①実施体制・組織構成、概要等 (体制・組織) 石橋記念公園・NPOかごしま探検の会「子どもガイド育成事業」代表 菅井 寛 事務局 石橋記念公園 石橋記念館内管理事務所 〒892-0812 鹿児島県鹿児島市浜町 1-3 事務局担当 田峰・末吉、かごしま探検の会 東川 隆太郎・東川 美和 (概要) (1)鹿児島県立 石橋記念公園 平成 12 年 4 月開園 〒892-0812 鹿児島県鹿児島市浜町 1-3 鹿児島県都市公園 主管:鹿児島県都市計画課 平成 18 年 4 月より指定管理者セイカスポーツセンター・南日本総合サービス・井上総合緑化建設共同事業体管理、平成 19 年 2 月「日本の歴史公園 100 選」認定、平成 19 年 4 月「かごしままちの駅」登録加入 (2)かごしま探検の会(特定非営利活動法人 まちづくりフォーラム・かごしま探検の会) 〒892-0821 鹿児島県鹿児島市名山町 3-9 「鹿児島まるごと博物館」構想をテーマに鹿児島島の魅力を再発見し、それらを、観光・教育・まちづくりに活用する活動を展開している。</p> <p>②保護者に対する説明(説明の有無、説明会など説明の形式、保護者からの意見等) 説明会としては、特別設けていないが、体験時の趣旨説明やガイド活動承諾書と勉強会等において都度、趣旨説明文書にて説明し、理解いただいている。 このほか、保護者アンケートも実施している。</p>
-----------------------	---

	<p>④地域や観光施設との連携(地域の行政、ボランティアガイド団体、住民組織やガイドする観光施設との連携の有無、連携方法、役割等)</p> <p>県観光課・観光連盟、上町維新まちづくりイベント、鹿児島市観光コンベンション協会等との広報や勉強会連携</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>指導手法</p>	<p>2. 事業の具体的な実施方策について</p> <p>2-1ガイドの募集から指導までのながれ</p> <p>①ガイド要員の集めかた(直接募集、校外学習の延長で募集など具体的な募集方法)</p> <p>本年度も引き続き「子ども学芸員」の募集を行うとともに、子どもガイド 1 期生の活動の広報を行い。本年度から「ガイド体験」という「興味はあるが活動内容がわからない。」「実際の活動に参加してみたいから決めたい。」というお子さんや、保護者のために気軽に参加いただける環境を準備した。まず、体験していただき判断していただくことを目的としますが、同時に活動内容や趣旨を事前に保護者に理解いただき、子ども自身も 1 期生の活動の輪に入り不安を取り除き、自身の力が発揮できるような環境づくりも目的とします。</p> <p>本年度も学芸員応募者、体験参加者の中から、6 名の子どもたちが「子どもガイド」としてデビューしました。</p> <p>③ガイドを行うスケジュールの組み立てかた(学校行事等との調整方法、ガイド活動しやすい日時等)</p> <p>昨年同様、第二土曜日を「勉強会」、第四土曜日を「ガイド日」として活動しておりますが、1 番は「無理をせず活動を続けていくこと」としておりますので、全て自由参加としている。必ず参加とすると負担となることや、お休みの続く子どもが参加しにくい環境を作りだすことになり、学校行事や部活動などと重なった場合は、本人や保護者の判断により、ガイド活動は、自由参加としています。このほか、体験活動やまとめ作業、イベントへのサポート参加等ありますが、全て自由参加としています。この様にすることで、中学生も部活動が無い日や、イベント等は、ガイド活動へ参加し、小学生の指導やサポートを行ってくれています。小学生だけでは、難しい活動も中学生がサポートすることで可能になり、小学生は中学生とのふれあいをとても楽しんでいますし、次の世代の子が、中学生へなったときも同じように毎回参加できないので辞めるのではなく「できるときに、できるだけ」の気持ちで継続して参加してくれると考えており、成長と共に現在、小中学生の活動が小・中・高校生の活動となり、活動の幅や内容が更に広がると考える。</p> <p>④ガイドの内容を学ぶ(学校の授業や勉強会など具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>毎月、第二土曜日に行う、職員で行うガイド基礎勉強会のほか、地域主催の歴史ウォークへの参加や、体験活動への参加を積極的に行っているほか、子どもたちの興味を引き付け、楽しみながらゲーム感覚でいくつかの間にか「歴史の学習」に導くよう指導計画を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> * シティビューを使って歴史探検 * 顔娃娃まるごと体験ツアー(シーカヤック体験・タツノオトシゴ養殖見学など) * GW石橋記念公園の石橋はどこに架けられていたの? 甲突川「五石橋めぐり」 * 上町維新まちづくりプロジェクト主催「上町歴史探訪「いにしえプロジェクト」」 * 皆既日食“西田橋の上で皆既日食を観測しよう” * かごしまマニアック歴史クイズ大会 * 「〇〇橋のここがすごい! チーム対抗! プレゼン対決」 * ガイド! レベルUPクイズ * 地図上探検 <p>⑤説明や話し方の技術を学ぶ(ガイド講習や検定、模擬ガイドなど具体的な方法、回数、講師の選任方法等)</p> <p>ガイドデビュー前の勉強会で基礎勉強会を行い、最終日にテストを行い合格したらデビューとしております。その後は、勉強会やガイド日にあわせ半年に 1 回程度、全員でガイド方法についての「意見交換」を行っています。実践が経験、成長につながりますので、たくさんのお客様をガイドできるよう広報や環境づくりに努めている。</p> <p>⑥ガイドの年齢別指導方法(小学生、中学生、高校生別での指導方法、工夫点等)</p> <p>特別、分けての指導は行っていない。わからない事は、年長者が教えたり、自分で調べる事を基本としているので、それぞれの力に合わせ、タイミングをみながら声かけを行っている。</p>

	<p>⑦タイプ別指導方法(施設案内型、屋外案内型別での指導方法、工夫点等)</p> <p>1 期生については、現在のガイド状況に合わせ、館内ガイドや園内ガイド場所を増やし活動するようにしている。</p> <p>2-2ガイド資料の作りかた</p> <p>①ガイド用の資料(資料の有無、Q&A・虎の巻・マップ・新聞雑誌記事など作成方法、工夫点等)</p> <p>各自、それぞれで調べ、まとめた文章や、地図、写真など入れたファイルを持ちガイドを実施。</p> <p>②お客様に渡す資料(資料の有無、チラシ、マップ、カード等作成方法、工夫点等)</p> <p>既存の公園リーフレット(大・小)</p>
<p>【指導者向け】</p> <p>注意事項</p>	<p>3. ガイドをする際の注意点</p> <p>①児童・生徒のガイド時の安全確保(怪我や事故などの防止方法や対処方法)</p> <p>中学生を中心とした「リーダー会」を発足。通常活動は、リーダーメンバーと職員で連携し、安全確保に努めている。イベントや勉強会等で園外にでるときは、保護者の方へサポートのお願いをしている。</p> <p>②お客様とのトラブル防止(実際にあったトラブルやその対処方法)</p> <p>特にありません。難しい質問をされる方もいますが、解らないことは「解らないので調べてお返します。」と伝え、お礼状等で回答するよう指導しています。</p> <p>③大人のフォロー(ガイドをする際の大人のフォロー体制)</p> <p>常に、付いていなくても、自分の力で解決したり、考えたりするようですので、職員はあくまでも安全確保や、写真撮影・アドバイザーとして付かず離れずの位置にいるようしている。</p> <p>④児童・生徒の安全管理上特に注意した点(観光地や観光施設の種類、立地条件など地域的要因に基づく安全管理)</p> <p>園内が広く、出入り口が何箇所もあるため、ガイドに出る度、リーダーメンバーや職員が、写真撮影を目的として必ず同行するようにしている。ガイド依頼が多い日などは、人数等の問題で付いていけないグループもありますが、お客様の大半が大人の方なので子どもたちのガイドを聞きながらも、安全面にも気遣いいただき、ご協力いただいています。</p>
<p>【児童・生徒向け】</p> <p>実践手法</p>	<p>4. ガイドの実践</p> <p>①案内のためのマナー(服装、言葉遣い等)</p> <p>明るく・元気良く・笑顔で案内しましょう。間違ったり、解らないことがあっても大丈夫です。お客様と楽しい時間が過ごせるよう。まず「自分が 1 番楽しみましょう」。丁寧な言葉遣いができるよう「自分なりに努力」してみよう。</p> <p>②案内の練習と上手に説明するための工夫。他のメンバーのガイドは進んで聞いてみよう。</p> <p>大きな声で、ゆっくりと案内しましょう。メンバーのガイドの技を盗みましょう。</p> <p>③案内するときに必要なもの(準備した持ち物等)</p> <p>帽子・ネーム・案内用ファイル・地図・</p> <p>④利用者とのコミュニケーションの取り方(質問への答え方、感想を聞く、お礼状を発送するなど工夫点)</p> <p>次の案内場所まで(史跡)の「沈黙」が課題ということで、歩きながら途中でクイズを実施。クイズをすることで、その後の会話が弾むようです。質問で、回答できなかった場合は、調べて後日、お返事する旨伝えるよう指導しています。ガイドから帰ると必ず、応えられなかった質問の報告をさせ、メンバー同志教えあったり、一緒に調べたりし、お礼状等を利用し回答している。(メンバーには、回答を渡し、共通理解するようしている。)毎回、お礼状をガイドした本人が手書きしている。ガイド中の楽しかったことや、教えていただいたことのお礼の言葉が書かれています。このお礼状は、大変喜ばれ、お礼状にお礼状の返事が届いたりと交流が続いています。最近では、お互いの地域のお土産や観光スポットの話等をしたりしながら交流しているメンバーもおります。</p>

児童・生徒によるボランティアガイド普及促進モデル事業 報告シート -3-

【松前】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果 地域の歴史や文化に触れ学び地域力が高まり、郷土に誇りを持って町の魅力を自らの言葉で語れるようになった。また、多様なボランティア活動にも積極的に参加するなど、地域社会の一員としての自覚を持つようになった。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果 児童・生徒の社会貢献によって、地域の理解が深まり、学校と地域の間で様々な連携が見られるようになった。例えば、生徒が作成した「貼り絵」を観光PR用に「道の駅」で展示したり、観光事業者が主体となって「おもてなし講習会」を開催するなど、観光ホスピタリティの醸成に向けた取り組みが、地域全体で見られるようになった。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果 将来の観光地域づくりを担う人材の育成に貢献するものと期待されることから、新たに「観光地域づくりマネジメント部会」を設置し、地域の人材を掘り起こすための支援体制を構築した。</p> <p>④今後の課題 生徒会執行部でトライアル的に実施してきたが、児童・生徒への普及には、学校の教育課程(校内指導)または課外活動など、学校の方針(指導体制)が課題となります。また、他校との交流やスキルアップ講習など、ガイド研修に必要な財源確保も継続的な取り組みを行っていくうえで重要な課題です。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点 児童・生徒の安全確保及び学校行事の調整など、学校との連絡体制が重要となります。また、観光事業者、学校教育、行政機関等が相互に補完・連携して、地域の理解を深めることも必要です。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス 郷土を自慢し誇れる心情を育むことは、将来の観光地域づくりを担う人材の育成に貢献するとともに、将来は地域の広告塔として、地域の宣伝にも大きな役割を果たすなど、地域の活性化に様々な波及効果をもたらします。ボランティアガイドを進めるにあたっては、学校と地域との連携体制を構築し、学校の「総合的な学習の時間」ともリンクさせながら教育的な効果を高めていくことが必要です。</p>

【弟子屈】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果 ・他者とのコミュニケーション、プレゼンテーション能力の向上</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果 ・学校行事(文化祭や参観授業)において、ガイドに参加した子どもが、多人数を前に堂々と立ち振舞っていると、上記①に関する声が聞かれた。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果 ・ガイドの対象となった来訪者からは好評であり、満足度の向上に貢献できた。</p> <p>④今後の課題 ・参加人数が少ない。 ・「よそのお客様にガイド」が子どもたちにとってハードルが高く、参加動機へと結びついていないようである。 ・「体験→ガイド」というプロセス ・学校との連携(公募でのグループとは違った動きが期待できる)</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点 ・町内の小中学校数校に、総合的な学習の時間における取り組みとして提案をしている。</p>

	<p>→特に、来年度の修学旅行で札幌駅構内において、地域のPR活動をする予定の中学校からは、ガイド活動に関する出前授業を依頼されている。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>・(アドバイスではなく、感じていることですが)地域のふるさと学習という視点から、「ガイド」ありきではなく、ガイドの土台となる「体験」が必要不可欠であると考えています。この土台作りと子どもたちのガイドへのモチベーション作りが重要なのだと思います。</p>
--	---

【海星学院】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>ボランティアを通して、生徒自身が外国人の方へ英語で完璧におもてなしができなかったことを痛感し、普段、学校で学んでいる英語により力を入れるようになった。しかし、英語を使うこと自体には、特に抵抗があるわけではなかったため、生徒自身が、英語を使って、このグローバル化していく社会で何をしていくべきかを考える良い機会となった。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>5年間継続してボランティア活動をする事によって、地域の方からも本校の取組みを、高く評価していただけるようになった。通訳ボランティアの活動を通して市内のさまざまな業種のかたがたとの関わりを持つことができ、生徒が自分たちのあるべき姿を自覚するとともに将来への視野を広げることができた。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>学校として国際理解教育の大きな柱となり、学校の教育方針を示す際の具体的な取組みの一例となった。新聞や室蘭市の広報にも毎年掲載され、学校の取組みを地域の方に知っていただく大きなチャンスとなった。</p> <p>④今後の課題</p> <p>一番にあげられるのが、生徒の英語力の向上である。特に一緒に活動をしている一般の方からの期待が年々高まってきている。しかし、それをあまりにも過大に考えることなく、あくまでもおもてなしの心を最優先に考えたボランティア活動を今後もしていくことが大切であると考えている。</p>
	<p>6. その他</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>まず、ボランティアをする生徒はもちろんですが、それを計画するスタッフ(教員)自体もボランティア活動を楽しむことが大切です。実施する日までの準備段階でかなりスタッフ(教員)の負担も大きくなります。しかし、あくまでもすべてがボランティア活動だから、当日はもちろん、準備の段階から楽しむこと。そして、当日は、思いもよらぬことが起こっても、その場その場で臨機応変に対応するように心がけ、現場が緊張した雰囲気にならないようにするようにスタッフ(教員)も余裕をもって取り組むことが大切です。</p>

【八戸】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>生徒たちは、ガイドという見ず知らずの人との交流ということで、最初はとまどいもあったが、授業とは違いこれが正解というのがない分、自分たちなりにどうすればお客様にうまく伝え、喜んでもらえるかということを中心に考えるようになり、回を重ねるごとにお客様とのコミュニケーションがうまくなって、ガイドとして確実に、そして急速に成長している姿が、スタッフ側で見ても強く実感できた。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>受入施設の山の楽校をはじめとする地域の方々、学校、保護者とも子どもたちの成長につながるという意味から本事業の趣旨を十分理解していただき、子どもたちの送迎や事業での安全管理などあらゆる面ですべての人たちが、全面的なバックアップをしてくれた。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p>
--	---

	<p>誘客に直接つながるとまではいかなかったが、市民一人ひとりが観光案内人としてその人材を育てる事業を進めている当協会としては大変有意義であると感じた。また子どもたちの素直で高い向上心のある姿勢からも、お客様に喜んでもらえるのはガイドする技術ではなく、本心で知ってほしい、喜んでほしいという気持ちが第一であるということをお自身自身が学んだような気がした。</p> <p>④今後の課題</p> <p>学校、受入施設、保護者すべての理解がないと、事業はうまく進まないと感じる。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>子どもたちのガイド料を設定すべきか協議が必要。(山の楽校では生徒のガイド実施日も限られており、ガイド料は設定していない)</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>観光振興というよりは観光を切り口にした人材育成ととらえ、対価や収益を見込むのではなく、地域全体で子どもたちを育て、その成長を見て達成感を感じるという考え方でやっていかないと、学校側、地域とも連携して事業が実施できないように感じる。理屈やマニュアルも必要だが、いろんな人とふれあうことでどうすればいいかということを自主的に考えるので、いかに多くの人に触れ経験を積んだかで、子どもたちの成長の度合いが大きくなるように感じる。</p>

【日本橋】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>生徒がコースなどを企画した観光めぐりのため、学区付近の地域の観光資源を調査し、地域への理解が深まるとともに郷土愛の醸成ができた。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>生徒主導の地域活性化活動は、地域の企業や団体に受け入れられ、事業所からの説明を得るなどの協力を受けることができた。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>江戸日本橋観光めぐり事務局が日本橋女学館と協働してモデル事業を実施していることを、参加者や地域企業や団体にPRする良い機会となった。</p> <p>④今後の課題</p> <p>実費負担の場合、質の高さは大きな問題とならないが、活動を持続的に継続するため最低限の参加費を徴収する際は、ボランティアガイドの質を高め、参加者の満足度を高めることが必要となる。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>学生ボランティアガイドの取組みは、注目度が高いため、今後も地域活性化活動として地域団体と連携することが重要である。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>中・高校でのガイド事業は教員達への不可がかかるが、今回実際に地域と連携した観光めぐりを実施すると、参加者や地域の事業所からの期待が大きいことがわかった。観光めぐりを実施する際は、主催団体と、指導育成する地域団体、地域の事業所と役割分担し、連携しながら実施することが重要である。</p>

【佐渡市小木中学校】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>まず、ふるさとに誇りをもつことがあげられる。事業終了後、参加者にアンケートを行った結果、その96%が、「ふるさとを自慢できる」と回答している。ボランティアガイド経験者は、現地でのガイドを通して宿根木の歴史的な価値を理解し、観光客から宿根木や小木のよさを、新ためて気付かされたと考えられる。次に生徒</p>
--	---

	<p>が表現力の向上を実感したことがあげられる。今年初めてガイドに参加した生徒は、ガイドを通してコミュニケーションの力が付いたと100%の生徒が実感している。目を見て話したり、自分なりに工夫したりして、説明することができるようになった生徒の割合が多くなった。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>地域住民からは「高齢化が進みさびれていく集落に刺激を与えてくれた。」「私たちの住んでいるところが、生徒の活動を通して紹介され有名になることはうれしい。」などの声が寄せられ、活動への理解が深まってきた。地域住民が、集落の価値や意義を改めて気付いてきている。そして、新たに喫茶店や食事処が開店するなど、地域の活性化にも貢献している。また、多くの地域住民からサポーターとして生徒の安全を見守っていただくなど、活動を支える体制が構築されてきた。保護者には、この活動の意義や教育的なねらいを含め、学校だよりなどで示すことで理解が深まってきた。PTAだよりへの寄稿文などで非常に好意的な感想が書かれ、生徒の送迎にも協力的である。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>観光客の反応やマスコミの取材等を通して、自分の住む地域に対する誇りをもつことができた生徒は多い。また、観光客との応対を通して、大きな声でのあいさつや正しい言葉遣いなど、基本的な生活習慣を学ぶ場としても大変貴重である。場面に応じて来客等の外部の人に対してしっかりと対応している姿が目につく。</p> <p>④今後の課題</p> <p>この活動は佐渡島内だけでなく、県内外から取材や表彰等が相次ぎ、もはや学校の一活動でなく、地域に対してある程度の責任が生じている状況である。今後当分の間は継続させる必要があり、部員確保が最大の課題である。現在、入部希望者は十分にあるが、生徒数減少を見越して、卒業生にも参加呼びかけを継続していく必要がある。同時にますます膨らむ地域の期待に応えられるよう、活動の質の向上にも努めていかなければならない。</p>
	<p>6. その他</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>本事業が今のところ順調に推移しているのは、参加生徒の負担にならず、参加して楽しみや充実感が得られる点が大きいと思われる。いざ取組みを始めるとなると、あれもこれもとついつい欲張りがちになるが、まずは生徒の視点まで降りていき、「参加したくなる活動」を目指すのが肝要である。軌道に乗ればさらによいものを求める機運が自然に現れるはずである。</p>

【新潟市ビープロデュース】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>小木中の宿根木ガイドを見学したあと、より自分たちのガイドへの取組みに対して、意欲的に取り組むようになり、さらにガイド内容においても、佐渡研修の内容を織り込むなど、自分たちのガイド学習への考えが前向きになり、楽しむようになってきた。(生徒の振り返りシート参照)</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>生徒のガイド意欲が高まることで、ガイド学習の真剣さが伝わり、より協力体制をとるようになった。具体的に…シティガイドさんが、ボランティアで観客として参加してくれるなど。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>学校との連携がより深まり、休み期間を利用した学習・校外学習に対しても、担当教諭が必ず引率・参加するなど、より生徒たちが取り組みやすい環境づくりができた。例)8月5日 名古屋より来県の名古屋環境探検隊(名古屋教育委員会主催の小中学生の団体)に対しての、歓迎として展望室パノラマガイドを実施。その企画主催も担当教諭が実施。</p> <p>④今後の課題</p> <p>新潟市内でも、中学生のボランティアガイドの重要性が認知され始め、各種方面より依頼があった場合の対応、受け口が課題となっている。学校側が主体となっていくのがベストであるが、学校負担がかなり大きく、</p>
--	---

	<p>どのような形で継続していくかも課題である。現在は、総合学習として行っているが、中には人前で話すのが苦手な生徒もいる。今回の事業、佐渡汽船内での発表や研修に関しては、希望者・有志が実施したため、参加生徒もやる気を持っておこない、発表も大変すばらしいものであったが、総合学習として今後継続していく場合は、前述の苦手な生徒の対応も考える必要がある。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>あくまでも生徒が自主的に行えるような環境にできるよう、佐渡への研修など実際に自分たちの目でみる、足で回る、という体験を今回実施でき、今後継続していく上で大きな成果があったと思う。また、手本となる小木中のガイド見学を本事業にて見学できたことで、宮浦中学校の生徒それぞれが、独自のスタイル、やりやすさを見出せたと思う。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>前述のとおり、押し付けの学習ではなく、生徒が自主的におこなえる環境づくりが必要となると考えられる。また、今回の事業で行えたような、手本となる団体の見学も必要かと思われる。</p>

【原村】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>来訪者に伝える目的で子どもたち自ら地域の「いいところ(良いところ)」を見つけるところから、子どもたちが話し合いを展開し、ガイドするに至る間、1人ひとりの成長が顕著であった。原村の好きなところ、いいところというプラスの見方をすることでより前向きになった。テレビやゲーム、ネット社会に育つ子どもたちだが、人に対して直接対話することの温かさや楽しさを実感し、充実感を得た様だ。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>地域へ活動を周知することが難しく、特段の反応は無かった。実際のガイドする様子を参観された保護者の皆さんは普段より成長したわが子に驚いたようだった。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>普段当団体が活動の基礎にしている、子どもを信頼し尊重することで主体性や自主性を育てていくことの大切さを再認識した。</p> <p>④今後の課題</p> <p>明確な目的の設定が必要。当組織と村が協働で行った事業であったが、ガイドを必要とする場面を探しにくかった。今後の継続を考えると、他団体特に観光関連団体と一緒に取り組む必要を感じる。大人も子どもも忙しい現状、いかに地域の認識を高め、活動人員や、活動時間を確保できるかが課題。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>訪れただけでなく住みたい地域となるよう、兼ねてから行政が行っている移住希望者向けの現地見学会でガイドを行った折、通学や学校、気候についての質問を多数いただいた。正直に素直な対応をした子どもたちの回答は貴重な暮らしのアドバイスになったようである。観光立国推進基本法理念にもある「住んでよし、訪れてよしの国づくり」の一助となった。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>多くが観光資源など無いと思っている原村の「いいところ」を子どもたちが見つけ出し案内したことは、単に観光案内事業にとどまらず、地域づくりの一端として来訪者だけでなく地域へもその良さを発信し、共有できたよい機会となった。地域の住民が誇りと愛着を持つことができる活力に満ちた地域社会実現に寄与した。</p>

【多治見】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>地元の産業、文化、歴史について学校で学んだものと生活の中の事柄が繋がっていることに直面した。ま</p>
--	--

	<p>た受け継いでいくことの大切さを感じた。今回、世代が離れた団体の事業であったので、上の世代からは基礎能力の鍛錬不足を感じるという感想が多く寄せられたが、若い世代からは説明が難しかったが、「内容はよくわからなくても教えてくれるガイドさんが一生懸命なので自分たちも教わるという気持ちになる。」という声もあった。普段の生活圏外の人と交流することからコミュニケーション力を付けていく1歩となる事を感じた。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>子ども同様保護者にも、地元の歴史、文化に(直接興味が無ければ)深く学習する機会がないので(都市のベッドタウン化しているため、地域の知識も少ない方が多い)一緒に興味を持ち参加希望者が出てきた。活動に賛同いただき参加にも協力的だった。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>観光ボランティアガイドの高齢化、新規加入者の高齢化といった問題から、ボーイスカウトという子ども団体と連携することにより知識の伝承、活動の共有を意識することができた。また世代間の考え方、受け止め方の違いを双方確認しあう事ができ普段の活動にはない刺激を受けた。今回の経験をふまえ 子ども達に伝えていくことには、予想以上に時間がかかる事を実感した。教育観光としてガイドをする場合、年齢、生活環境を深く考慮しより噛み砕いた知識でのガイドが必要である。今回はこうした活動のきっかけであり、今後継続していくにはどうしたら良いかということボランティアガイド、ボーイスカウトの指導者双方同じ認識で話し合う事ができた。</p> <p>④今後の課題</p> <p>取り組み期間が5ヶ月しかなく、活動時間の調整が大変だったが、今後の目標が互いにできた。2015年にはボースカウトの世界大会が日本で開催されるのでその受け入れ準備も兼ねて年間活動計画に観光ボランティアガイドの育成事業を盛り込んでいく。英語を中心に海外からの訪問者への対応も取り組む。今回は小中学生を中心に行なったが高校生まで広げたものにしていく。英語版、中国語版、韓国語版のパンフレットを市(行政)が制作しているが、予算的に毎年増刷はできないとのことなので、民間の語学ボランティアに声をかけて一緒に活動していくことも必要だ。観光ボランティアガイドは後継者育成を念頭に子ども達と時間をかけて活動を共にする。またこういった取り組みを地域社会に発信し観光が身近なもうひとつの産業に成りつつあるということを知っていただくことが必要。活動を知ってもらいガイドをする子ども等の存在をアピールし、その事が子ども達に自発的な取り組み、やる気をおこさせ、行動の活性化となる。そういった面での支援も多いに必要だ。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>子ども達に活動報告書あるいは活動日記様のものを必ず付けさせたい。そこに必ず気付きがある。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>ふるさと意識はじめ子ども達にとって、取り組みはプラス面が多い。学校単位で取り組みれば時間的な問題は少なく済むと思うが、できれば異学年であったり、学校枠をなくしたグループで活動させることが、活動範囲が小さな現在の子供達にはより成長を促せられると思う。(そこには良い指導者の存在が不可欠です。)</p> <p>普段の生活圏外の人と交わる楽しさを実感することでコミュニケーション力を育み、子ども達自身がより楽しく観光できる人となっていくと思います。</p>

【南知多町】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>知らなかった地域の歴史や史跡を再認識し、ふるさとを愛する気持ちが芽生えたように感じた。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>児童・生徒がボランティアガイド講習に参加することにより、保護者や地域社会、教師なども協力時に見守ってくれた。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p>
--	--

	<p>「おかみ会」によるボランティアガイドもガイド内容を深めることができ、児童生徒との親しみが深まった。</p> <p>④今後の課題</p> <p>今後、いかに継続していくか検討する必要がある。</p> <p>「おかみ会」が依頼を受けてガイドするときに、児童・生徒も同行し1か所でもいいから得意な場所をガイドしてもらい、自信をつけるようにし、ボランティアガイドの育成を図</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>毎年事業を実施するなどしなければ、ボランティアガイドが育たないと思われる。</p>

【石川県夕日寺】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>ガイドした児童は当日の欠席もあり7名となった。終了後の児童の表情から、主体的に関わることが達成され、とても満足していました。児童が自ら企画実施した自然体験活動「自然と遊ぼう」では、その活動の目的である「参加した人に、自然を好きになってもらうこと」を意識して、実践することができました。実践後のふりかえりでは、お客様の前で話をする時に気をつけることは？の問いかけに対し、「ゆっくり分かりやすく」「興味をもってくれるように話す」など、お客様の視点にたった意見が出されました。また、ガイドのあり方について感じたことは？の問いかけでは、「気持ちを込めて」、「挨拶や態度が大事」ということを実感したという意見が述べられました。今後もこのようなことを継続して行いたいという意見もだされ、児童にとっても意義のある活動であったことが大きな成果でした。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>保護者との関わりでは、保護者の理解を得て活動へ参加してもらうことで協力体制ができたことが大きな成果となりました。保護者自身もボランティア活動がとても楽しい時間となり、今後も協力してくれる信頼関係ができました。地域との関わりでは、学校との連携がスムーズに行われ信頼関係を築くことができたことが成果となりました。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>外部の指導者との連携によって運営スタッフとなり事業運営できたことで、共働事業のモデルができたことが取組みの成果となりました。</p> <p>④今後の課題</p> <p>今後の課題は、次年度、中学生となった彼らが継続して活動できる環境・機会づくりができるか、関係機関（中学校やクラブ部活動など）との調整が大きな鍵となると思われます。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>従来の自然解説型の自然ガイドではなく、自然体験活動を主とした参加者主体のプログラムへのニーズがあるのではないかと取り組んできました。今回ガイドを行った児童は、これまでの自らの体験・経験をもとに、自分たちが企画実施する自然体験活動となりました。実施にあたり、児童が大切にすることが、参加したお客様にどうなって欲しいかという、活動の「成果目標」を設定したことです。目標をしっかりと認識し、その為に参加者には何を体験させてあげたら良いのか、知恵を出しあいました。当日は北陸地方という地域から、荒天や降雪量に気をもみ、その場合の対応をどうするか、児童は話しあいましたが、結局は天だのみすることになってしまいました。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>ガイド資料を大人が作り、児童がそれを覚えてガイドに臨むという方法をとらないこととしました。一般的ガイドスタイルとは違いましたが、児童が自発的に取り組むことを優先し、児童が自分の力を試す機会を作ることとしました。その力を信じて全て任せることにしました。ただし、会議のファシリテーターは運営スタッフの大人が行いました。運営スタッフと児童との信頼関係があってこそ実現できたのではないかと考えます。</p>

【湖北町】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客に直に接し、わかりやすく自分の言葉で説明するというガイド活動は、「コミュニケーション能力(話す力)」を培う上で有効な手法である。初めは躊躇していた子どもたちだが、賞賛の言葉を受け、自信を持ち、みるみる積極的な姿勢に変わっていった。 ・人に喜んでもらえる喜び、人の役に立てる喜びが自信へとつながり、自己有用感へと高まりを見せた。また、あらためてふるさと地域のよさを実感することに結びついた。 <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものガイド活動をととして、今まで気づかなかった(知らなかった)湖北町のよさに気づかされた。 ・ガイド活動により子どもが積極的になり、人前でも物怖じしないで堂々と発表する姿に驚いている親もいる。(子どもの変容) <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで町内全体で積み上げてきている“学校と地域の連携”“地域に根ざす教育”にいつそう弾みがついた。「コミュニケーション能力(話す力)」の高まりをめざす上で有効な手法である。 <p>④今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取り組みとしては、休日に多く訪れる観光客に合わせて、ガイド活動の日や時間を設定することが難しい。 ・新型インフルエンザの流行により、子どもが長期に渡って休んだり学級閉鎖や休校措置により学習を計画的に進めなかったりして、予定を変更せざるを得なかった。新型インフルエンザ感染拡大の影響は避けがたいものであり、今後も引き続いて心配することである。
	<p>6. その他</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民による観光ボランティア組織とタイアップして、この事業に取り組むとよいのではないかと。

【鳥羽(有)オズ】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住んでいる地域の良さを人に伝える為に、調査などを行う事で、菅島の良さを再認識することができた。 ・ガイドやお客様という島外の人との出会い、コミュニケーションを通して、他人への接し方や、自分の考えを人に伝えるという事の大切さを学習することができた。 <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の子ども達が、お客様をご案内する為に調査段階から知識や資料の提供をしてもらった。そうすることで、ガイドをする子ども達だけではなく、地域住民や保護者の方も一緒に地域の良さを再認識でき、地域内でのつながりがより深くなった。 <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達を指導することで、地域住民との距離が縮まり、地域の人々にさらに受け入れてもらえるようになった。 <p>④今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任の先生が代わる事で、子ども達に対する指導内容や気持ちの持っていく方が違ってくる。何ヵ年にも渡って活動を行う為には、先生の資質だけに頼らず、育成の仕組みを地域に応じてマニュアル化することも検討課題のひとつであると思われる。
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p>

	<p>・現在モデルケース的に行っているため、教育、環境、観光の全ての分野に対して情報が発信されている。そのため、興味を持つ教育関係者や地域からの問い合わせが増えている。その対応する窓口になりうる機関が適切なプレゼンテーションを行えることが、日本全国に子どもガイドボランティアを広めていくことにつながると思われる。私たちの場合は、実施主体である海島遊民くらはもちろんのこと、学校の先生方も自主的に委員会を作り、プレゼンテーションを行える準備が整っている。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>・子どもガイドボランティアを育成する為には、学校、地域、プロガイドの連携が必要だと思われる。上記三者が、取組み地域に応じた資金、スキル、協力体制の仕組みづくりを行うことで活動を続けていけるのではないかと思う。</p>
--	---

【加西市】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>本事業で新たなガイド案内書を作成し、今まで以上にお客様に喜んでいただけるよう現在、本番に向けて特訓中です。新たなガイド案内書には、ガイドの順番が一目で分かる地図を入れたり、ガイドをする際のポイントを入れるなど、生徒の目線に沿ったものに改良した結果、生徒からも見やすいという声が挙がっています。本事業を契機に、ガイド範囲の拡大を目指します。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>本事業で採択されたことにより、改めて小学生「ガイド隊」に対する保護者の理解や、わが町に対する地域住民の愛着も少しずつ増えつつあります。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>今後の地域の担い手である小学生が、自分の地域の歴史に興味を持ち、積極的にガイドとして取り組む姿勢は非常に重要であると本事業の取組みを通じて、再認識することが出来ました。</p> <p>④今後の課題</p> <p>現在は、6年生のみがガイドを行っていますが、4年生・5年生更には、中学生になってもガイドが出来るような体制作り。「ガイド隊」を今以上に広く外部に宣伝できるような学校・保護者の理解増。ガイド範囲の拡大</p>
	<p>6. その他</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>児童・生徒によるボランティアガイドを推進するにあたり、学校の理解は勿論ですが、地域をよく知る住民組織との連携が不可欠と考えます。学校や行政だけの支援では、継続して出来ない可能性がありますので、いかに、地域をよく知る住民組織と一緒に児童・生徒のボランティアガイドの活動を支援していくかが、ポイントになると思います。当市では、小学校区内にある住民組織が学校側と一緒に、校外活動の一環として地域の歴史学習活動などを積極的に行っています。</p>

【湯布院】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>○子どもの観察力や考えている視点を知ることができ、大人のガイドにも参考になるようなガイド要素を見つけ出すことができた(普段、大人では気がつかないようなこと)。</p> <p>○今回の取り組みのおかげで、参加した子どもの主体性を活かしたプログラムをつくることができた。「子どもの能力は無限にある」ということを痛感したので、今後も様々な形式の企画を試していきたい。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>○湯布院、地域、自然、子どもの目線など、知恵や知識を出し合う過程で様々な再発見をすることができた。何より、講座を開催すること自体が大きな成果。</p> <p>○地域の様々な分野(自然、農業、産業、暮らし・・・)に興味を持つきっかけとなった。自分たちが暮らすまちに対して関心や興味を持つようになり、自己啓発につながった。</p>
--	--

	<p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>○様々な主体が入ったことによって人の輪が広がった。あさぎりの会の皆さんのように、意外と知らなかったまちの専門家に出会えた。</p> <p>○「地域を知る」というテーマ性を持つことによって多世代交流ができた。今回の検討メンバーの参加を継続させ、実際にガイドをしている方、あるテーマに関する精通者、専門家、経験者などを交え、異業種の方や様々な人を巻き込んで検討することができるという。</p> <p>④今後の課題</p> <p>○人集めがとても重要。参加者が集まりやすい時期や方法を考え、天気や気候に気を配って、屋外の場合は実施時期を検討したい。今回の成果を外部に対して広く報告していきたい。その情報を本当に興味のある子どもにしっかりと届けることが今後重要となる。</p> <p>○短期間で、勉強し、研究してすぐにガイドをする形式は、少しハードに感じた。もう少し長期間に渡って分散して開催できると良い。子どもの得意な手法に併せて、表現手法を考えても良い。他の地域の子どもと地元の子どもが交流するようなガイドツアーなどを企画してみたい。経費面で、子どもガイドの育成の経費をどう捻出していくかが課題。</p>
	<p>6. その他</p> <p>①その他特筆、留意すべき点</p> <p>○子どもに限らず、大人に対しても地元を知る機会をつくっていくことが必要。そういった講座を開催することは有意義で、大人は地域の歴史等の講座、子どもに対しては様々な機会をつくって、現在の子ども達を引っ張り出す事が必要(学校教育以外で、もっと地域へ)。</p> <p>○ガイドに限らず、大人と子どもの混成チームで何かしてみるのも良いのでは？様々な方を巻き込むことと、そのために実施主体側はとにかく動いて、様々な情報を集める事が大切。</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>○実践あるのみで自ら学び、自ら育つという視点から、自分が話すこと。他の人のやりとりが刺激になり目標にもなっていくので、そういった場を増やし、成長していく事が重要。</p> <p>○「あせらない」というスタンスが必要。「楽しい事」というのが前提条件になる。特に子どもの対応では、あせらないことが重要になる。対象年齢を設定し、その年齢にあった目標を掲げた上で、しっかりと成果を出していくことが大切になる。</p>

【石橋記念公園】

	<p>5. 成果・課題</p> <p>①児童・生徒に見る取組みの成果</p> <p>活動2年目に入り、活動に余裕がみられる。特に中学生は2期生や年少者への気遣い配慮など態度や言葉に変化が大きくみられる。また中学生を中心とした「リーダー会」を発足させ、イベント計画や勉強会の内容についてリーダー会のメンバーに相談しながら進めることにしたところ更に変化がみられる。また6年生は二学期後半から、中学生になるに向けてリーダー会へ参加し一緒に加わることとし、年少者メンバーも順次責任のある立場へなることの意識付けを行ったところ、年少者の発言に変化がみられ、年長者として認めながら、親交が更に深まったよう感じられる。</p> <p>②地域社会や保護者に見る取組みの成果</p> <p>周辺町内会や各団体等に勉強会や広報等ご協力いただき、子どもたちに多くの経験をさせていただいた。今後も連携を図り、より良い環境が作れるよう努めたい。</p> <p>保護者の皆様には、活動方針・趣旨をご理解いただき、常にご協力いただいている。子どもたちの「やる気」はもとより、大切なことは保護者の皆様のご協力・ご理解があり成り立つ事業と感じている。</p> <p>③実施主体が得た取組みの成果</p> <p>子どもガイドや学芸員の活動を通し、マスコミ等に取り上げていただくことが多くなり、公園PR・利用促進に大きな効果をもたらしている。</p>
--	---

	<p>④今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの成長に合わせた(1 期生・2 期生の理解度に応じた)勉強会の実施とガイド時における安全確保 ・ 1・2 期生に続く後継者確保
	<p>6. その他</p> <p>②取組みを考えている地域へのアドバイス</p> <p>まず、子どもたちがこれなら自分にも「やれる・やってみたい」と思える仕掛けと保護者の協力と定期的な活動実施。</p>